

令和5年度

都筑区区民意識調査

報告書



都 筑 区

令和5年12月

都筑区役所

はじめに

都筑区は、平成6年11月6日に港北区と緑区の再編成により誕生し、誕生当時約11万人であった人口は、現在は約21万人を擁するまでになりました。都筑区は令和6年11月に区制施行30周年を迎え、令和7年3月には都筑区民文化センターの開所を予定しており、発展・変化を続けるまちです。

都筑区役所では令和5年度運営方針の基本目標に、「つながり」「活力と魅力」「安心」を実感できるまち、ふるさと都筑 ～子育てしたいまち 次世代を共に育むまち 都筑区～」を掲げています。自治会町内会や団体、企業、大学等の皆様と協働・共創しながら、区民の皆様が愛着のある「ふるさと都筑」を実感でき、夢や希望にあふれた「明日をひらく都市」となるよう、区一丸となって取組を進めています。

このたび、区民の皆さまの生活意識と生活行動を把握し、区政運営に生かすことを目的に、本調査を実施しました。

調査項目は、居留意向などの基礎データのほか、「子ども・子育て支援」、「災害対策」、「自治会町内会活動」、「地域での支え合い」等について伺いました。また、より簡便に回答できるよう、新たにインターネット調査を実施しました。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました多くの区民の皆さまに、厚く御礼申し上げます。また、この調査報告書を、都筑区と区民の皆さまの発展のために、幅広く活用していただければ幸いです。

令和5年12月

横浜市都筑区役所

目 次

I. 調査概要	- 1 -
(1) 調査目的	- 1 -
(2) 実施概要	- 1 -
(3) 回収結果	- 1 -
(4) 報告書の見方	- 1 -
(5) 地区区分	- 2 -
II. 調査結果	- 4 -
1. 回答者の属性	- 4 -
(1)性別	- 4 -
(2)年代	- 4 -
(3)居住地	- 5 -
(4)最寄り駅	- 6 -
(5)家族形態	- 7 -
(6)同居家族	- 9 -
(7)就労状況	- 11 -
2. 都筑区に対する居留意向について	- 12 -
(1)居住開始時期	- 12 -
(2)住まいの形態	- 14 -
(3)都筑区に来る前の居住地と都筑区を選択理由	- 16 -
(4)居留意向と住み続けたい理由	- 19 -
3. 通勤・通学の状況	- 23 -
(1)職場・学校の所在地	- 23 -
(2)通勤・通学の交通手段	- 25 -
(3)通勤・通学にかかる時間	- 27 -
4. 地域での日頃の生活	- 29 -
(1)自治会・町内会への加入	- 29 -
(2)自治会・町内会に期待する取組	- 34 -
(3)隣近所に住んでいる人を知っているか	- 36 -
(4)近所付き合い	- 40 -
(5)地域の助け合い	- 44 -
(6)地域情報の入手と情報発信手段	- 45 -
(7)地域活動への関心	- 48 -
5. 生活環境の重要度・満足度	- 51 -
(1)生活環境の重要度	- 51 -
(2)生活環境の満足度	- 52 -
(3)自慢できる都筑区の魅力	- 60 -

6. 災害対策	- 61 -
(1)災害に関する情報入手手段	- 61 -
(2)地震や風水害への備え	- 63 -
(3)災害時要援護者の同居の有無	- 65 -
(4)災害発生時の災害時要援護者への対応	- 66 -
7. 健康づくり	- 67 -
(1)1日2回以上、主食・主菜・副菜すべてを食べる日数	- 67 -
(2)「息がはずみ汗をかく程度」の運動を、1回30分以上、週に2回以上行っているか	- 68 -
(3)歯科健診の受診	- 69 -
(4)がん健診の受診	- 70 -
(5)都筑野菜の購入経験	- 72 -
(6)都筑野菜の購入場所	- 74 -
8. 子ども・子育て支援	- 77 -
(1)子育ての経験	- 77 -
(2)子育てに役立つ情報	- 79 -
(3)子育てにあたってあるとよい取組	- 83 -
(4)子どもに関する居場所・施設について、あるとよい取組	- 86 -
9. 障害児・者理解	- 90 -
(1)障害児・者と交流する機会の有無	- 90 -
(2)障害理解のためのイベントや啓発活動への参加	- 91 -
(3)参加したイベント	- 92 -
(4)参加しなかった理由	- 94 -
10. 高齢者支援	- 95 -
(1)高齢者の生活で特に不安なこと	- 95 -
(2)高齢者に必要な支援や取組	- 98 -
調査票	- 101 -

I. 調査概要

(1) 調査目的

区民の生活意識や生活行動を明らかにし、区政の運営や政策立案の基礎資料として活用するため、区民意識調査を実施した。

(2) 実施概要

■調査実施期間

令和5年5月24日(水)～6月20日(火)

■調査対象

都筑区内に在住する18歳以上の男女個人(外国人市民を含む無作為抽出)3,000人

■調査方法

郵送調査(郵送で調査票を送り、郵送で回答する)

インターネット調査(郵送で調査票を送り、インターネット上で回答する)

■調査内容

調査票別添(101頁～)

(3) 回収結果

■配布件数 :3,000件

■総回収数 :1,817件

■有効回収数:1,817件

■有効回収率: 60.6%

(4) 報告書の見方

①回答比率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても、100%にならない場合がある。

②設問によっては、複数回答の結果、回答比率の合計が100%を超える場合がある。

③グラフに表記される「n=*」(*は数字)は、対象の母数を表す。

④グラフや表の中での選択肢の文章が長い場合は、簡略化して表現しているため、アンケート調査票の文章とは一致していない場合がある。

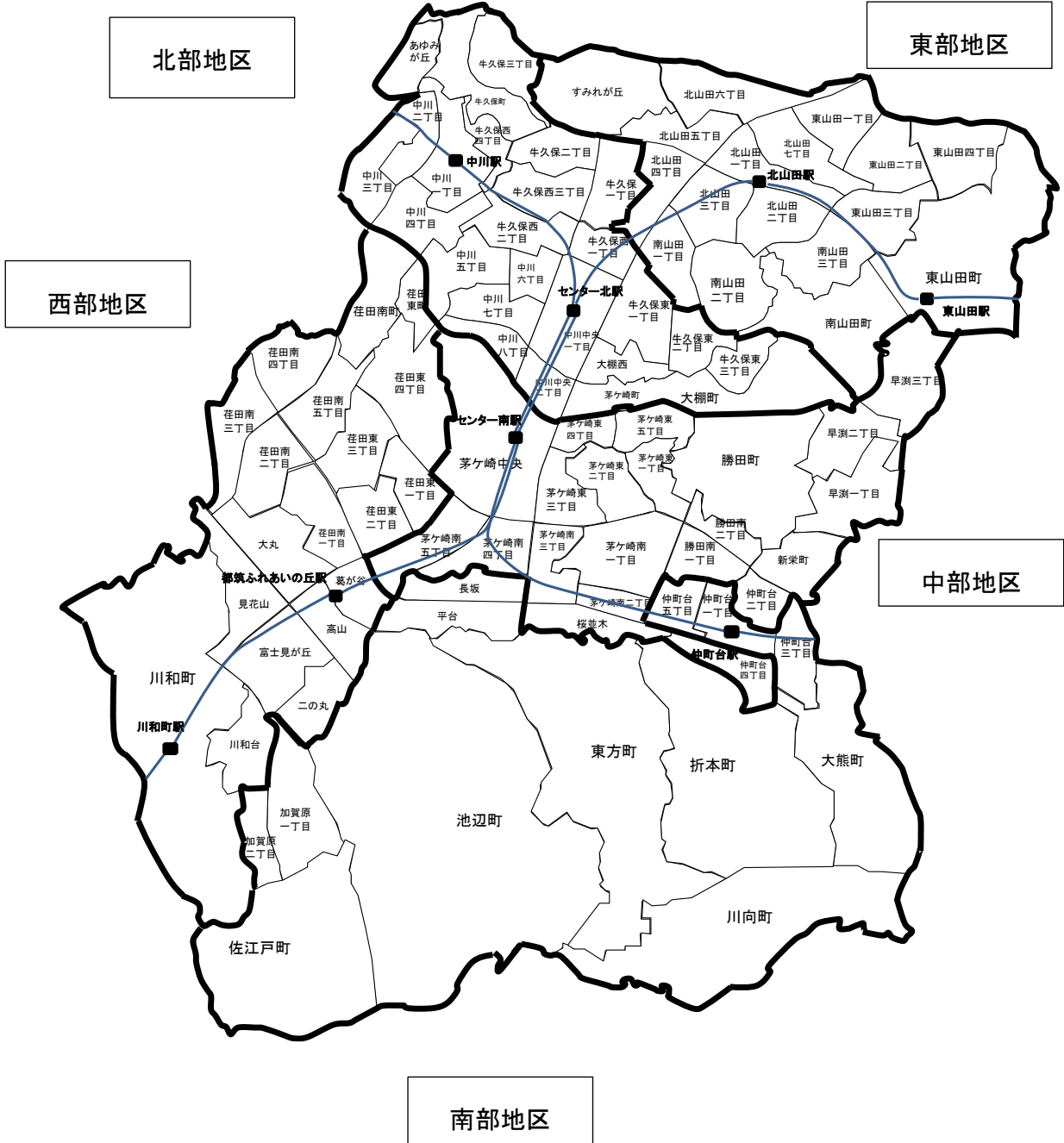
(5) 地区区分

今回調査の地区別集計にあたっては、表1-1に示す地区に区分した。

表1-1 地区区分

連合	構成町丁名(団地)	5地区別	連合	構成町丁名(団地)	5地区別			
東山田 連合町内会	東山田一丁目	東部地区	勝田茅ヶ崎地区 連合町内会	茅ヶ崎東一丁目	中部地区			
	東山田二丁目			茅ヶ崎東二丁目				
	東山田三丁目			茅ヶ崎東三丁目				
	東山田四丁目			茅ヶ崎東四丁目				
	東山田町			茅ヶ崎東五丁目				
山田 連合町内会	南山田一丁目			茅ヶ崎南一丁目				
	南山田二丁目			茅ヶ崎南二丁目				
	南山田三丁目			茅ヶ崎南三丁目				
	南山田町			茅ヶ崎南五丁目				
	北山田一丁目			茅ヶ崎中央				
	北山田二丁目			茅ヶ崎町				
	北山田三丁目			勝田南一丁目				
	北山田四丁目			勝田南二丁目				
	北山田五丁目			勝田町				
	北山田六丁目		勝田団地					
	北山田七丁目		新栄町					
	すみれが丘		早刈一丁目					
	中川 連合町内会		大棚町	北部地区		新栄早刈 連合町内会	早刈二丁目	南部地区
			大棚西			早刈三丁目		
中川一丁目		茅ヶ崎南MGCRS 連合町内会	茅ヶ崎南四丁目					
中川二丁目		未加入(中部地区)	仲町台二丁目					
中川三丁目			桜並木					
中川四丁目		都田 連合町内会	川向町					
中川五丁目			大熊町					
中川六丁目			折本町					
中川七丁目			東方町					
中川八丁目			平台					
牛久保一丁目			長坂					
牛久保二丁目			仲町台一丁目					
牛久保三丁目			仲町台三丁目					
牛久保東一丁目			仲町台四丁目					
牛久保東二丁目			仲町台五丁目					
牛久保東三丁目		池辺町 連合自治会	池辺町					
牛久保西一丁目		佐江戸加賀原地区 連合自治会	佐江戸町					
牛久保西二丁目			加賀原一丁目					
牛久保西三丁目			加賀原二丁目					
牛久保西四丁目			川和地区 連合町内会		川和町			
牛久保町		川和台						
あゆみが丘		二の丸						
未加入(北部地区)		中川中央一丁目	西部地区		ふれあいの丘 連合自治会	高山		
		中川中央二丁目				富士見が丘		
荏田南 連合自治会		未加入(西部地区)				見花山		
					葛が谷			
					大丸			
渋沢 連合自治会		未加入(西部地区)			荏田南一丁目			
					荏田南二丁目			
	荏田南三丁目							
	荏田東町							
	荏田東一丁目							
柚木荏田南 連合自治会	未加入(西部地区)	荏田東二丁目						
		荏田東三丁目						
		荏田東四丁目						
		荏田南町						
		荏田南四丁目						
		荏田南五丁目						

(注)
 ・自治会・町内会の範囲は、必ずしも町界と一致していない。
 ・自治会・町内会未加入の地域については、地理的な条件や地域特性を考慮し、近接する地区連合町内会に組み入れることとした。
 ・地区の名称は、各地区の位置関係を考慮してつけた名称であり、本調査の集計上用いるものである。一般に用いられる名称ではない。



II. 調査結果

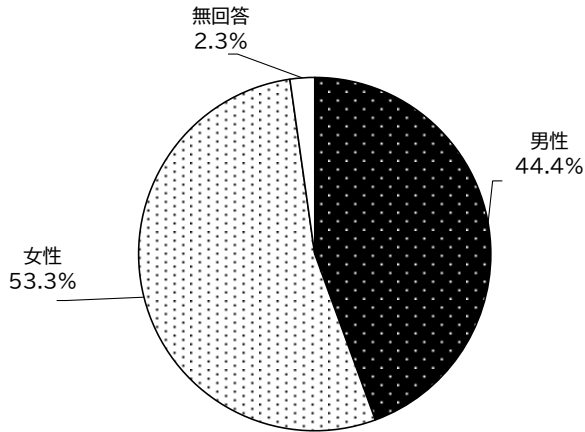
1. 回答者の属性

(1)性別

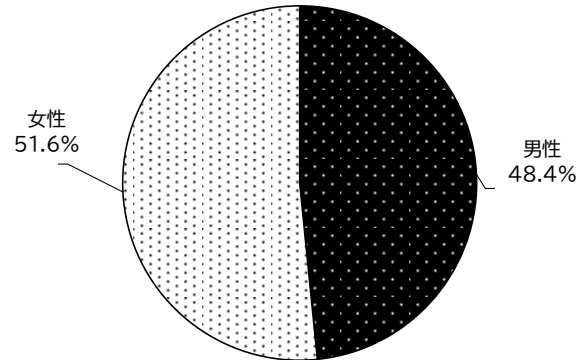
回答者の性別構成は「男性」44.4%、「女性」53.3%である。

都筑区における性別構成は、「男性」48.4%、「女性」51.6%となっている。

図 性別(n=1,817)



<参考>図 性別 都筑区全体(18歳以上)



出所) 横浜市統計情報ポータル n=177,427

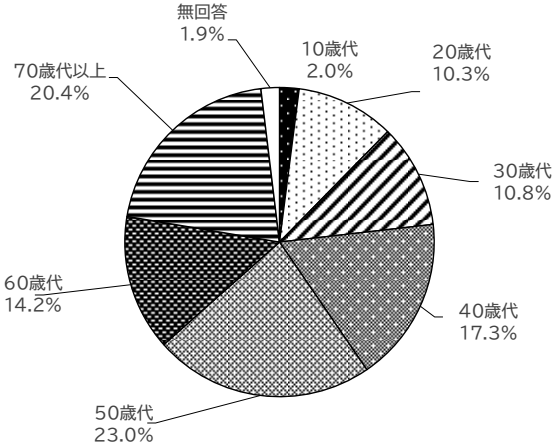
市・区の年齢別の人口(推計人口による、令和5年1月1日現在)

年齢(各歳・5歳階級)・男女別人口より算出 18歳以上(年齢不詳含む)

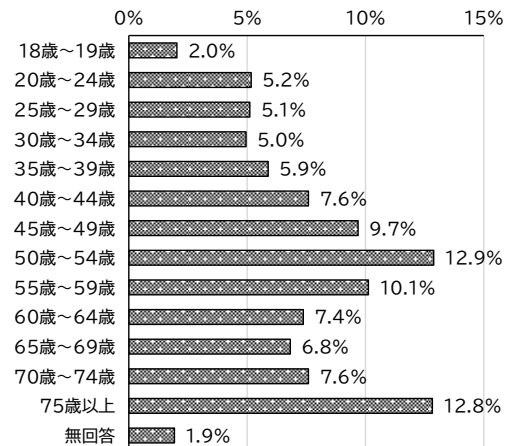
(2)年代

回答者の年代は「50歳代」が最も高く23.0%、次いで「70歳代以上」が20.4%、「40歳代」が17.3%となっている。

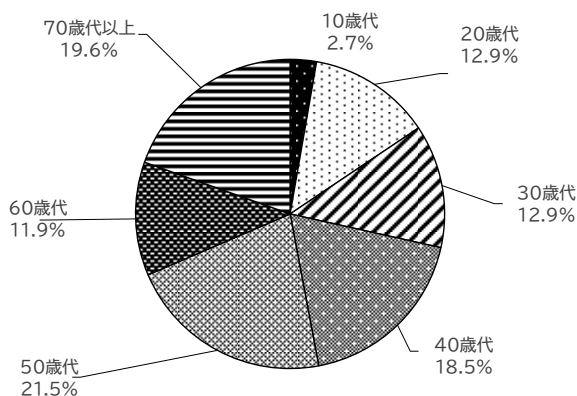
図 年代(n=1,817)



<参考>図 回答者の年齢構成(5歳階級別)



<参考>都筑区の年齢構成(18歳以上)



出所) 横浜市統計情報ポータル n=177,427

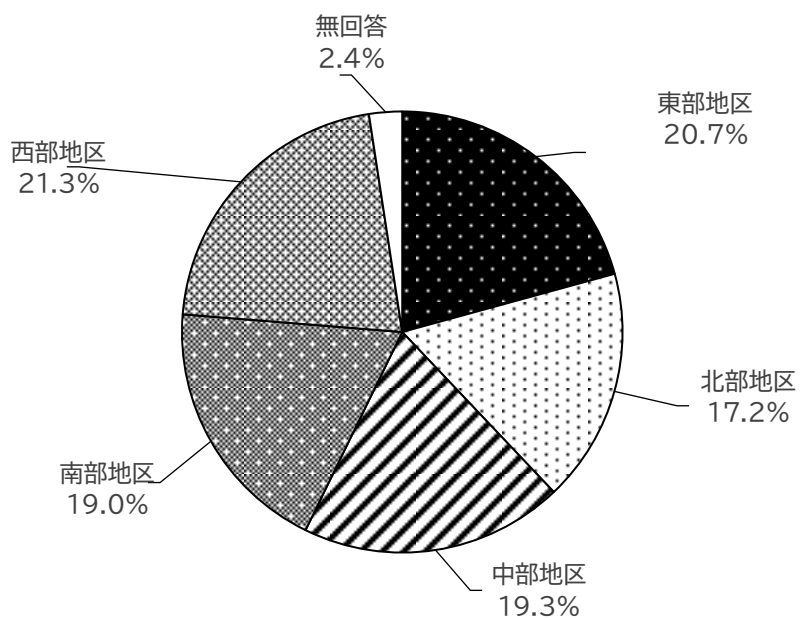
市・区の年齢別の人口(推計人口による、令和5年1月1日現在)

年齢(各歳・5歳階級)・男女別人口より算出 18歳以上(年齢不詳含む)

(3)居住地

回答者の居住地区は「西部地区」が最も高く 21.3%、次いで「東部地区」20.7%、「中部地区」19.3%、「南部地区」19.0%、「北部地区」17.2%となっている。

図 居住地(n=1,817)



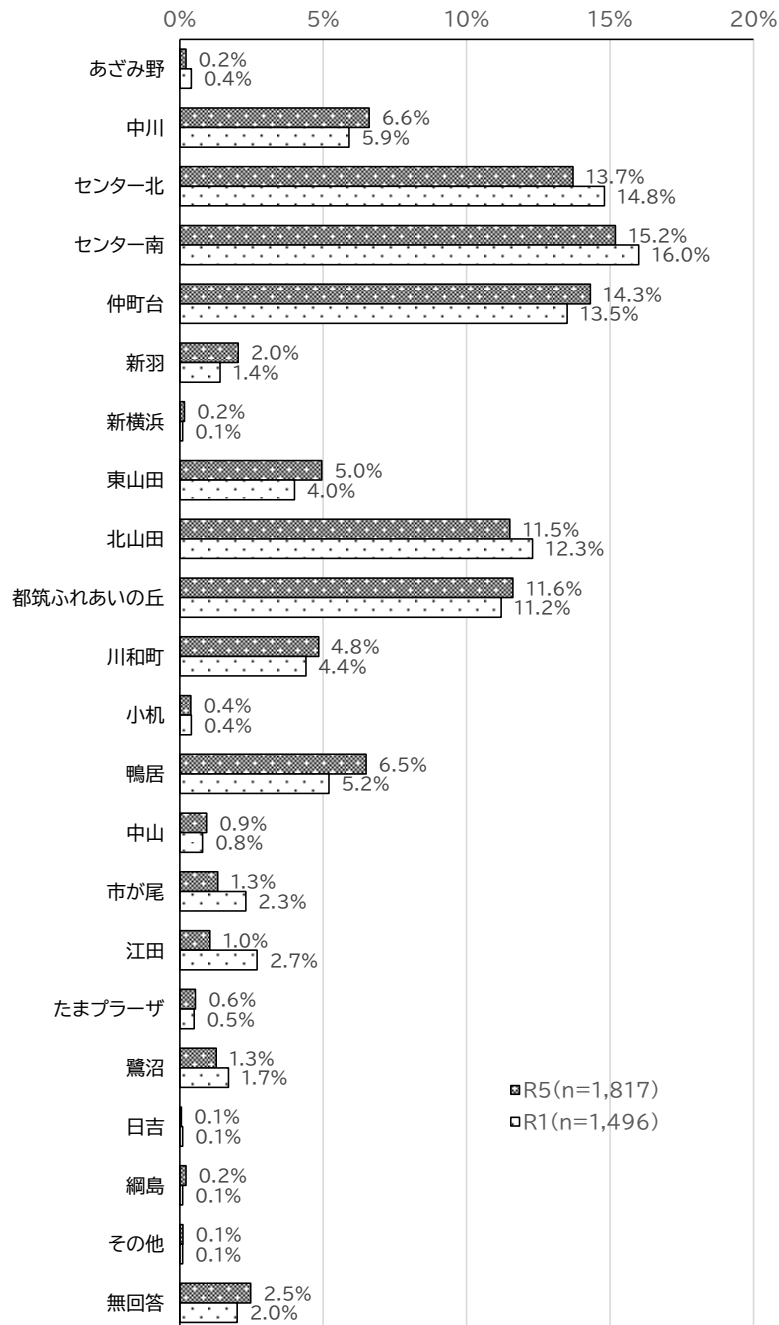
(4)最寄り駅

あなたの最寄り駅(もしくは最も利用する駅)はどこかという問に対しては、「センター南駅」が最も高く15.2%、次いで「仲町台駅」14.3%、「センター北駅」13.7%、となっている。

都筑区以外の駅では、「鴨居駅」6.5%、「新羽駅」2.0%などが利用されている。

前回調査(令和元年度)と比較すると、順位に変動はあるものの「センター南駅」、「仲町台駅」、「センター北駅」、「都筑ふれあいの丘駅」、「北山田駅」が1位から5位を占める傾向に変化はない。

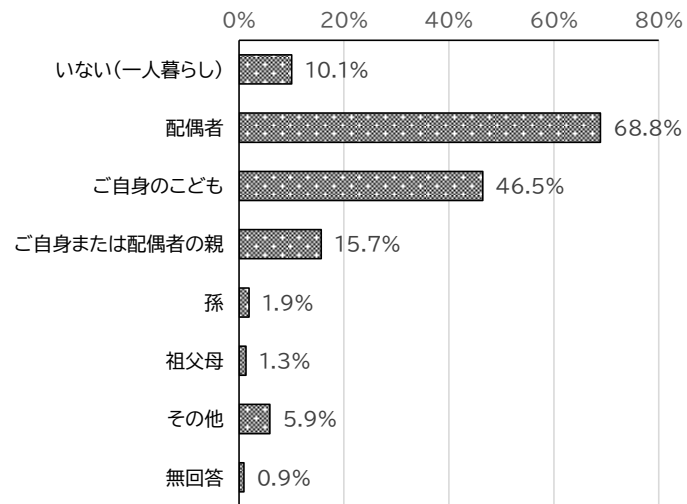
図 最寄り駅(n=1,817)



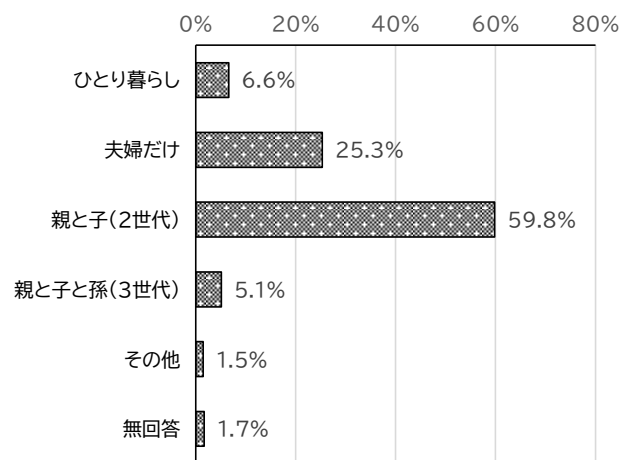
(5)家族形態

同居の家族については「配偶者」が68.8%で最も高く、次いで「ご自身のこども」46.5%、「ご自身または配偶者の親」15.7%、「いない(一人暮らし)」10.1%となっている。

図 家族形態(n=1,817)



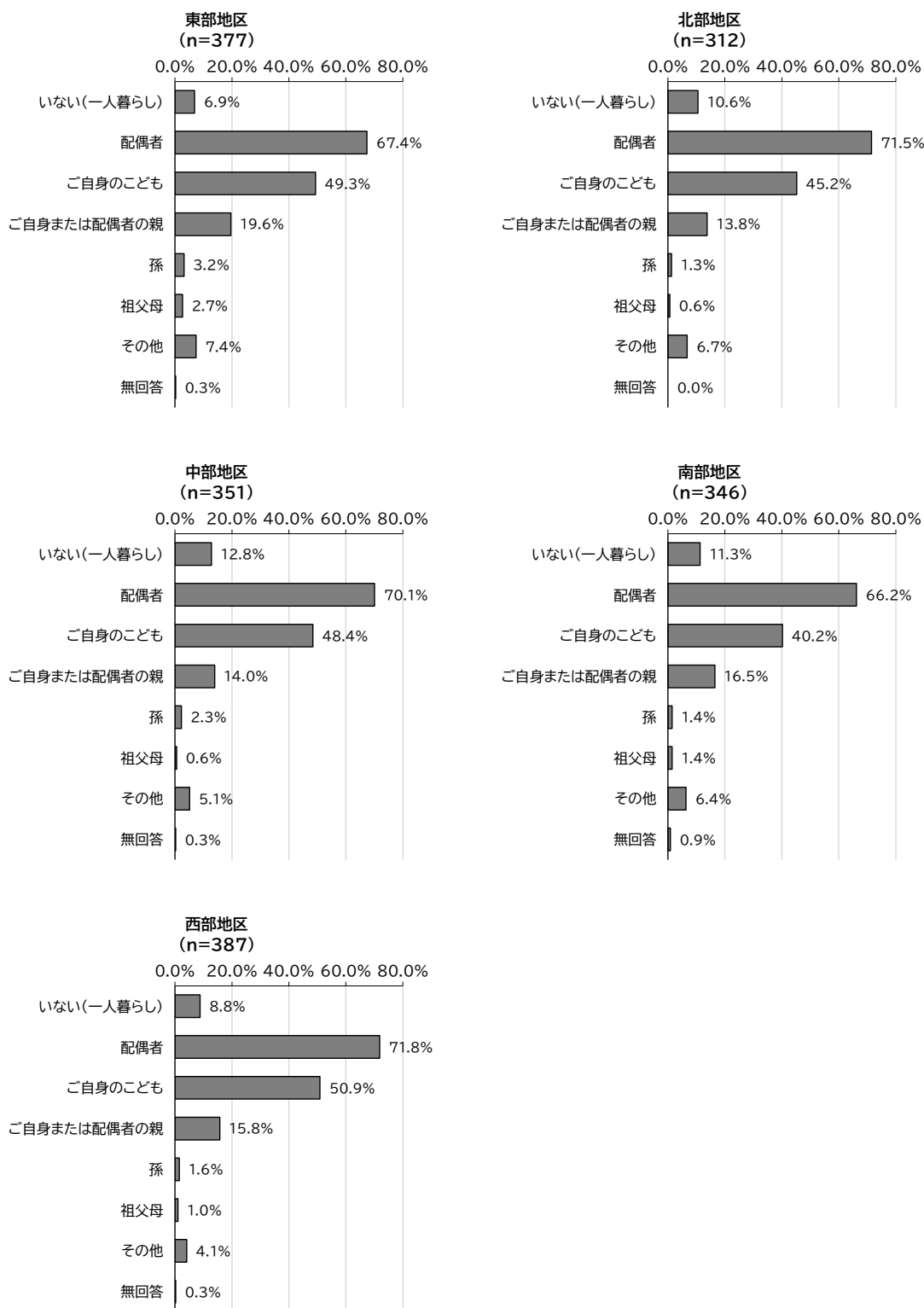
<参考> 図 家族形態(令和元年度調査)(n=1,496)



■ 地区別にみる特徴

地区別にみると、いずれの地区でも「配偶者」が最も高く、次いで「ご自身のこども」となっている。「配偶者」「ご自身のこども」ともに西部地区で最も数値が高くなっている（「配偶者」71.8%、「ご自身のこども」50.9%）。

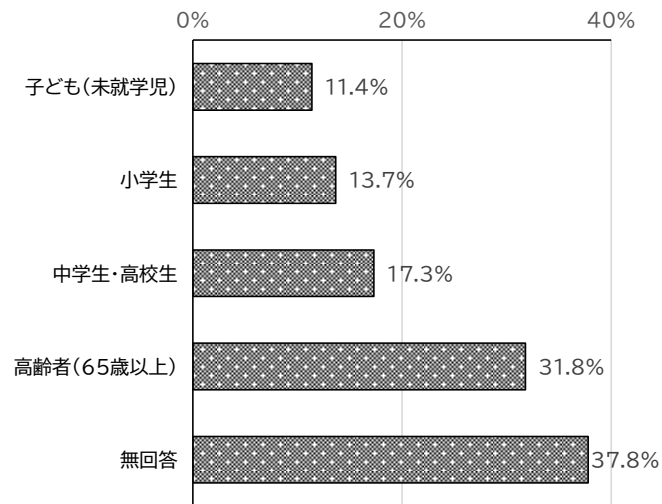
図 地区別 家族形態



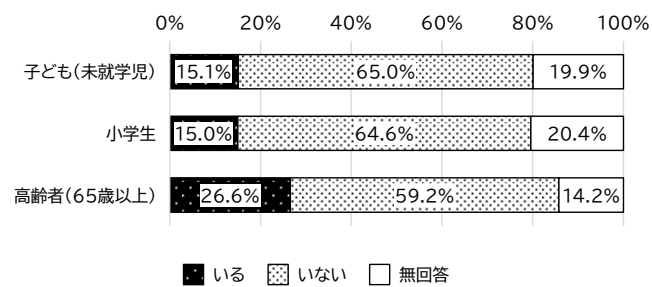
(6)同居家族

同居家族の構成では、「高齢者(65歳以上)」が31.8%で最も高く、次いで「中学生・高校生」17.3%、「小学生」13.7%、「子ども(未就学児)」11.4%となっている。

図 同居家族(n=1,817)



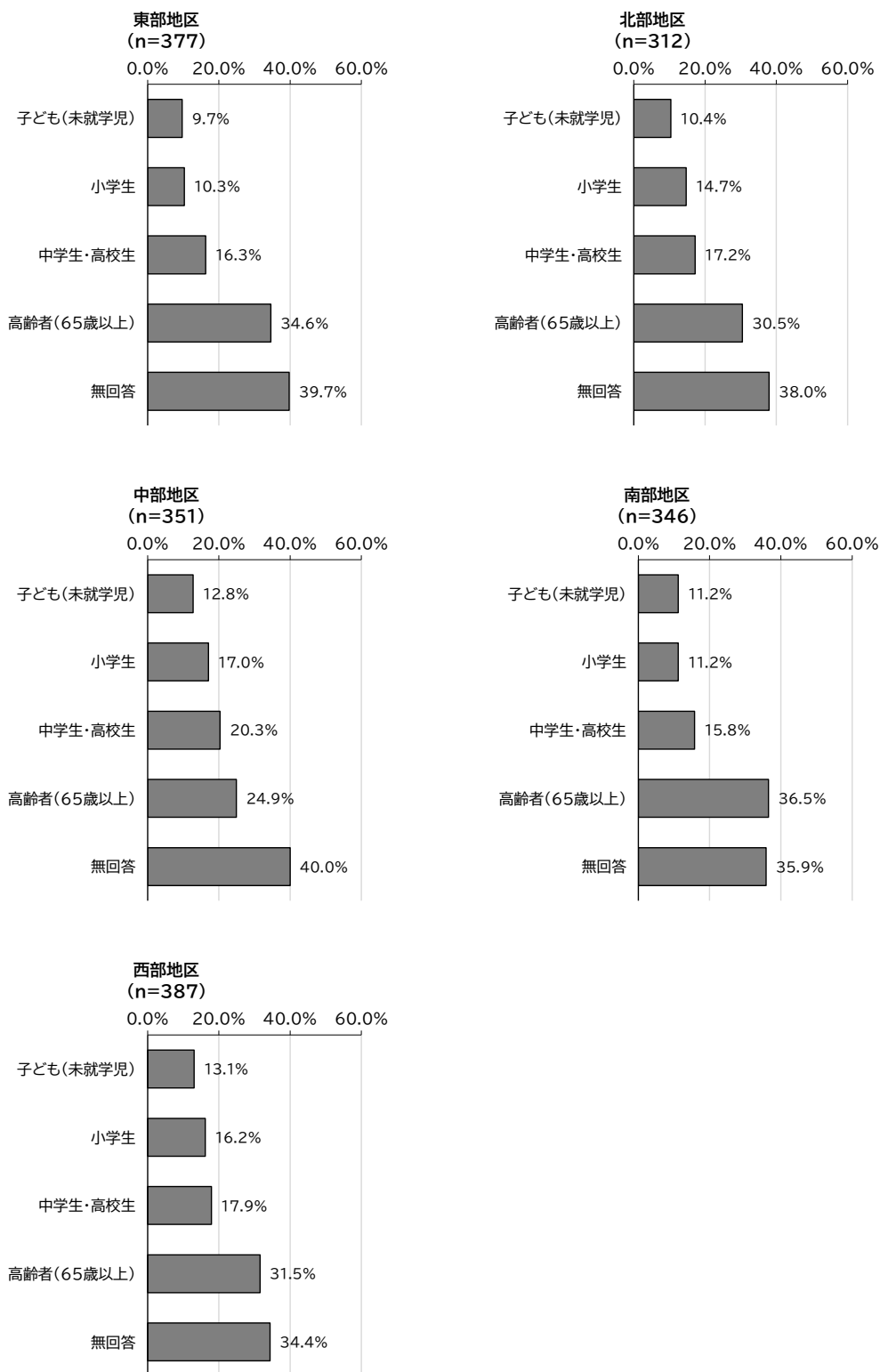
<参考> 図 同居家族(令和元年度調査)(n=1,372)



■ 地区別にみる特徴

地区別にみると、「子ども(未就学児)」がいる割合が最も高いのは西部地区(13.1%)である。「小学生」「中学生・高校生」では中部地区(それぞれ 17.0%、20.3%)、「高齢者(65歳以上)」では南部地区(36.5%)で、それぞれ最も高い割合となっている。

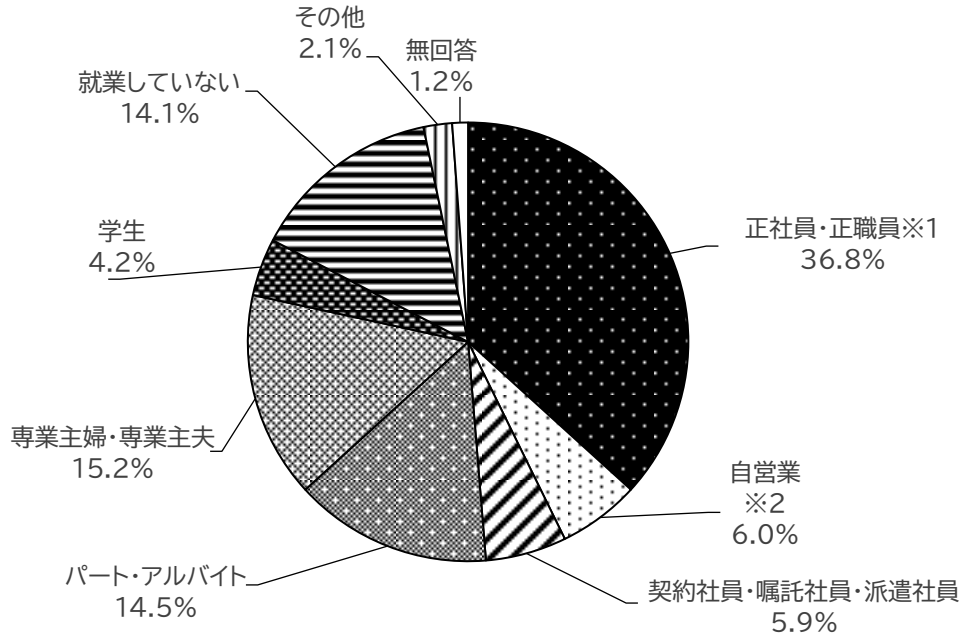
図 地区別 同居家族



(7)就労状況

「正社員・正職員」が 36.8%で最も高く、次いで「専業主婦・専業主夫」15.2%、「パート・アルバイト」14.5%、「就業していない」14.1%となっている。

図 就労状況



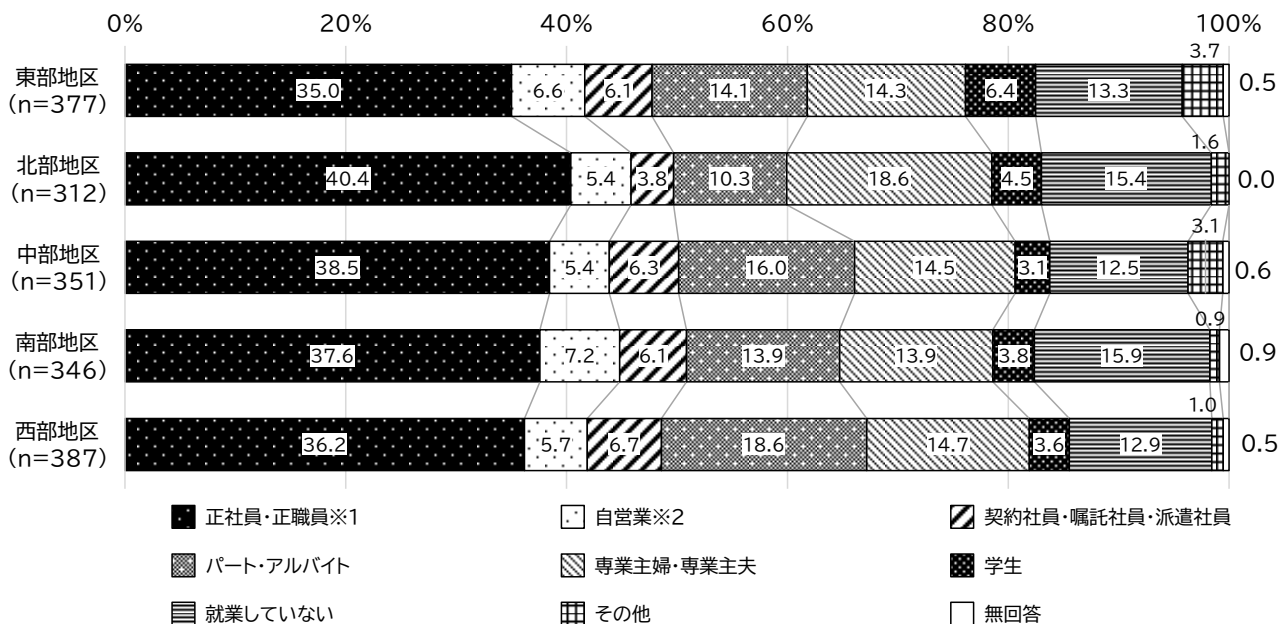
正社員・正職員※1(公務員・団体職員含む)

自営業※2(商店経営、農業、開業医など)

■ 地区別にみる特徴

「正社員・正職員」は北部地区が 40.4%で最も高く、次いで中部地区 38.5%、南部地区 37.6%となっている。

図 地区別 就労状況



2. 都筑区に対する居住意向について

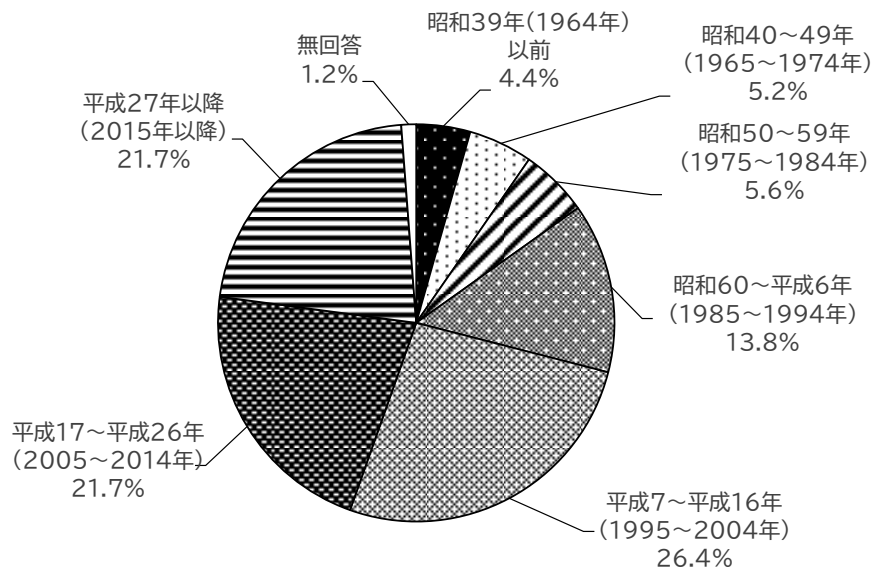
(1) 居住開始時期

平成7年以降に住み始めた人が全体の7割を占める

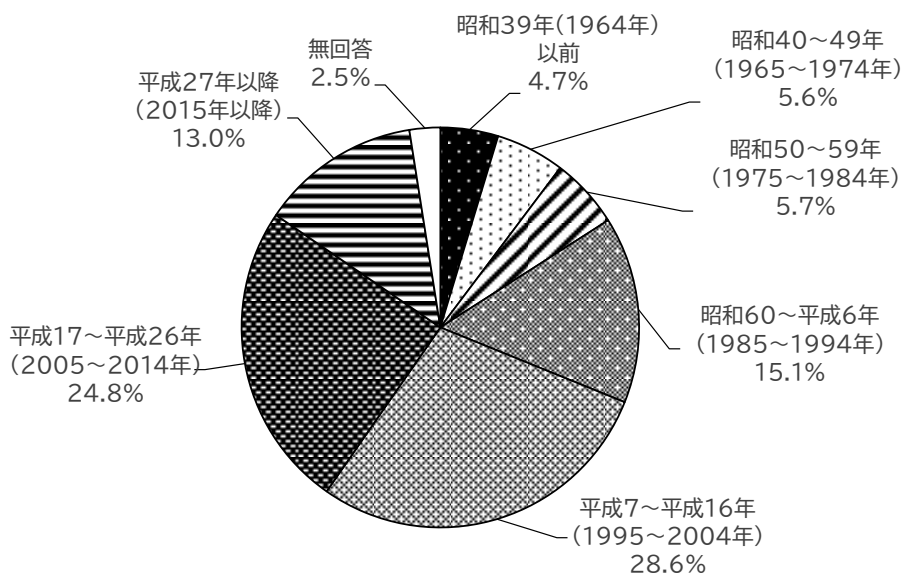
問1 あなたは、都筑区にいつ頃からお住まいですか。(〇はひとつ)

都筑区に住み始めた時期は「平成 7～平成 16 年(1995～2004 年)」が 26.4%と最も高く、次いで「平成 17～平成 26 年(2005～2014 年)」と「平成 27 年以降(2015 年以降)」が 21.7%となっている。

図 居住期間(n=1,817)



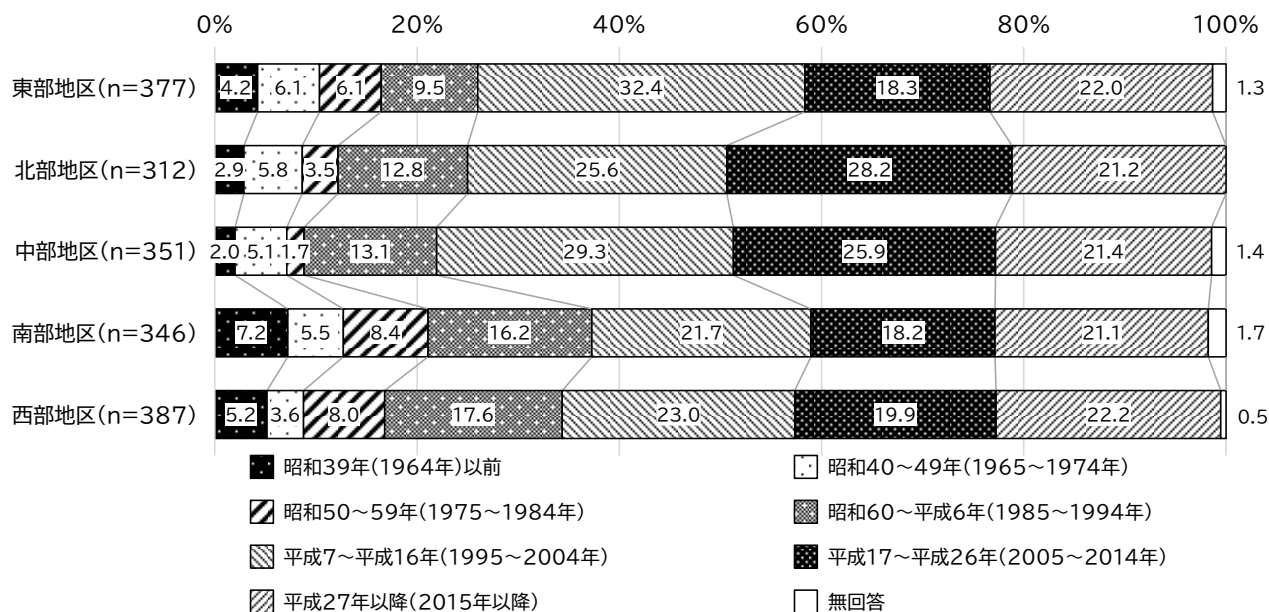
<参考> 図 居住期間(令和元年度調査)(n=1,496)



■ 地区別にみる特徴

北部地区では「平成 17～平成 26 年(2005～2014 年)」、それ以外の地区では「平成7～平成 16 年(1995～2004 年)」が最も高くなっている。昭和 60 年より前に住み始めた人の割合が最も高いのは南部地区、次いで西部地区、平成 17 年以降に住み始めた人の割合が最も高いのは北部地区、次いで中部地区となっている。

図 地区別 居住開始時期



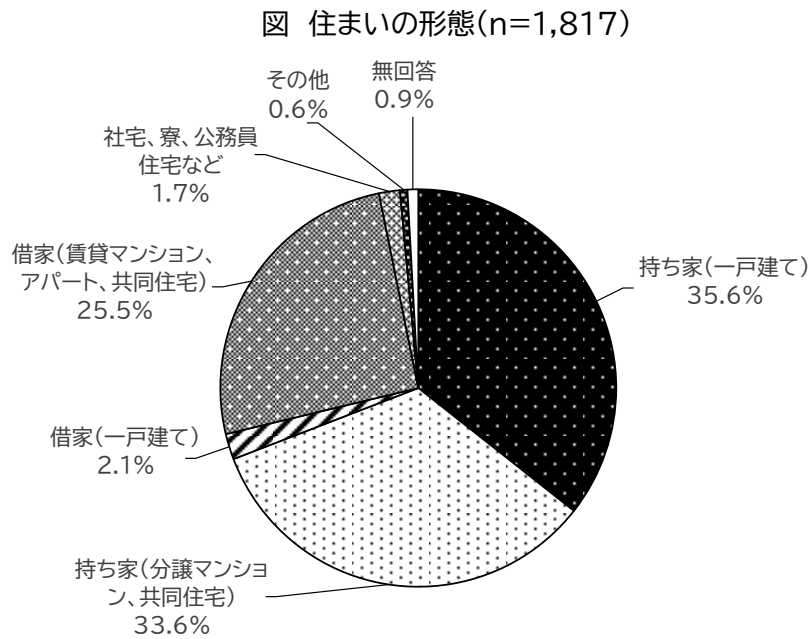
(2)住まいの形態

集合住宅の割合は6割弱、持ち家比率は7割弱

問2 あなたのお住まいは、この中のどれにあたりますか。(○はひとつ)

住まいの形態は「持ち家(一戸建て)」が 35.6%と最も高く、次いで「持ち家(分譲マンション、共同住宅)」33.6%、「借家(賃貸マンション、アパート、共同住宅)」25.5%となっている。『持ち家』と『借家』を合わせた集合住宅の割合は 59.1%である。

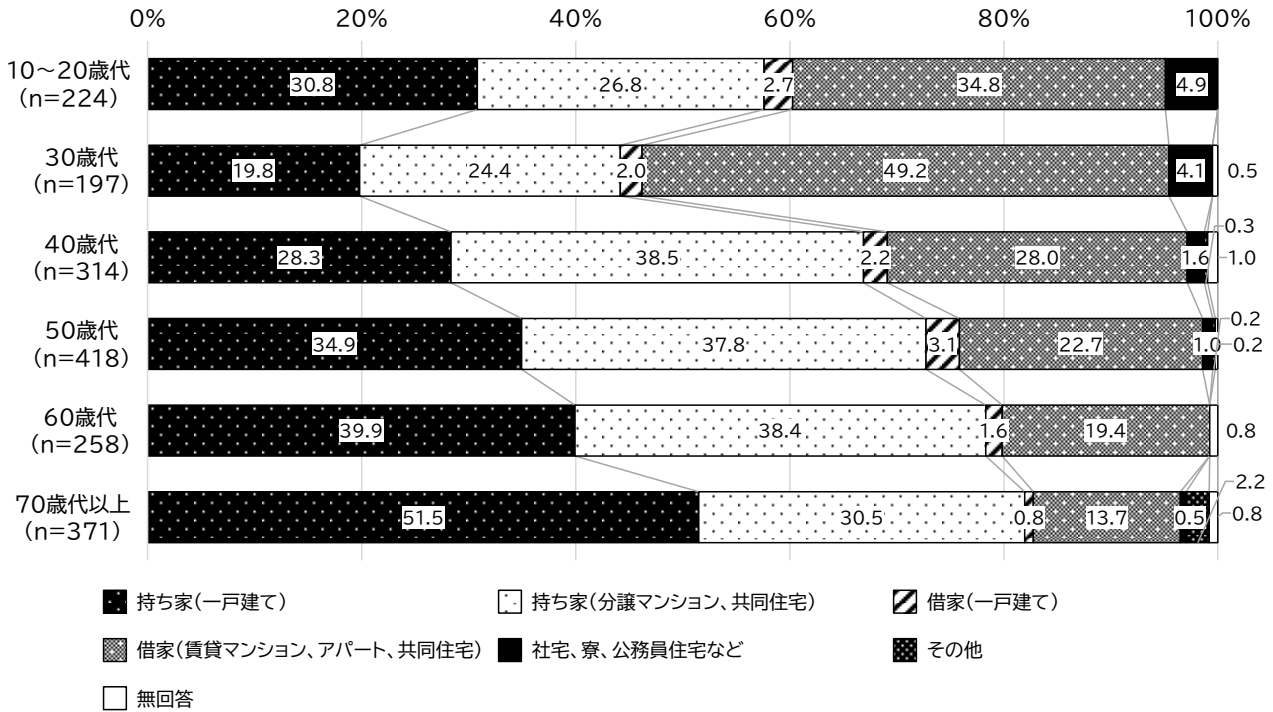
「持ち家(一戸建て)」と「持ち家(分譲マンション、共同住宅)」を合わせた『持ち家』の比率は 69.2%となっている。



■ 年代別にみる特徴

10～20歳代、30歳代では「借家(賃貸マンション、アパート、共同住宅)」、40歳代、50歳代では「持ち家(分譲マンション、共同住宅)」、60歳代以上の年代では「持ち家(一戸建て)」が最も高くなっている。

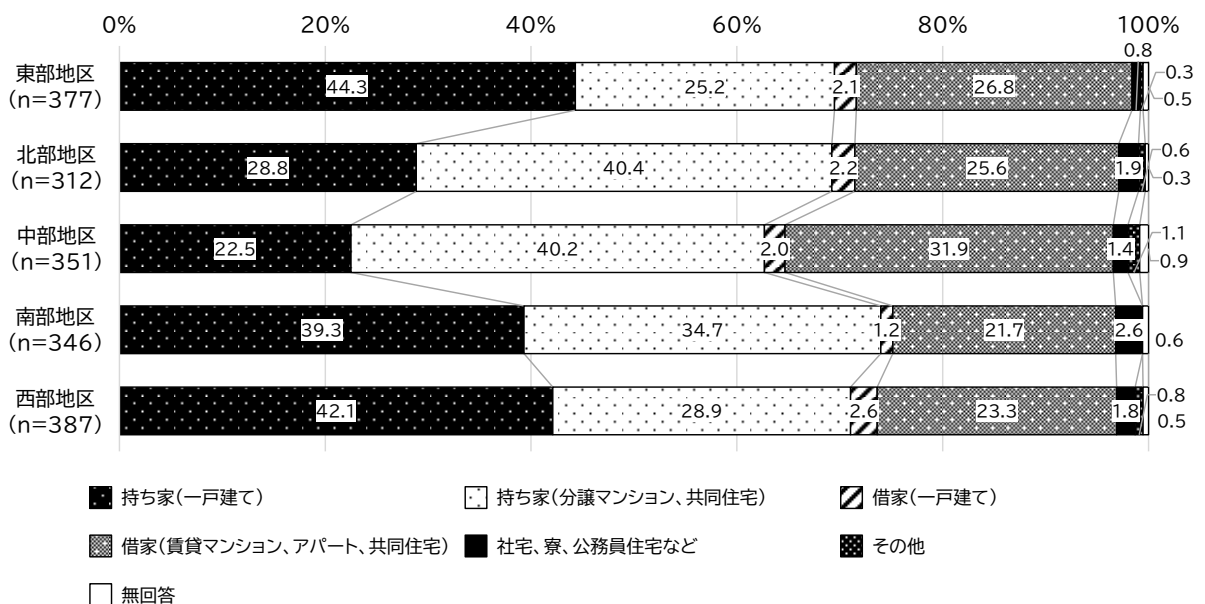
図 年代別 住まいの形態



■ 地区別にみる特徴

東部地区、南部地区、西部地区では「持ち家(一戸建て)」、北部地区、中部地区では「持ち家(分譲マンション、共同住宅)」が最も高くなっている。「持ち家(一戸建て)」「持ち家(分譲マンション、共同住宅)」を合わせた持ち家比率をみると、南部地区、西部地区では7割を超えている。「借家(一戸建て)」「借家(賃貸マンション、アパート、共同住宅)」を合わせた借家比率が最も高いのは中部地区である。

図 地区別 住まいの形態



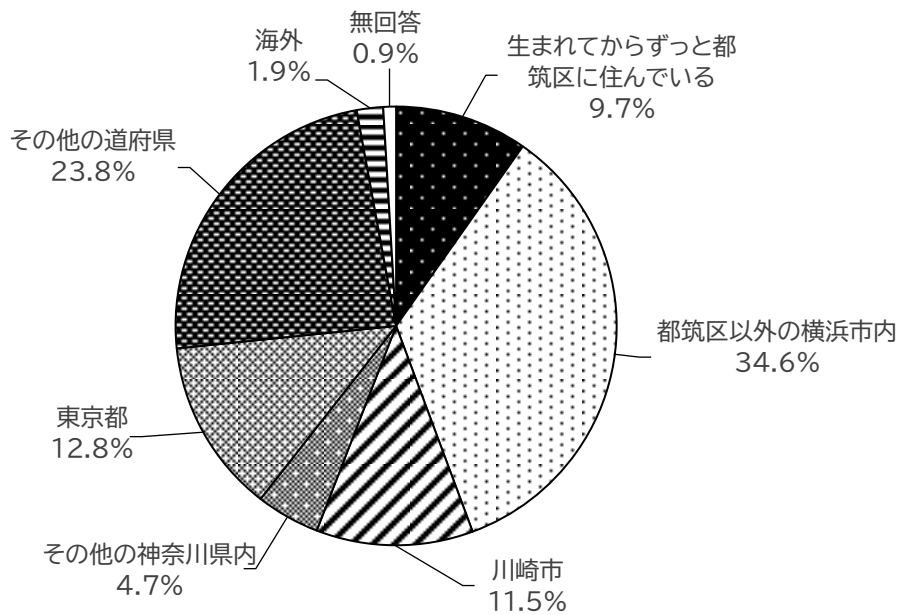
(3) 都筑区に来る前の居住地と都筑区を選択理由

都筑区に来る前の居住地は「都筑区以外の横浜市内」が全体の3分の1
 都筑区を選んだ理由としては「緑道や公園など、豊かな自然が身近にあるから」が最も多い

問3 あなたが都筑区に来られる前にお住まいになっていたところはどこですか。(〇はひとつ)

都筑区に来る前の居住地は「都筑区以外の横浜市内」が 34.6%と最も高く、次いで「その他の道府県」23.8%、「東京都」12.8%となっている。

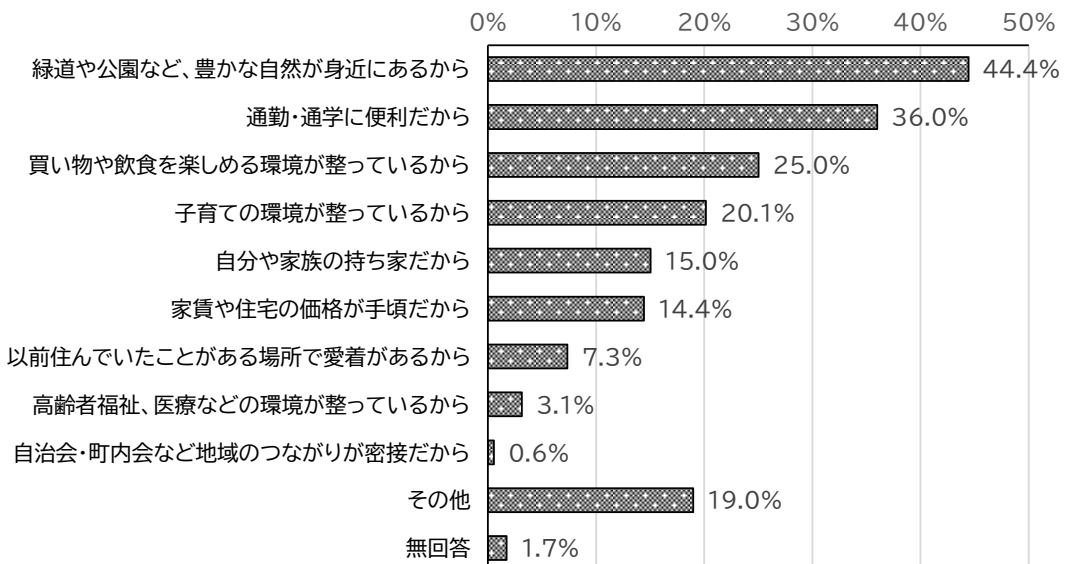
図 都筑区に来る前の居住地(n=1,817)



問3-1 都筑区をお住まいとして選んだ理由は何ですか。(問3で2~7 を選択した方、〇は3つまで)

都筑区を選んだ理由としては「緑道や公園など、豊かな自然が身近にあるから」が 44.4%と最も高く、次いで「通勤・通学に便利だから」36.0%、「買い物や飲食を楽しめる環境が整っているから」25.0%、「子育ての環境が整っているから」20.1%となっている。

図 都筑区を選択理由(n=1,623)



■ 地区別にみる特徴

いずれの地区でも「都筑区以外の横浜市内」が最も高くなっている。「生まれてからずっと都筑区に住んでいる」の数値が最も高いのは南部地区、次いで東部地区となっている。

また、都筑区に住居を選んだ理由としては、南部地区では「通勤・通学に便利だから」、それ以外の地区では「緑道や公園など、豊かな自然が身近にあるから」が最も高くなっている。

図 地区別 都筑区に来る前の居住地

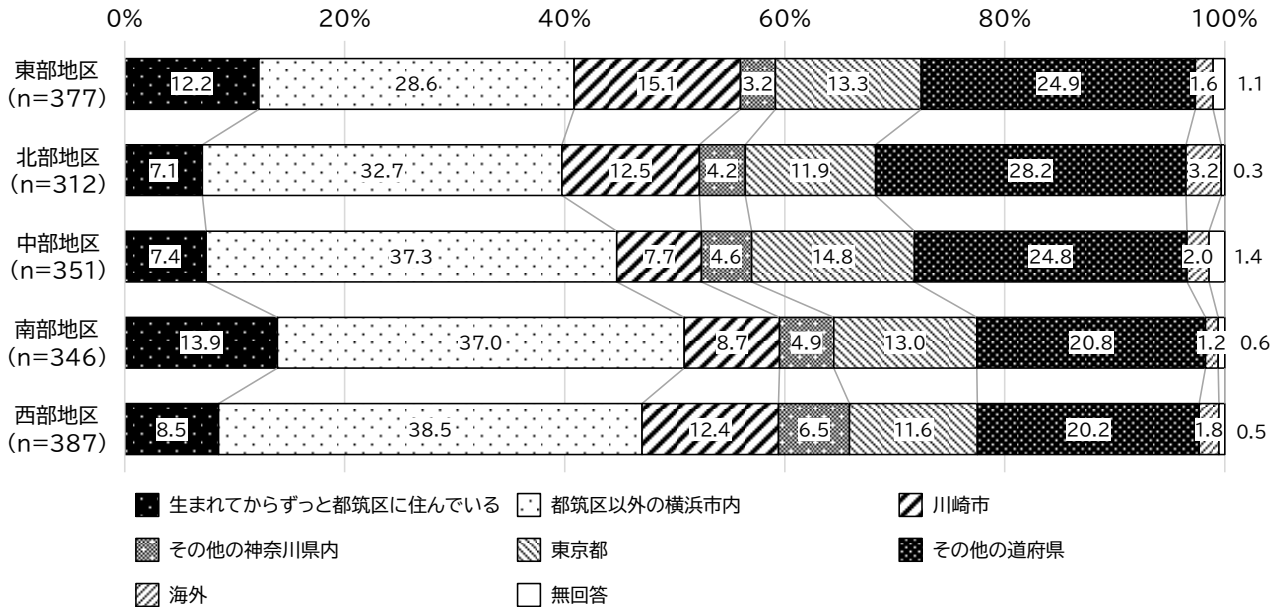
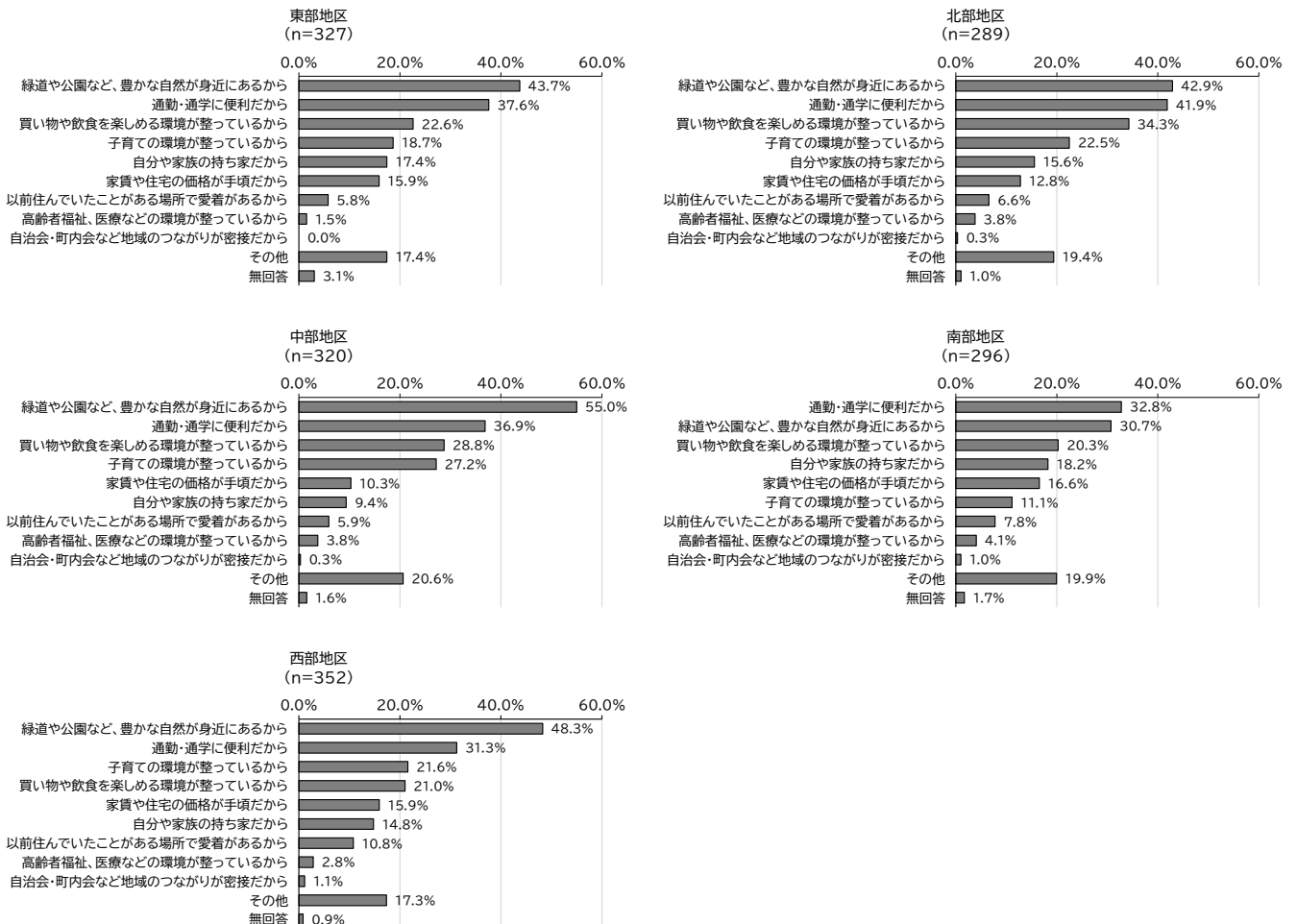


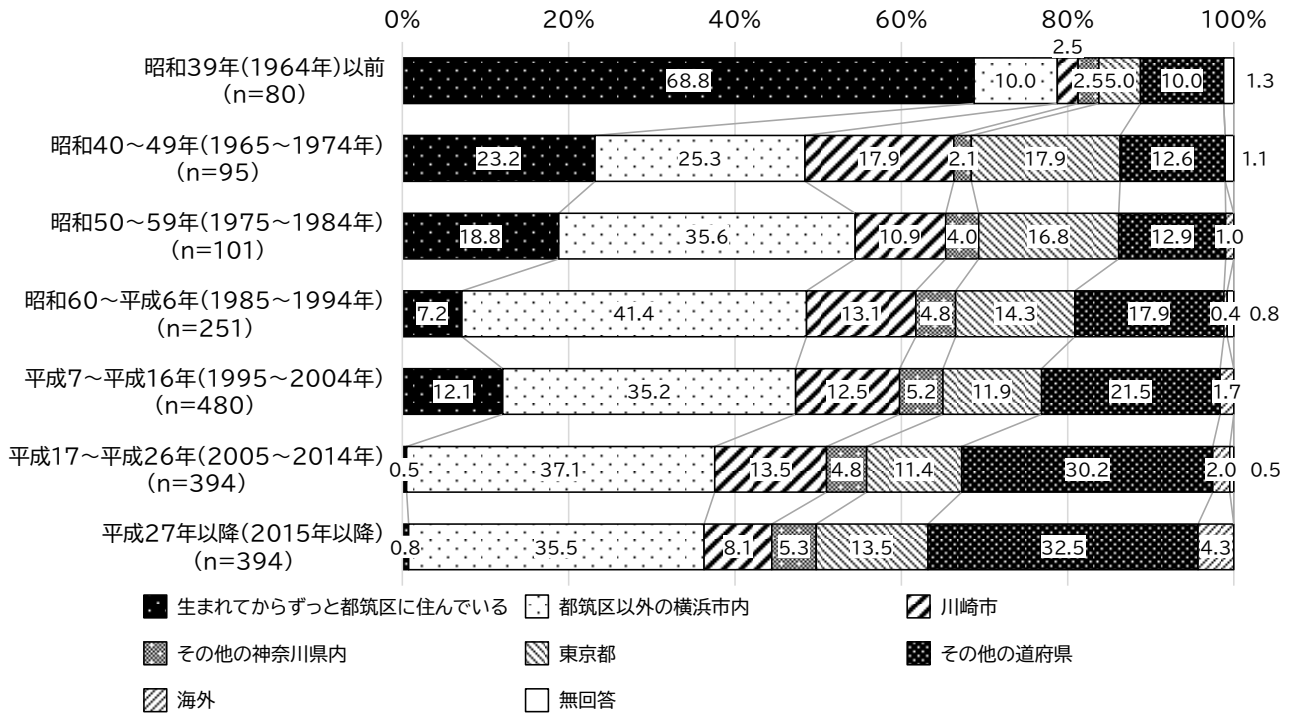
図 地区別 都筑区を選択理由



■ 居住開始時期別にみる特徴

居住開始時期が「昭和39年(1964年)以前」では「生まれてからずっと都筑区に住んでいる」、それ以外では「都筑区以外の横浜市内」が最も高くなっている。また、住み始めた時期が遅いほど、「その他の道府県」の割合が高くなる傾向がある。

図 居住開始時期別 都筑区に来る前の居住地



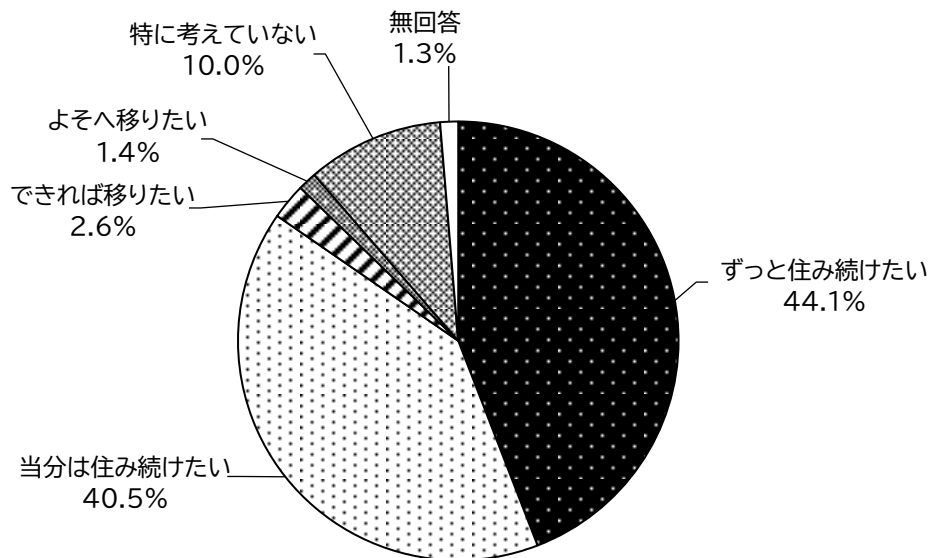
(4)居住意向と住み続けたい理由

「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」を合わせると8割以上が『住み続けたい』
都筑区に住み続けたい理由は「緑道や公園など、豊かな自然が身近にあるから」

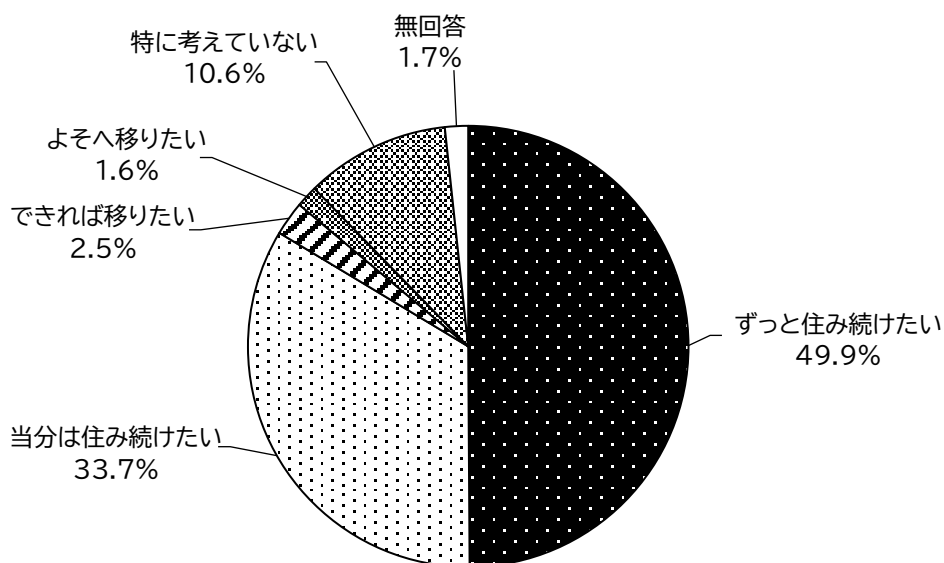
問4 あなたは、これからも都筑区に住みたいと思いますか。(○はひとつ)

都筑区への居住意向は、「ずっと住み続けたい」が 44.1%、「当分は住み続けたい」が 40.5%で、「住み続けたい」回答者は 84.6%となっている。

図 居住意向(n=1,817)



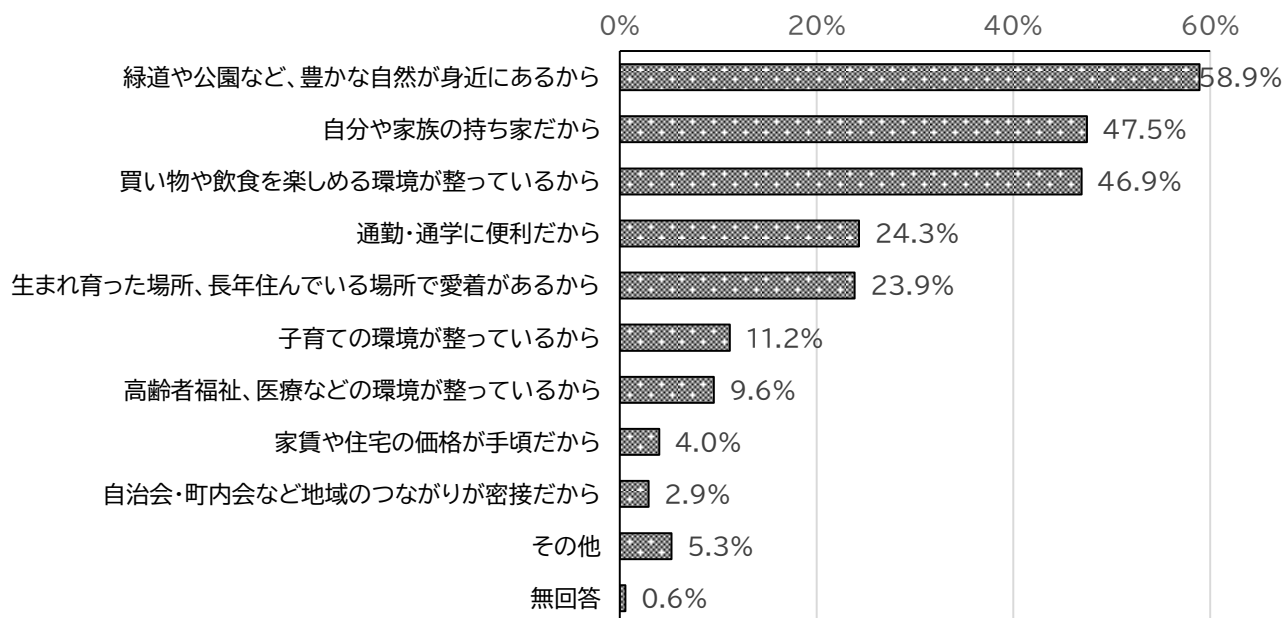
<参考> 図 居住意向(令和元年度調査) (n=1,496)



問4-1 都筑区に住み続けたい理由をお聞かせください。(問4で、1か2を選択された方、〇は3つまで)

都筑区に住み続けたい理由は「緑道や公園など、豊かな自然が身近にあるから」が最も高く 58.9%、次いで「自分や家族の持ち家だから」47.5%、「買い物や飲食を楽しめる環境が整っているから」46.9%、「通勤・通学に便利だから」24.3%、「生まれ育った場所、長年住んでいる場所で愛着があるから」23.9%となっている。

図 住み続けたい理由(n=1,538)



■ 年代別にみる特徴

40歳代までの若い年代では「当分は住み続けたい」、50歳代以上の年代では「ずっと住み続けたい」が最も高く、年齢が高いほど「ずっと住み続けたい」以降も高くなっている。また10～20歳代では「特に考えていない」の数値が高い。

住み続けたい理由としては、10～20歳代では「買い物や飲食を楽しめる環境が整っているから」、30歳代以上の年代では「緑道や公園など、豊かな自然が身近にあるから」が最も高くなっている。

図 年代別 居住意向

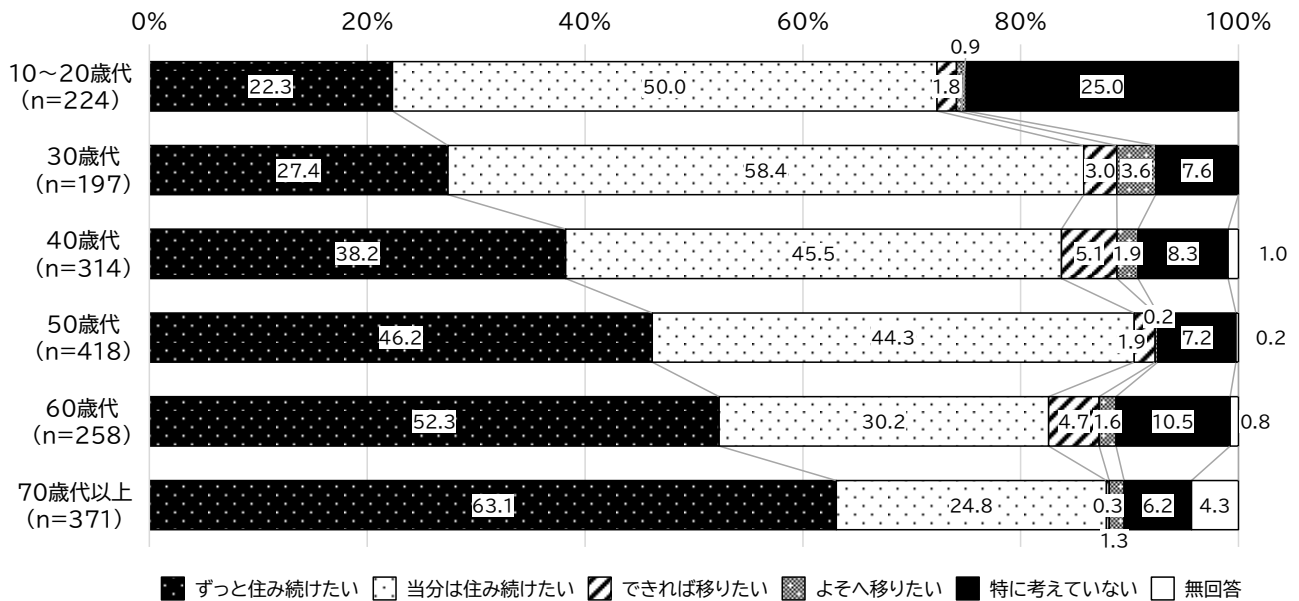
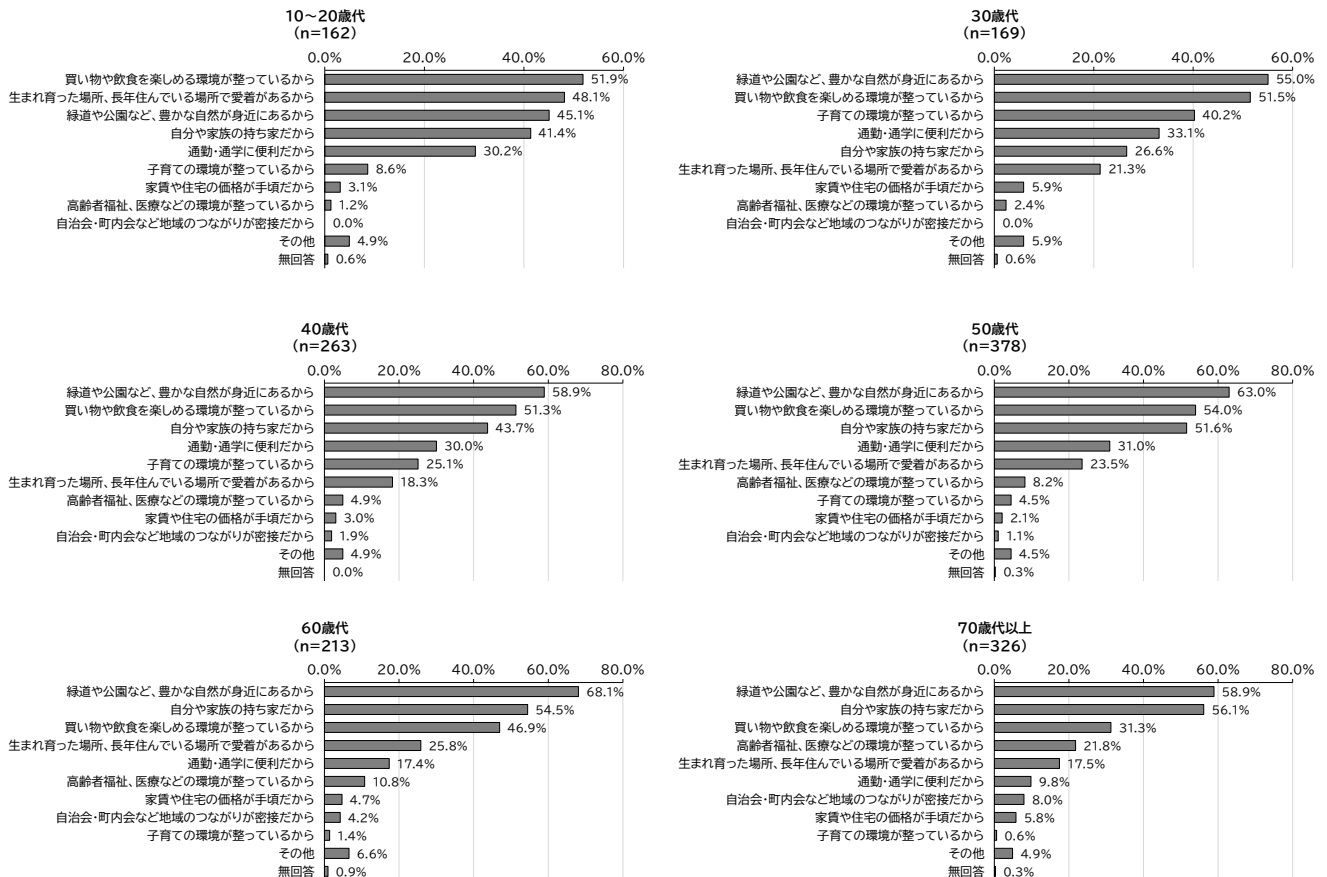


図 年代別 住み続けたい理由



■ 地区別にみる特徴

北部地区では「当分は住み続けたい」、それ以外の地区では「ずっと住み続けたい」が最も高く、中部地区で数値が高くなっている。

住み続けたい理由としては、北部地区で「買い物や飲食を楽しめる環境が整っているから」、南部地区で「自分や家族の持ち家だから」、それ以外の地区では「緑道や公園など、豊かな自然が身近にあるから」が最も高くなっている。

図 地区別 居住意向

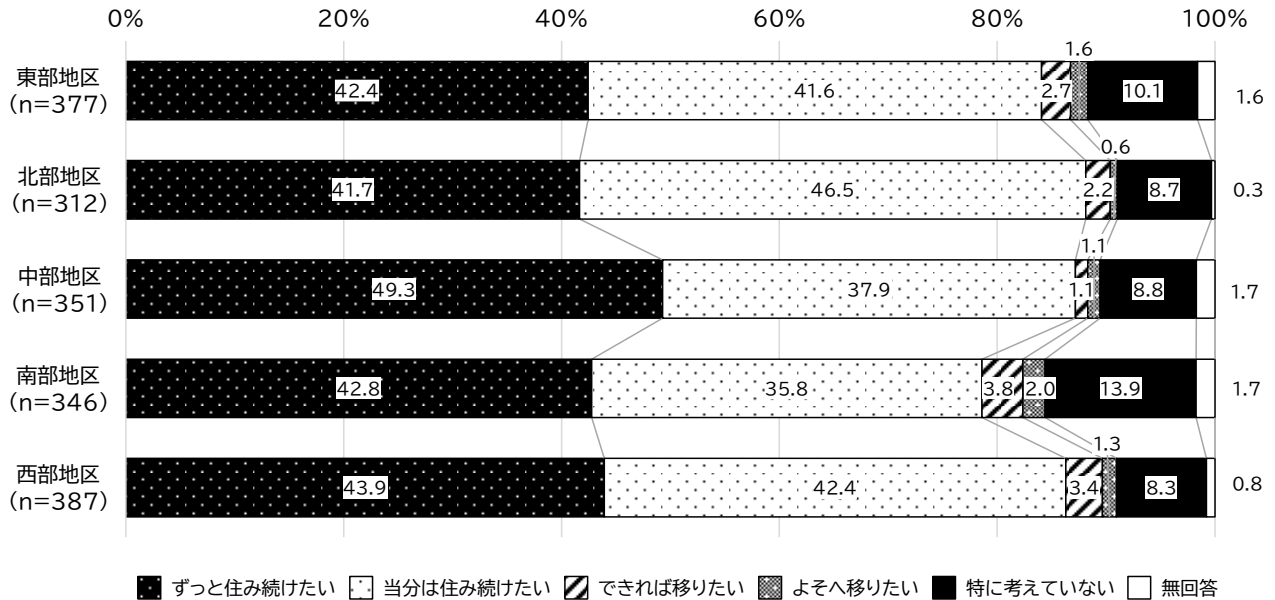
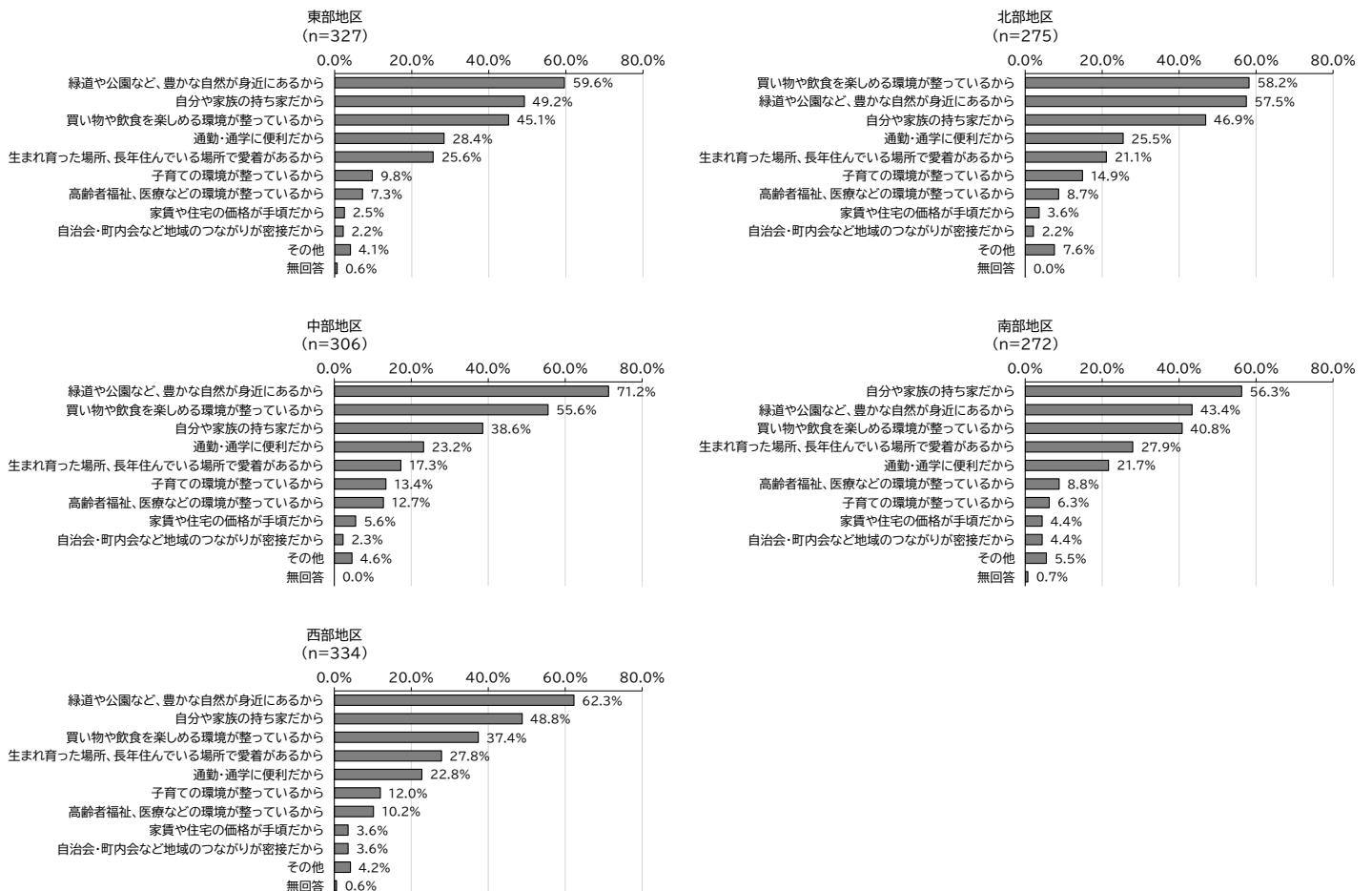


図 地区別 住み続けたい理由



3. 通勤・通学の状況

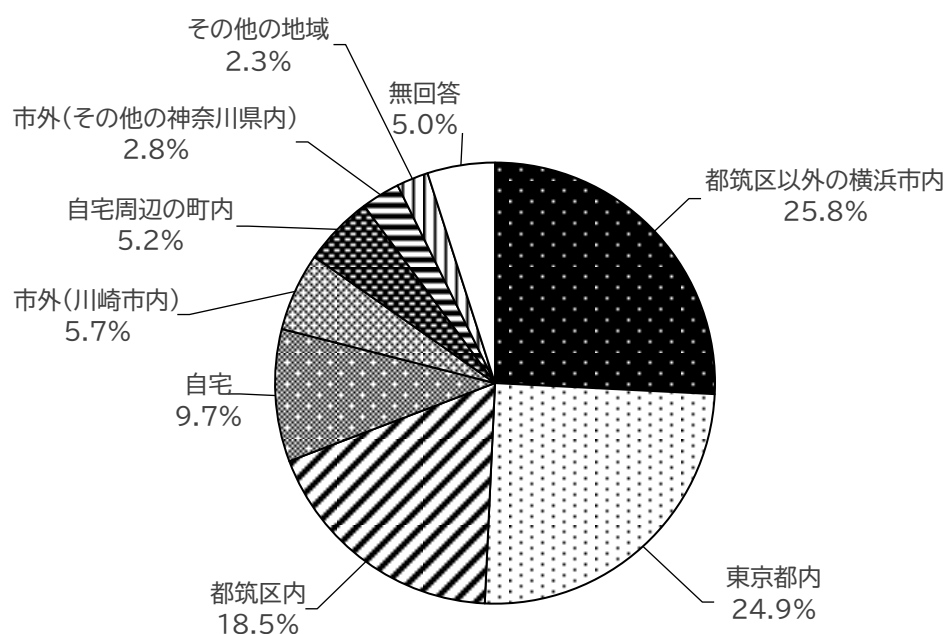
(1) 職場・学校の所在地

職場・学校の所在地は「都筑区以外の横浜市内」「東京都内」がそれぞれ全体の4分の1
「自宅」「自宅周辺の町内」を含めた『都筑区内』への通勤・通学は全体の3分の1

問5 あなたの職場または学校はどこですか。(〇はひとつ)

職場・学校の所在地は「都筑区以外の横浜市内」が 25.8%と最も高く、次いで「東京都内」24.9%、「都筑区内」18.5%である。「都筑区内」「自宅」「自宅周辺の町内」を合わせると 33.4%である。

図 職場・学校の所在地(n=1,817)

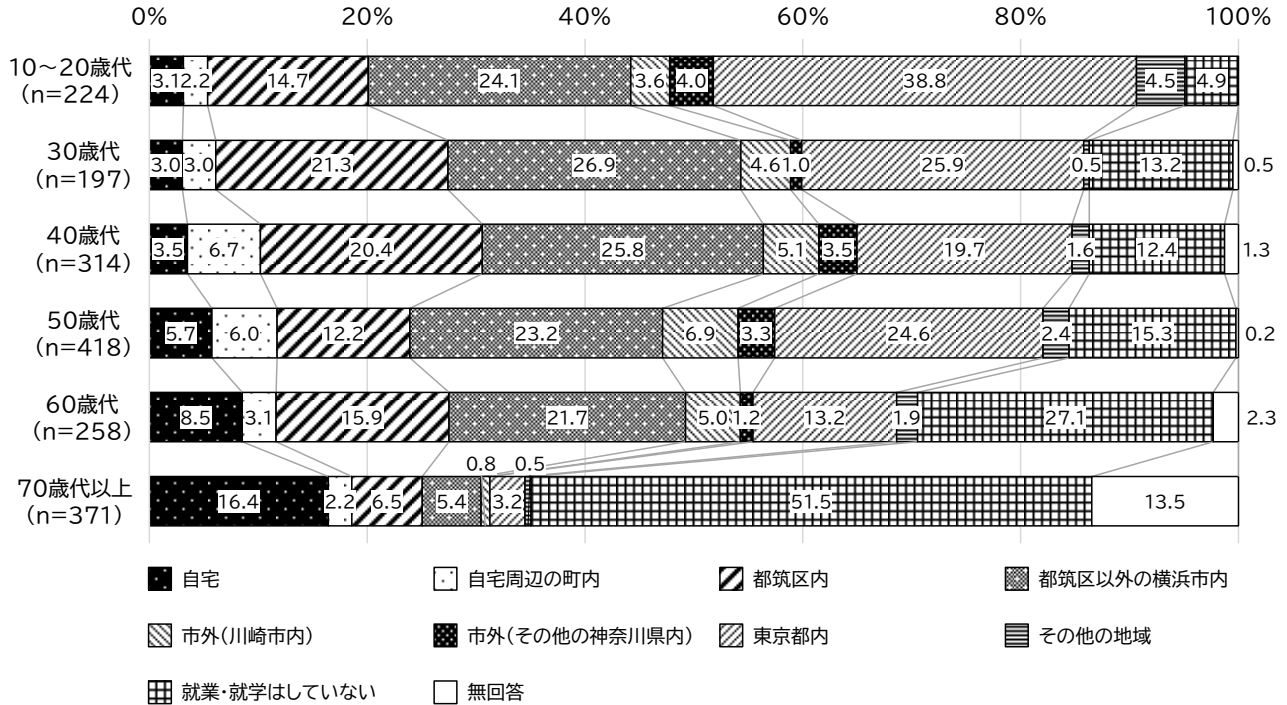


注)「就業・就学はしていない」回答者 406 人を除く

■ 年代別でみる特徴

10～20歳代と50歳代では「東京都内」、30歳代と40歳代では「都筑区以外の横浜市内」、60歳代以上の年代では「就業・就学はしていない」が最も高くなっている。

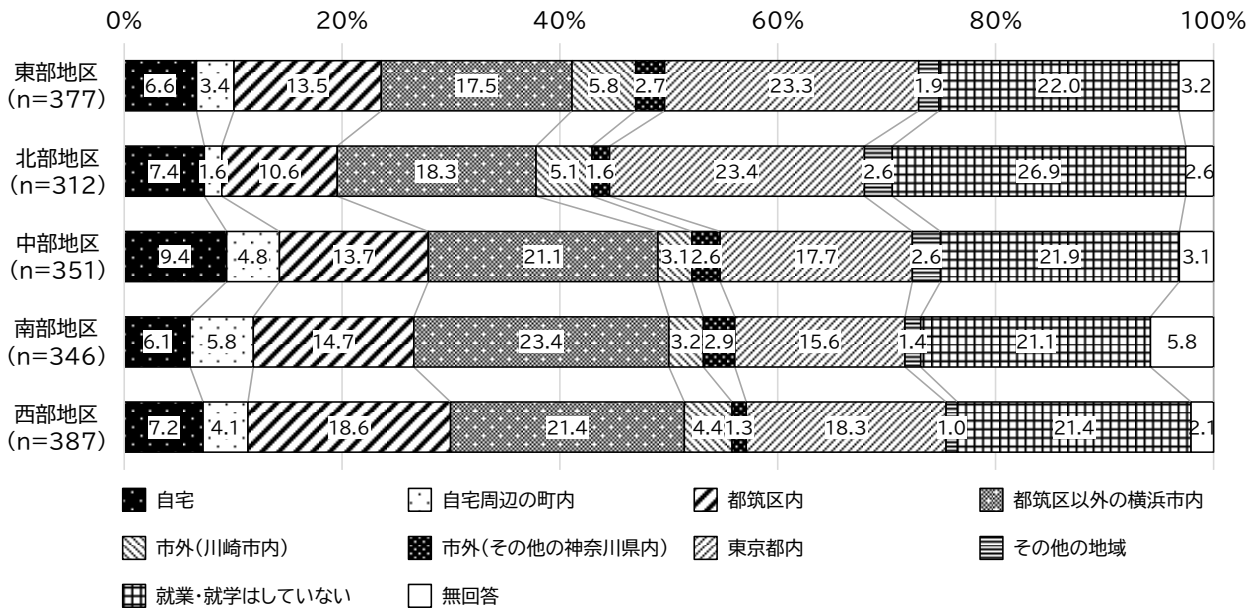
図 年代別 職場・学校の所在地



■ 地区別でみる特徴

東部地区では「東京都内」、北部地区と中部地区では「就業・就学はしていない」、南部地区と西部地区では「都筑区以外の横浜市内」が最も高くなっている。

図 地区別 職場・学校の所在地



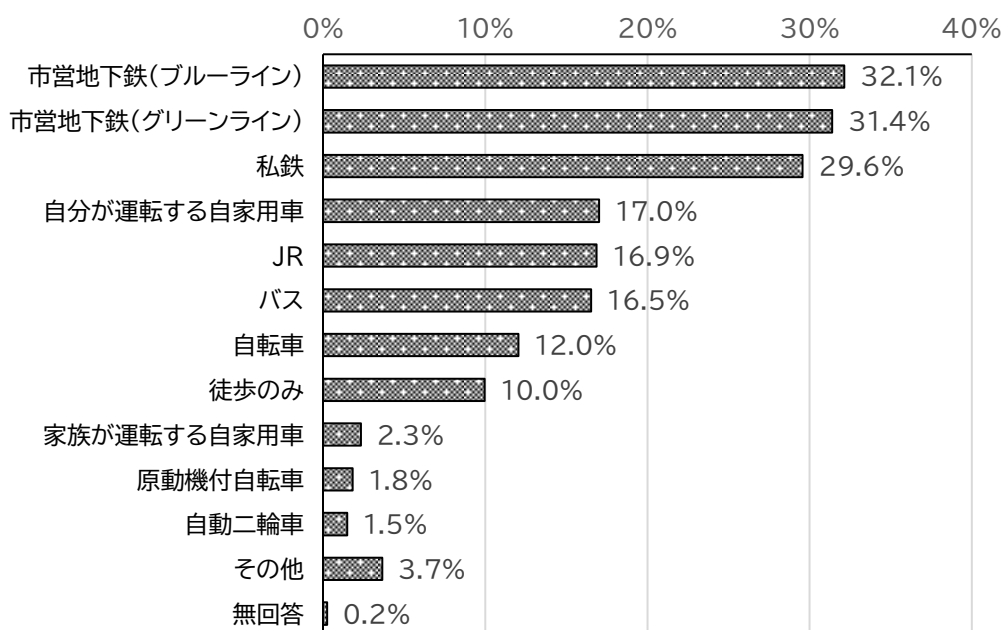
(2)通勤・通学の交通手段

「市営地下鉄(ブルーライン)」「市営地下鉄(グリーンライン)」「私鉄」の利用が多い

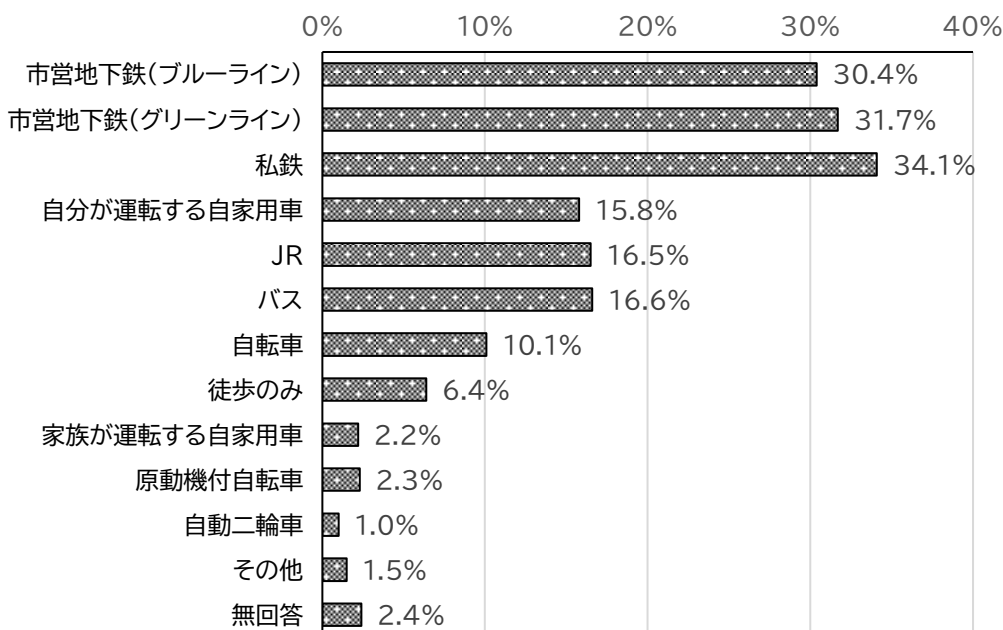
問5-1 通勤・通学の交通手段は何ですか。(問5で、2~8 を選択した方、○はいくつでも)

通勤・通学の手段は「市営地下鉄(ブルーライン)」が 32.1%と最も高く、次いで「市営地下鉄(グリーンライン)」31.4%、「私鉄」29.6%で、それぞれ 30%前後の人が利用している。以下「自分が運転する自家用車」17.0%、「JR」16.9%、「バス」16.5%と続く。

図 通勤・通学の交通手段(n=1,204)



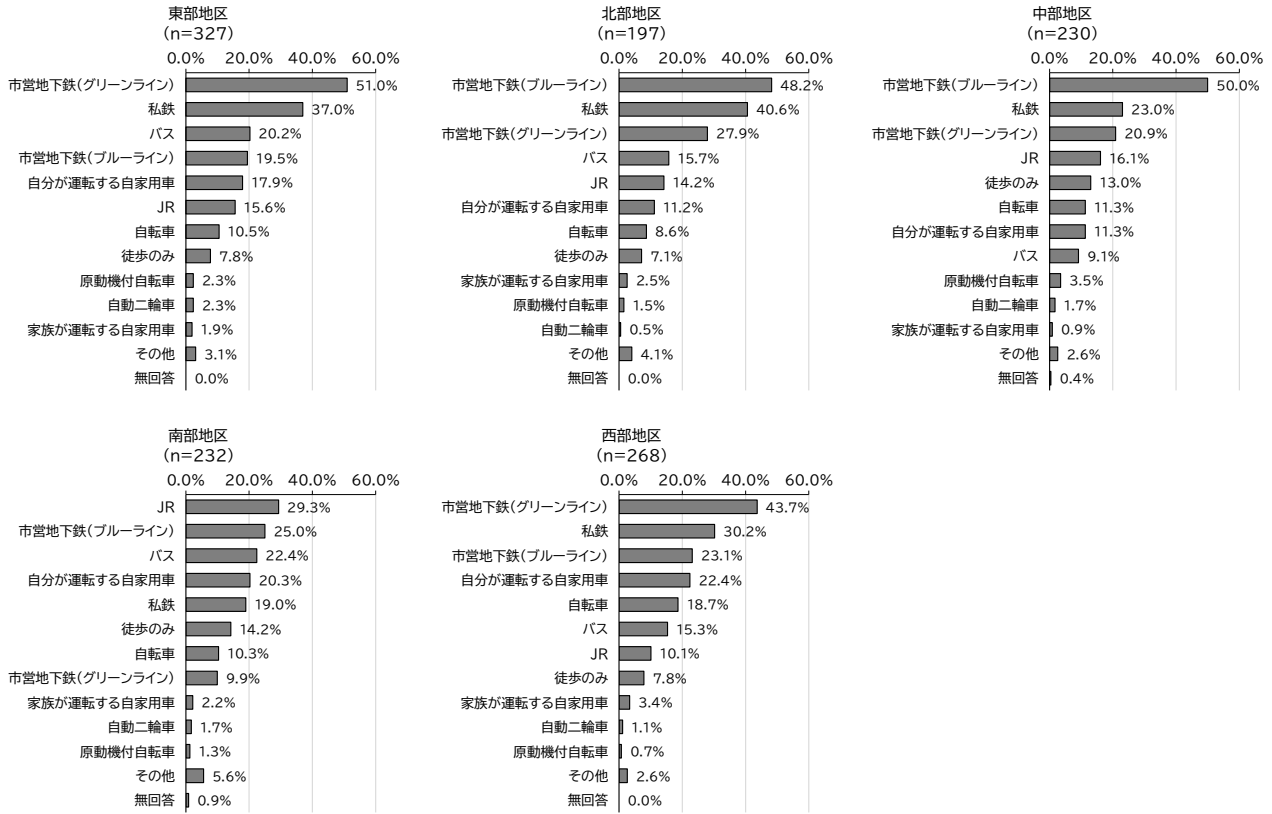
<参考> 図 通勤・通学の交通手段(令和元年度調査) (n=496)



■ 地区別でみる特徴

東部地区と西部地区では「市営地下鉄(グリーンライン)」、北部地区と中部地区では「市営地下鉄(ブルーライン)」、南部地区では「JR」が最も高くなっている。

図 地区別 通勤・通学の交通手段



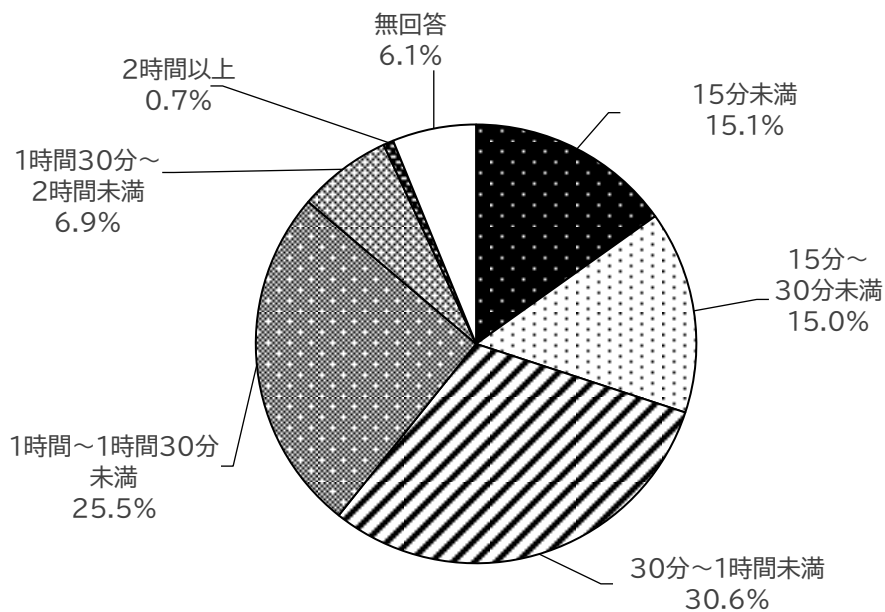
(3)通勤・通学にかかる時間

「30分～1時間未満」が約3割
年代別では10～20歳代で通勤時間が長い傾向

問5-2 家を出てから職場または学校までの通勤・通学にかかる時間はどのくらいですか。(問5で、2～8を選択した方、○はひとつ)

通勤・通学にかかる時間は「30分～1時間未満」が30.6%と最も高く、次いで「1時間～1時間30分未満」25.5%、「15分未満」15.1%となっている。

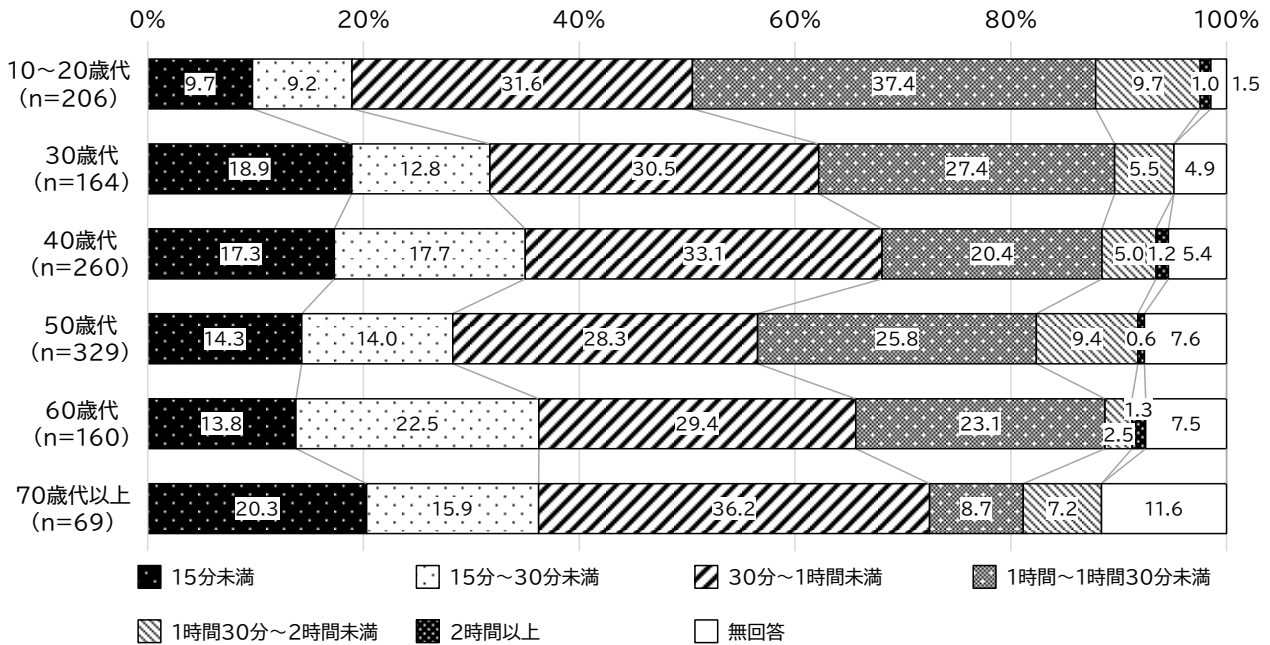
図 通勤・通学にかかる時間(n=1,204)



■ 年代別でみる特徴

10～20歳代では「1時間～1時間30分未満」、30歳代以上では「30分～1時間未満」が最も高くなっている。また、10～20歳代では通勤に1時間以上かかる割合が48.1%となっている。

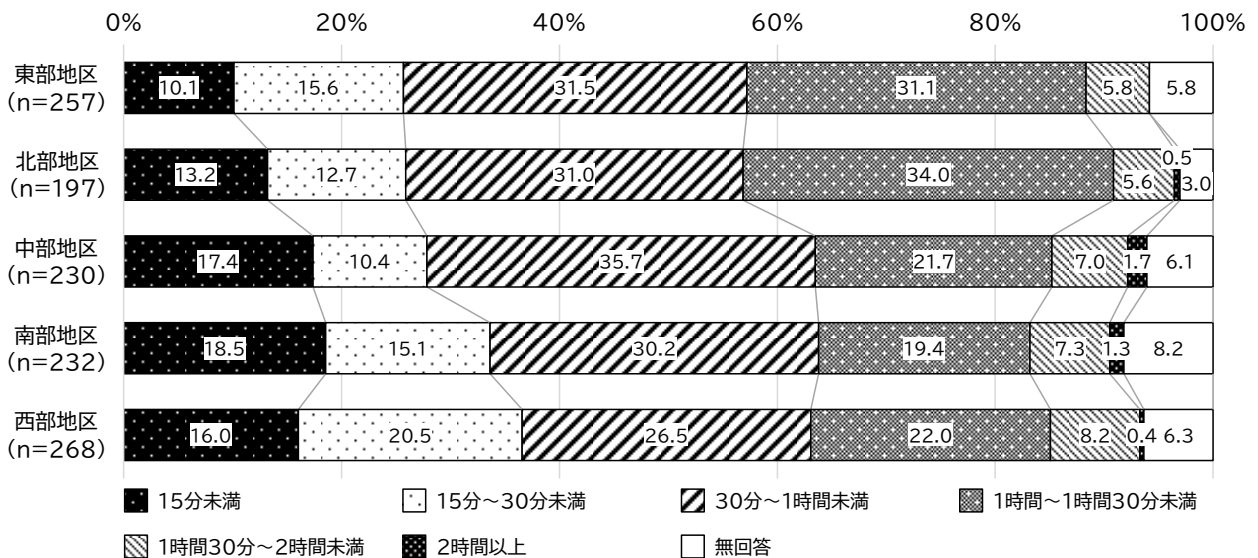
図 年代別 通勤・通学にかかる時間



■ 地区別でみる特徴

北部地区では「1時間～1時間30分未満」、その他の地区では「30分～1時間未満」が最も高くなっている。通勤に1時間以上かかる割合は北部地区で40.1%となっている。

図 地区別 通勤・通学にかかる時間



4. 地域での日頃の生活

(1)自治会・町内会への加入

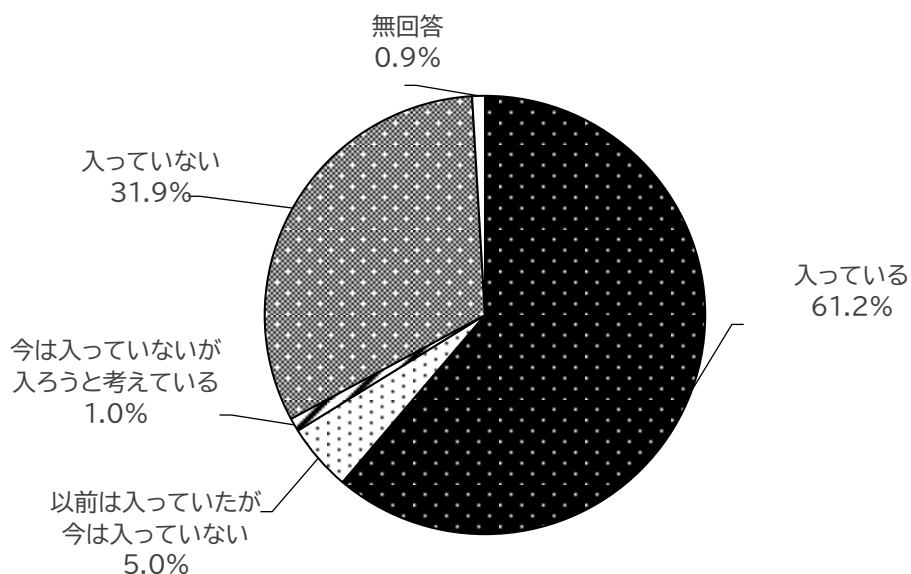
自治会・町内会加入率は6割強

60歳代以上では加入率が7割超、持家一戸建てや昭和39年以前居住開始では加入率はほぼ9割

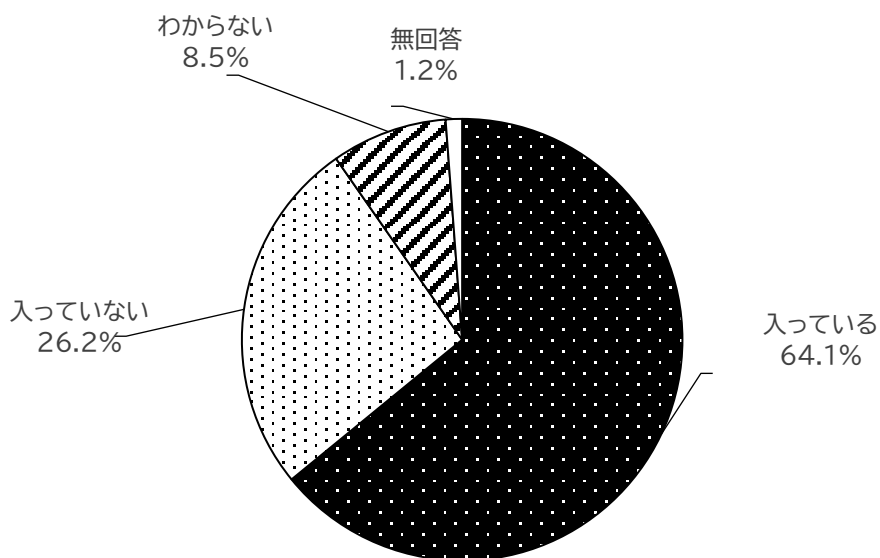
問6 あなたは、自治会町内会に入っていますか。(○はひとつ)

「入っている」が61.2%、「入っていない」が31.9%となっている。

図 自治会・町内会への加入(n=1,817)



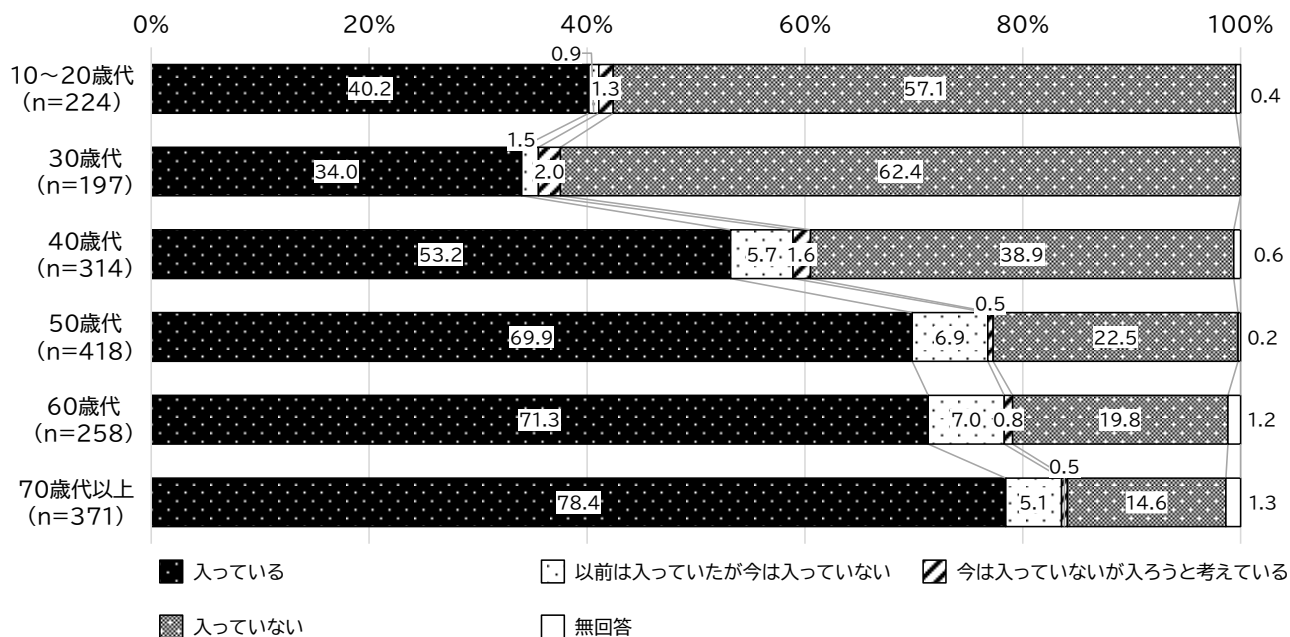
<参考>図 自治会・町内会への加入(令和元年度調査)(n=1,496)



■ 年代別でみる特徴

30歳代までの年代では「入っていない」、40歳代以上では「入っている」が最も高い。概ね年齢が高いほど数値も高くなっており、60歳代以上では加入率が7割を超えている。

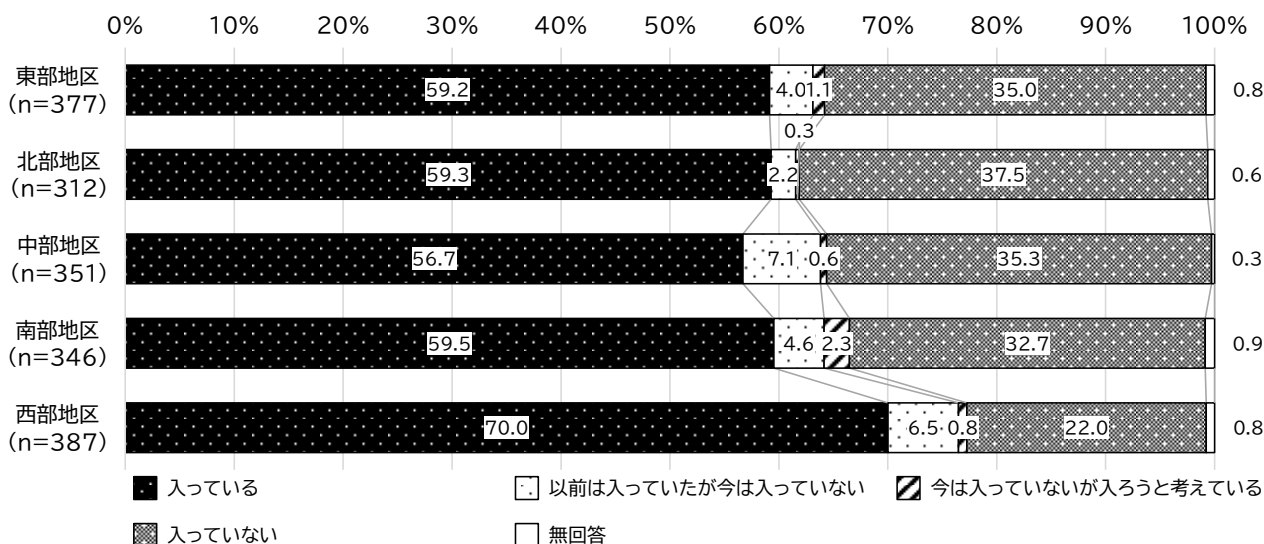
図 年代別 自治会・町内会への加入



■ 地区別でみる特徴

いずれの地区でも「入っている」が最も高く、特に西部地区では7割の高い数値となっている。

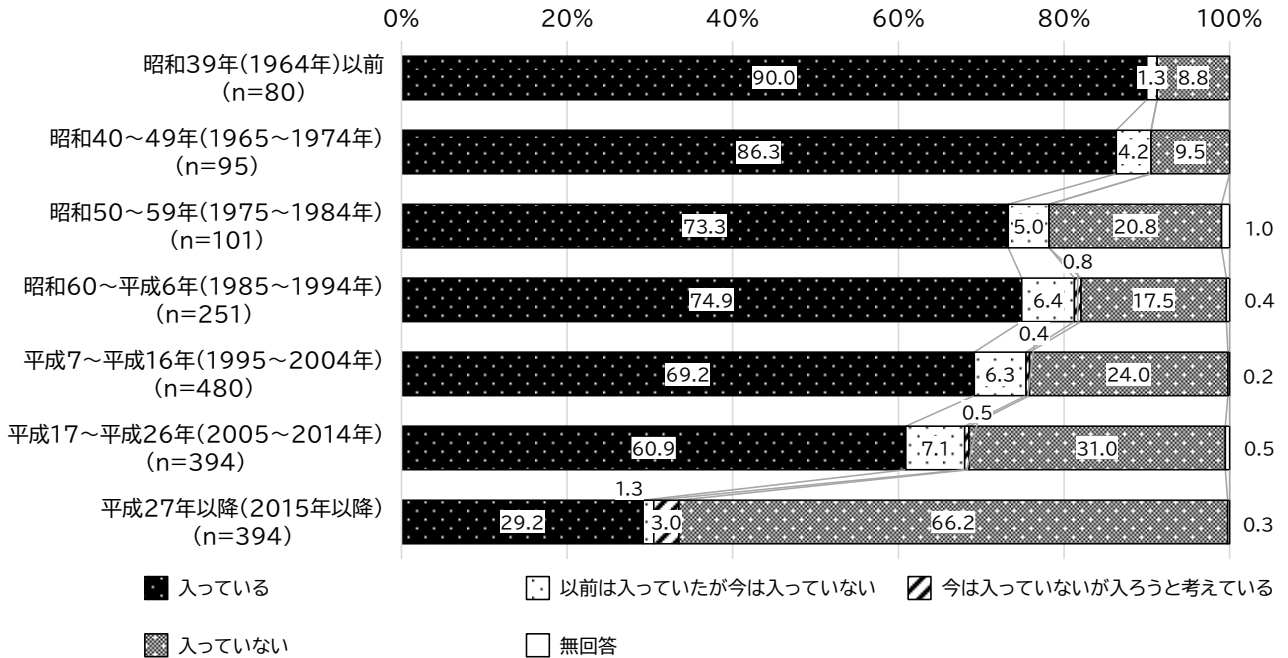
図 地区別 自治会・町内会への加入



■ 居住開始時期別でみる特徴

平成 27 年以降(2015 年以降)では「入っていない」が最も高く 66.2%となっているが、それ以外では「入っている」が最も高く、居住開始時期が早いほど高い傾向にある。特に居住開始時期が昭和 39 年(1964 年)以前では加入率が9割に達している。

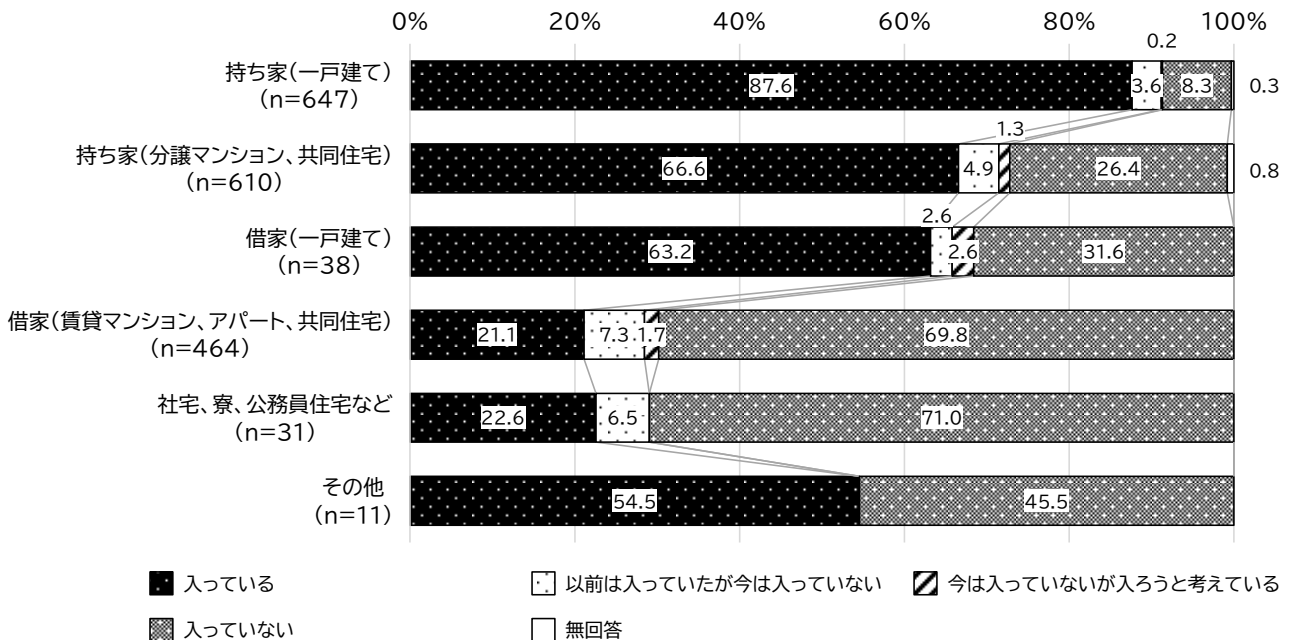
図 居住開始時期別 自治会・町内会への加入



■ 居住形態別でみる特徴

持ち家(一戸建て)、持ち家(分譲マンション、共同住宅)、借家(一戸建て)では「入っている」が最も高くなっており、特に持ち家(一戸建て)で加入率が高く、87.6%となっている。一方、借家(賃貸マンション、アパート、共同住宅)、社宅、寮、公務員住宅などでは「入っていない」が最も高く、非加入率は7割前後となっている。

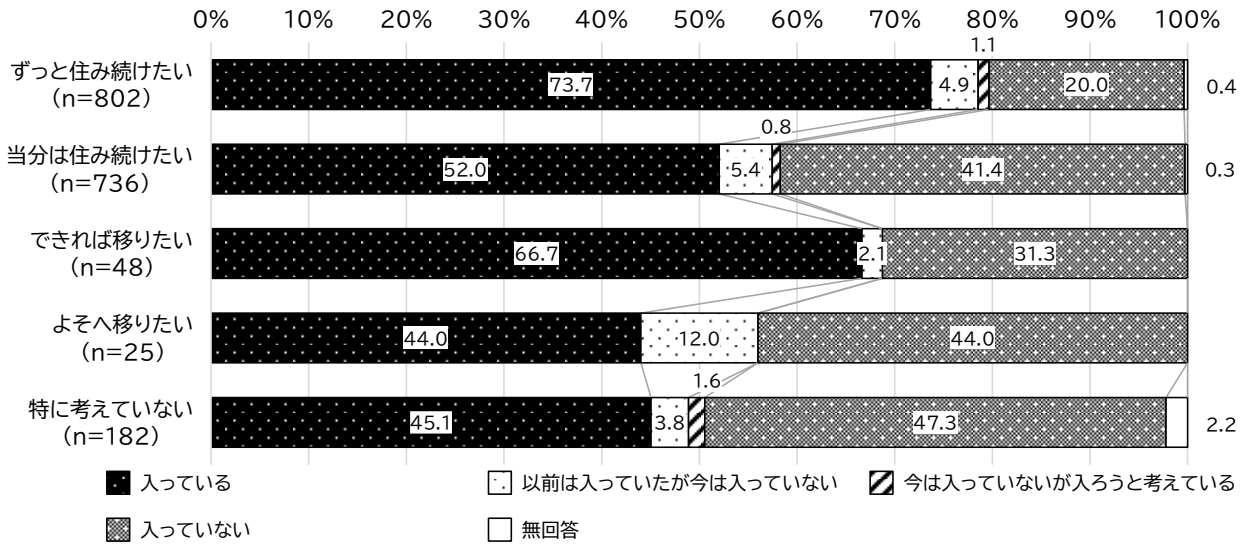
図 居住形態別 自治会・町内会への加入



■ 居留意向別でみる特徴

ずっと住み続けたい、当分は住み続けたい、できれば移りたい層では「入っている」、よそへ移りたい層では「入っている」「入っていない」が同率、特に考えていない層では「入っていない」が最も高くなっている。ずっと住み続けたい層では加入率が7割を超えている。

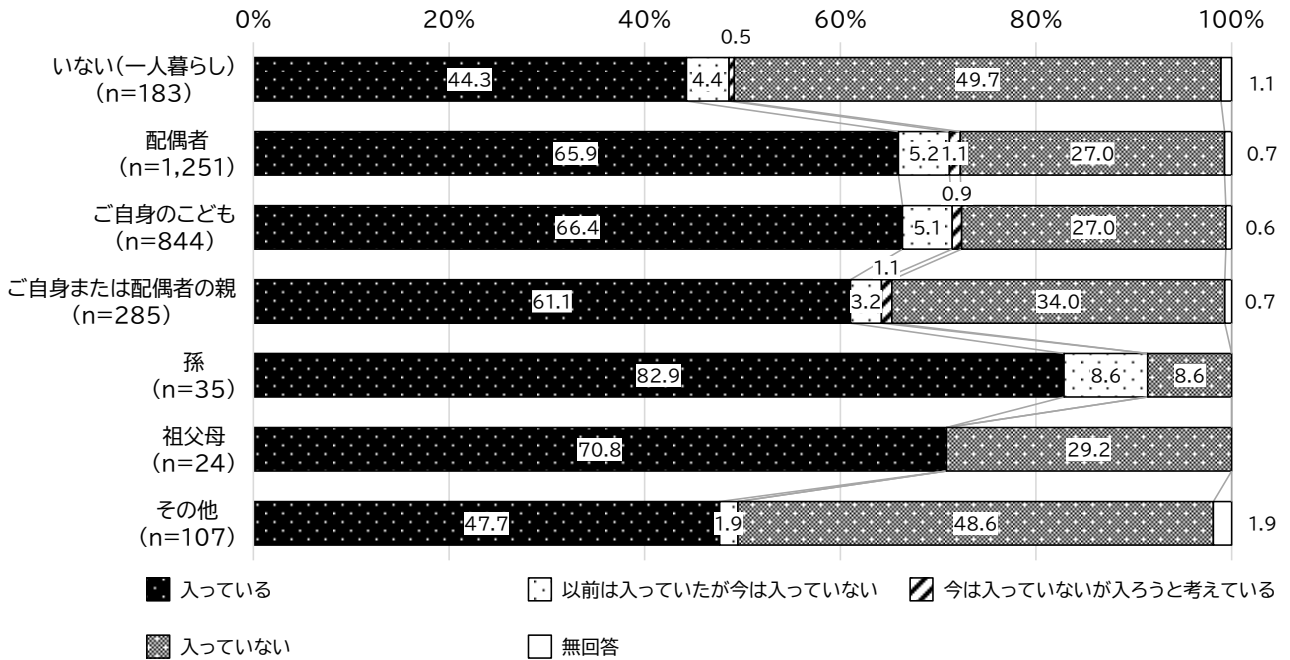
図 居留意向別 自治会・町内会への加入



■ 家族形態でみる特徴

同居家族がない(一人暮らし)とその他では「入っていない」が最も高く、それ以外では「入っている」が最も高くなっている。

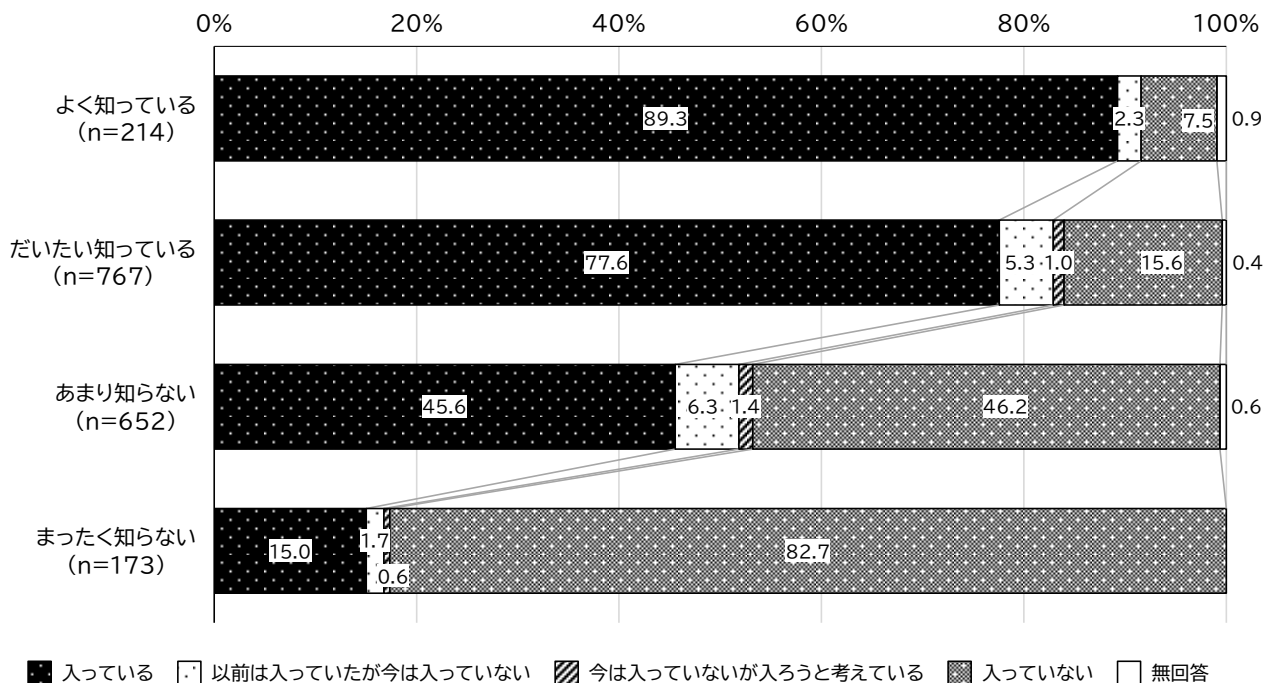
図 家族形態別 自治会・町内会への加入



■ 「問 6 隣近所に住んでいる人を知っているか」でみる特徴

隣近所に住んでいる人を“よく知っている”、“だいたい知っている”では「入っている」が 7 割以上と高く、“あまり知らない”では「入っている」と「入っていない」が 4 割台で拮抗、“まったく知らない”では「入っていない」が 8 割を超えて多くなっている。

図 「問 6 隣近所に住んでいる人を知っているか」別 自治会・町内会への加入



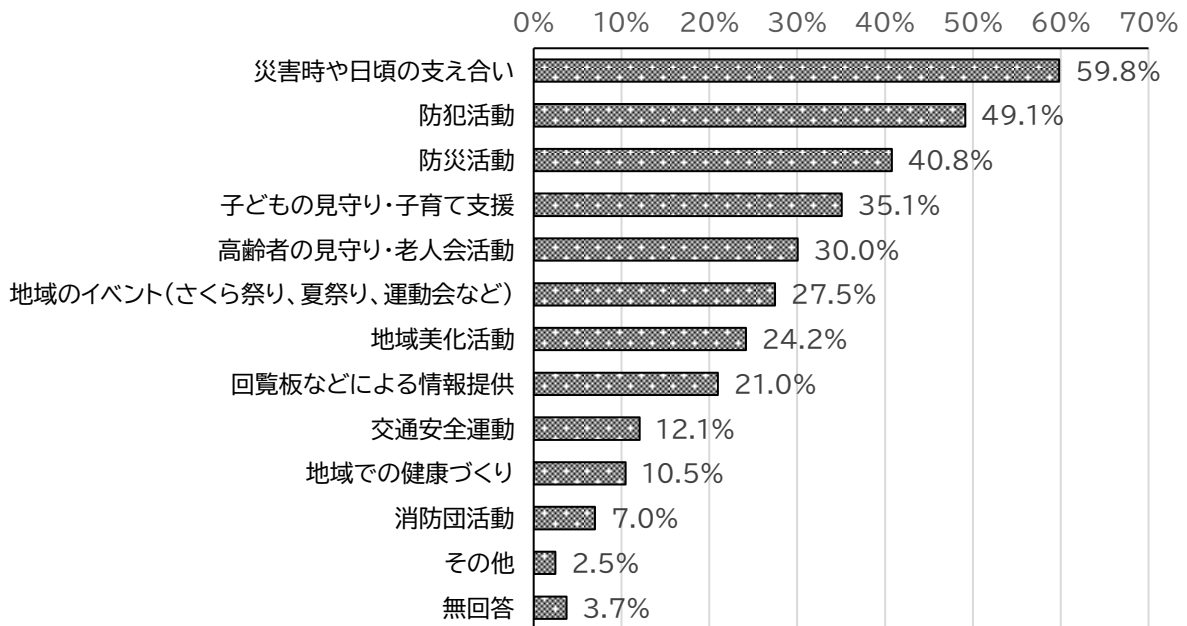
(2)自治会・町内会に期待する取組

自治会町内会活動に期待するのは「災害時や日頃の支え合い」

問7 あなたが自治会町内会活動に期待することはどのような取組ですか。(〇はいくつでも)

「災害時や日頃の支え合い」が59.8%と最も高く、次いで「防犯活動」が49.1%、「防災活動」が40.8%、「子供の見守り・子育て支援」が35.1%となっている。

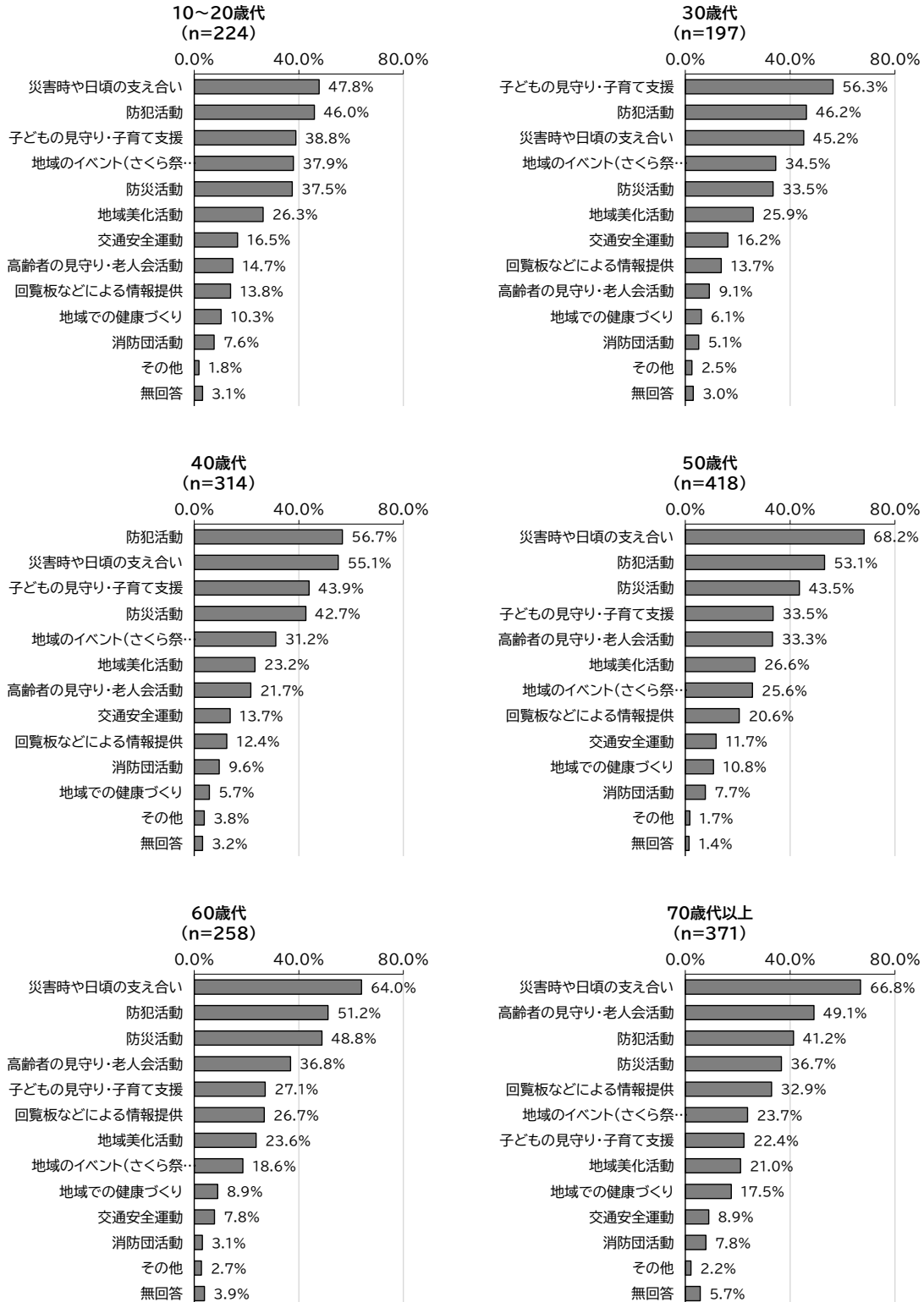
図 自治会・町内会に期待する取組(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

自治会町内会活動に期待する取組を年代別にみると、10～20 歳代、50 歳代以上では「災害時や日頃の支え合い」、30 歳代では「子どもの見守り・子育て支援」、40 歳代では「防犯活動」が最も高くなっている。

図 年代別 自治会・町内会に期待する取組(n=1,817)



(3)隣近所に住んでいる人を知っているか

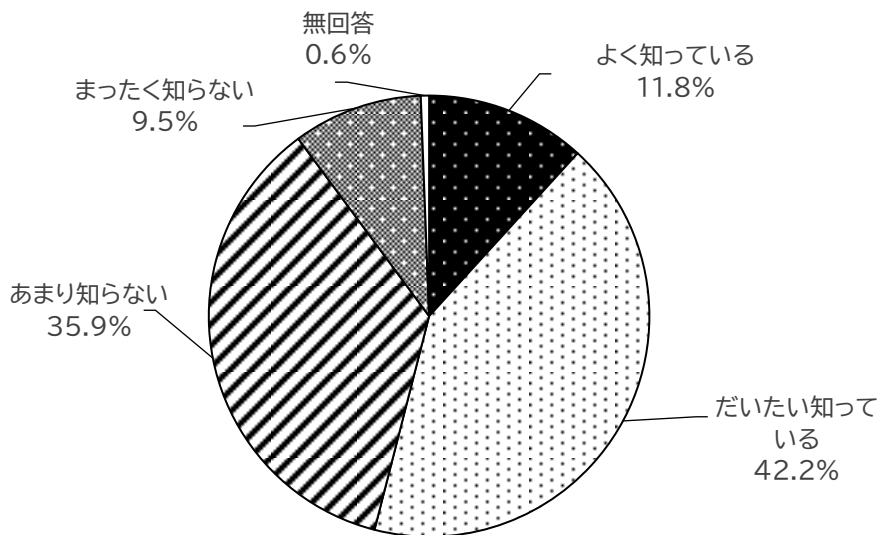
「だいたい知っている」「よく知っている」と合わせると、過半数が隣近所に住んでいる人を『知っている』
年齢が高いほど「よく知っている」の数値も高い

問8 あなたは、隣近所に住んでいる人を知っていますか。(○はひとつ)

「だいたい知っている」が 42.2%と最も高く、「よく知っている」11.8%と合わせると 54.0%は「知っている」と回答している。

「あまり知らない」は 35.9%で、「まったく知らない」9.5%と合わせると 45.4%は「知らない」と回答している。

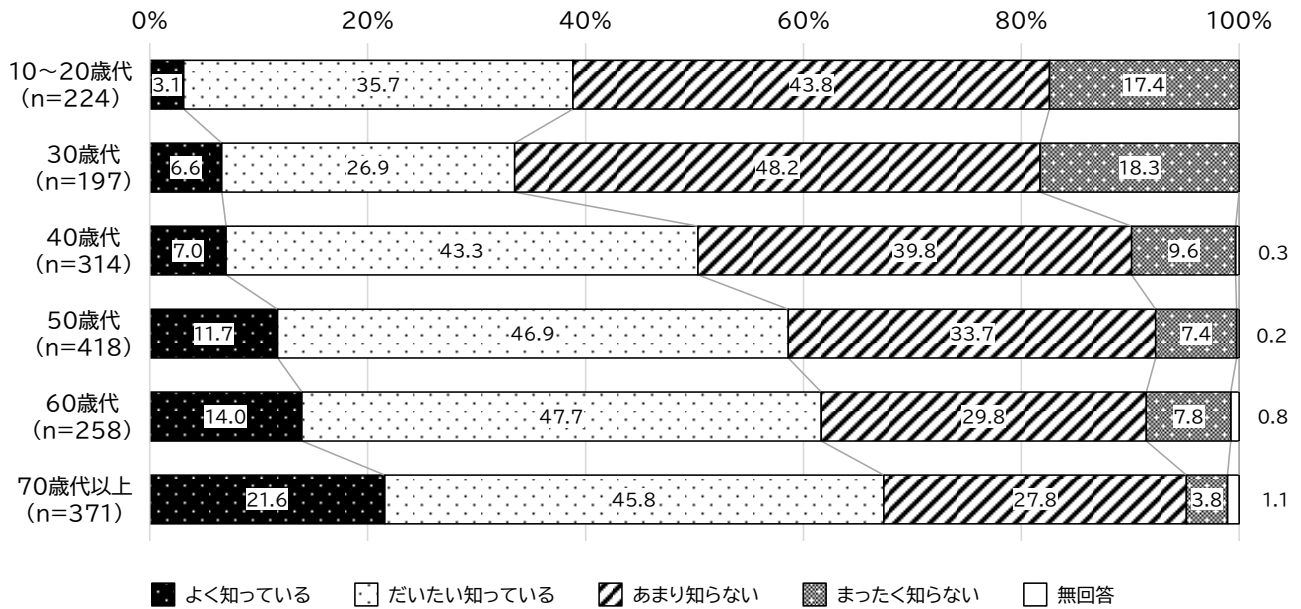
図 隣近所に住んでいる人を知っているか(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

30歳代までの年代では「あまり知らない」、40歳代以上では「だいたい知っている」が最も高い。年齢が高いほど「よく知っている」の数値も高く、70歳代以上では2割を超えている。また「あまり知らない」「全く知らない」を合わせた数値は30歳代で特に高く、66.5%となっている。

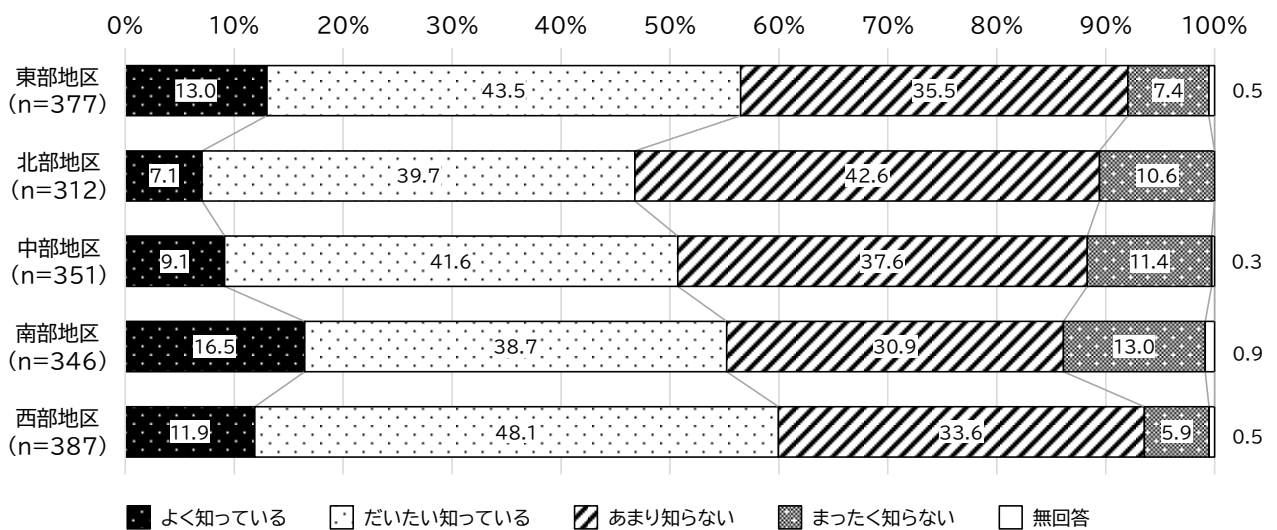
図 年代別 隣近所に住んでいる人を知っているか



■ 地区別でみる特徴

北部地区では「あまり知らない」、それ以外の地区では「だいたい知っている」が最も高い。「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせた数値が最も高いのは西部地区、次いで東部地区、「あまり知らない」「まったく知らない」を合わせた数値が最も高いのは北部地区である。

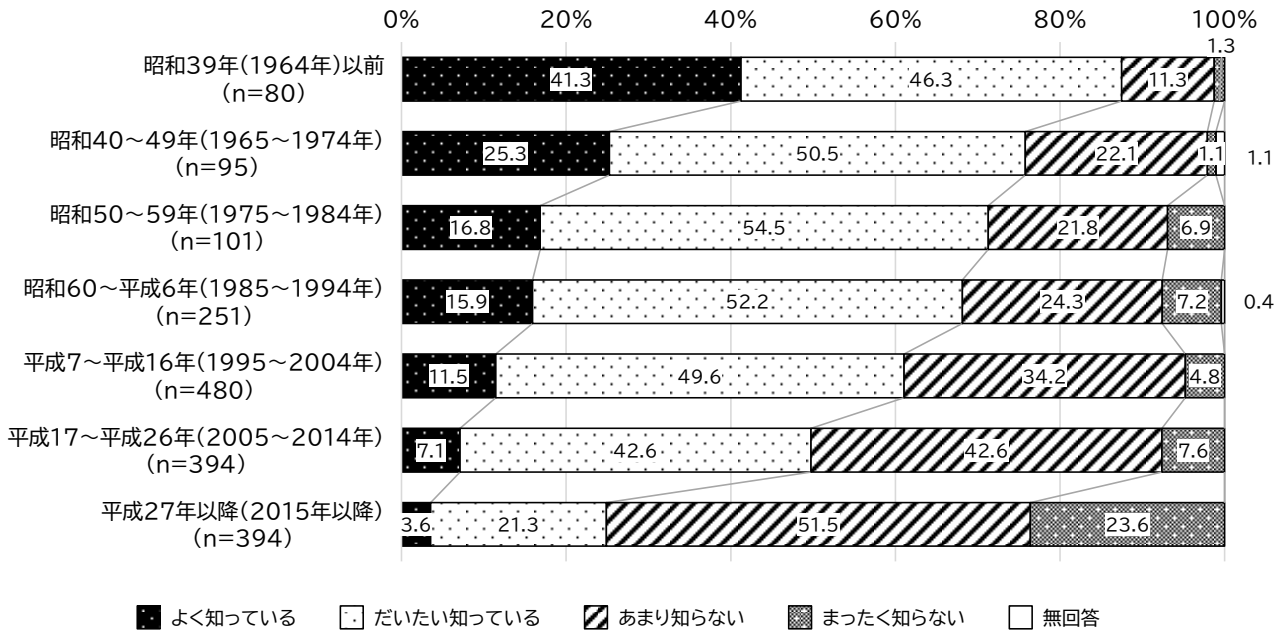
図 地区別 隣近所に住んでいる人を知っているか



■ 居住開始時期別でみる特徴

居住開始時期が平成 27 年以降(2015 年以降)の場合は「あまり知らない」、平成 17～平成 26 年(2005～2014 年)の場合は「だいたい知っている」「あまり知らない」が同率、居住開始時期がそれ以前の場合は「だいたい知っている」が最も高い。居住開始時期が早いほど「よく知っている」の数値が高く、昭和 39 年(1964 年)以前では4割を超えている。「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせた数値も居住開始時期が早いほど高く、昭和 39 年(1964 年)以前では 87.6%となっている。

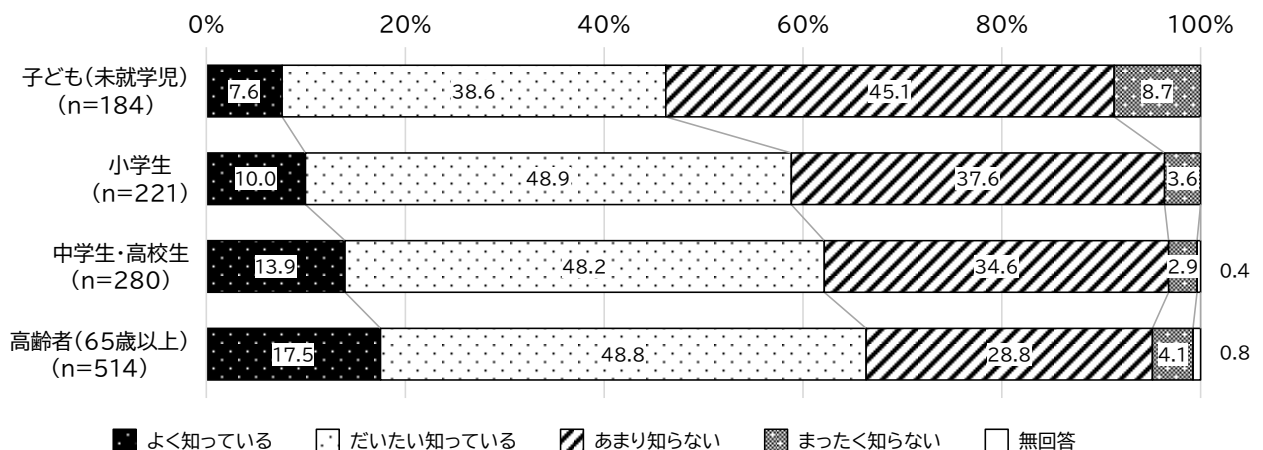
図 居住開始時期別 隣近所に住んでいる人を知っているか



■ 未就学児、小学生、中学生・高校生、高齢者の同居別でみる特徴

子ども(未就学児)と同居しているケースでは「あまり知らない」、それ以外では「だいたい知っている」が最も高い。「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせた数値が最も高いのは高齢者と同居しているケースで、66.3%となっている。「あまり知らない」「まったく知らない」を合わせた数値が最も高いのは子ども(未就学児)と同居しているケースで、53.8%となっている。

図 未就学児、小学生、中学生・高校生、高齢者の同居別 隣近所に住んでいる人を知っているか

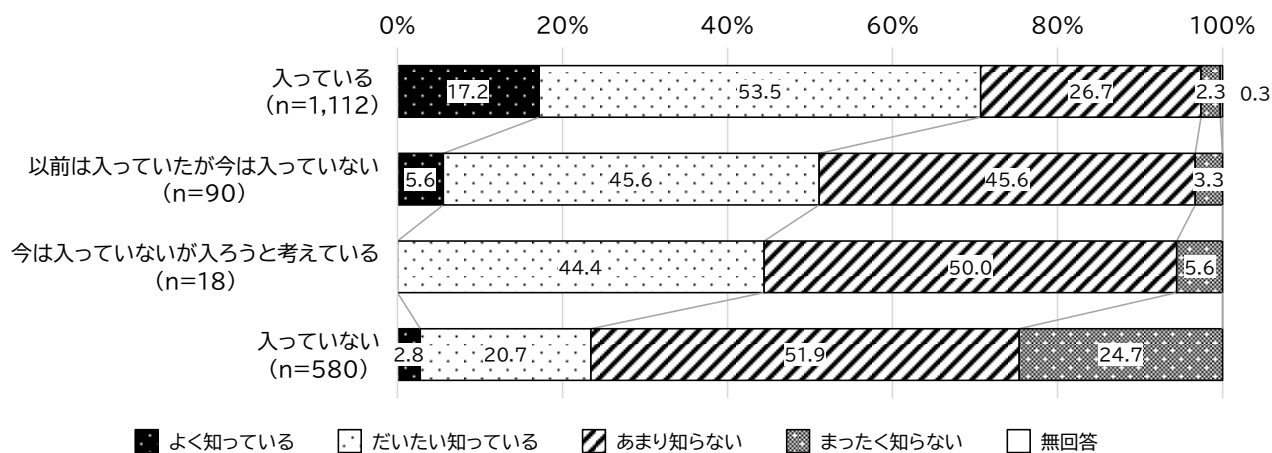


■ 自治会加入でみる特徴

自治会に入っているケースでは「だいたい知っている」、以前は入っていたが今は入っていないケースでは「だいたい知っている」「あまり知らない」が同率、今は入っていないが入ろうと考えているケースと入っていないケースでは「あまり知らない」が最も高くなっている。また、自治会に入っていないケースでは「まったく知らない」が2割を超え、4分の1近くを占めている。

また、自治会に入っているケースでは「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせた数値が70.7%と7割に達している一方、自治会に入っていないケースでは「あまり知らない」「まったく知らない」を合わせた数値が76.6%となっている。

図 自治会加入別 隣近所に住んでいる人を知っているか



(4)近所付き合い

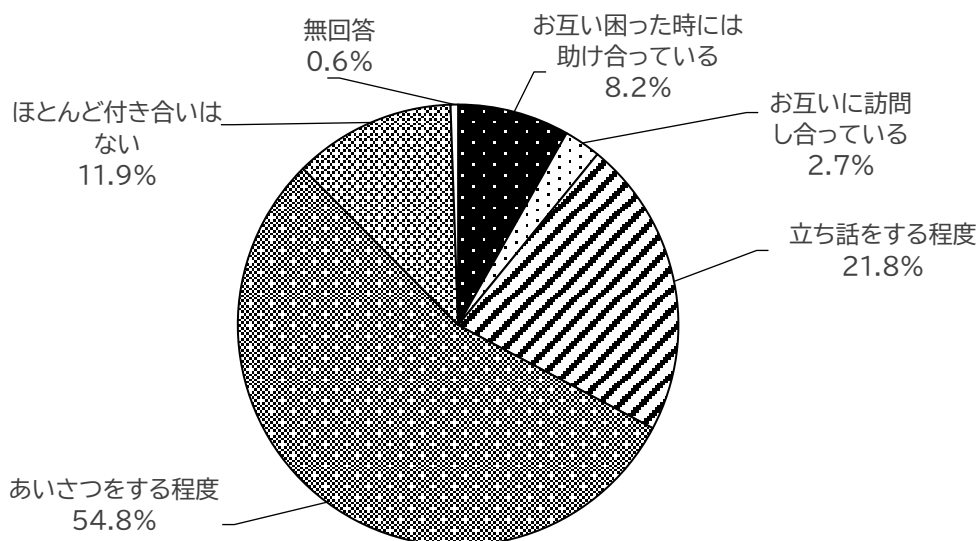
「あいさつをする程度」が過半数

「お互い困った時には助け合っている」の数値が最も高いのは70歳代以上、低いのは10～20歳代

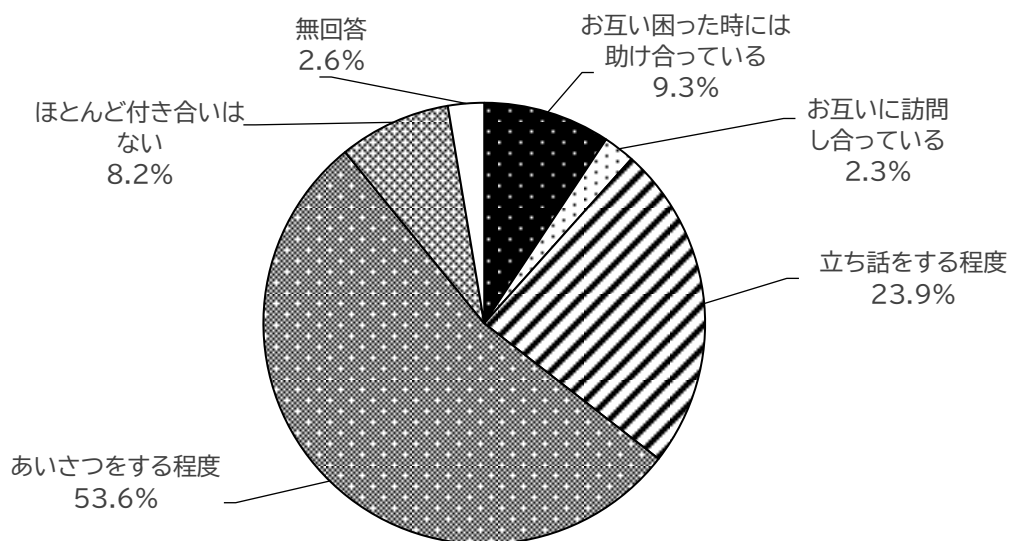
問9 あなたは日頃、どの程度の近所づきあいをしていますか。(〇はひとつ)

「あいさつをする程度」が54.8%と最も高く、次いで「立ち話をする程度」21.8%、「ほとんど付き合いはない」11.9%となっている。

図 近所づきあい(n=1,817)



参考> 図 自治会・町内会への加入(令和元年度調査) (n=1,496)

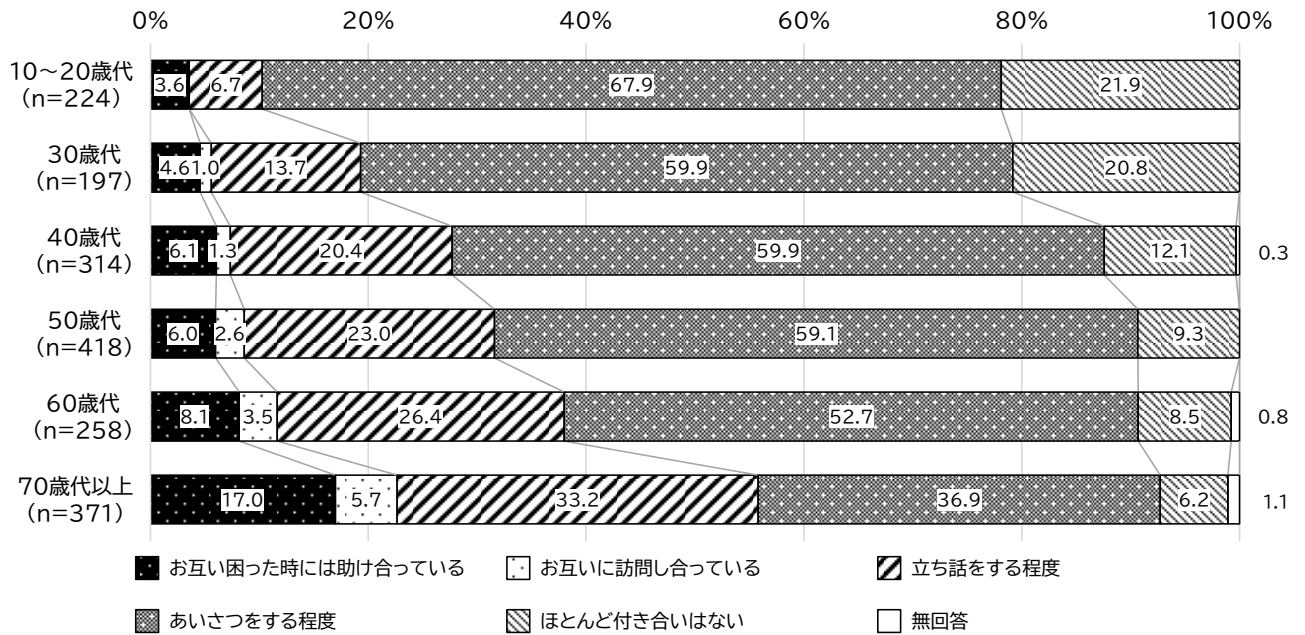


■ 年代別でみる特徴

いずれの年代でも「あいさつをする程度」が最も高くなっている。また 70 歳代以上では「立ち話をする程度」の数値が3割を超え、30 歳代までの年代では「ほとんど付き合いはない」が2割を超えている。「お互い困った時には助け合っている」の数値が最も高いのは 70 歳代以上、低いのは 10～20 歳代である。

「お互い困った時には助け合っている」「お互いに訪問し合っている」「立ち話をする程度」は年代が高いほど高く、「あいさつをする程度」「ほとんど付き合いはない」は年代が低いほど高い傾向となっている。

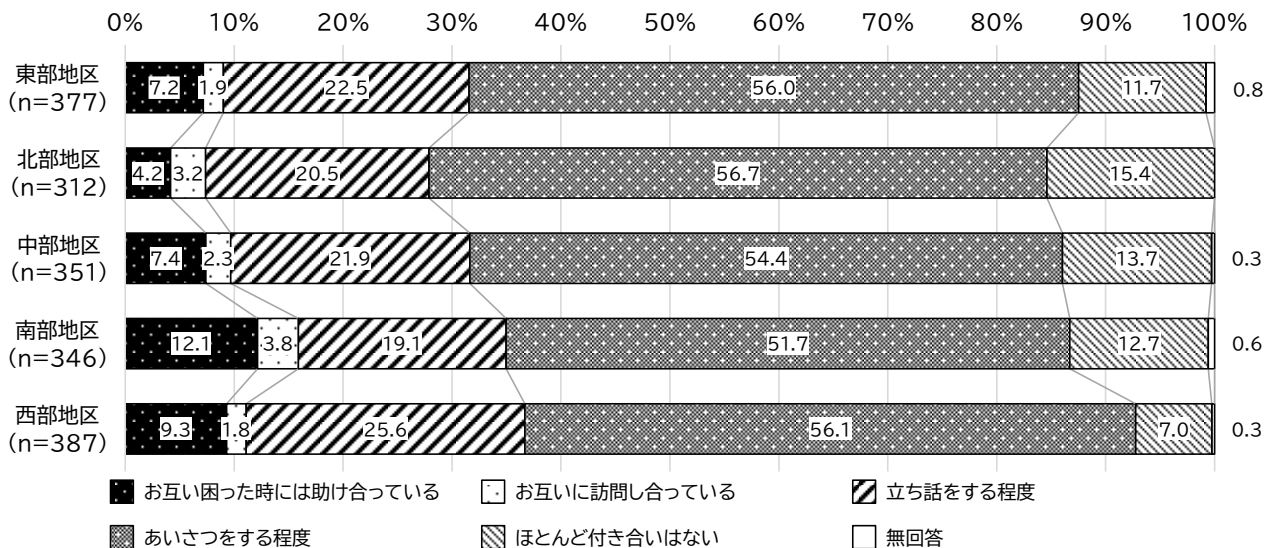
図 年代別 近所づきあい



■ 地区別でみる特徴

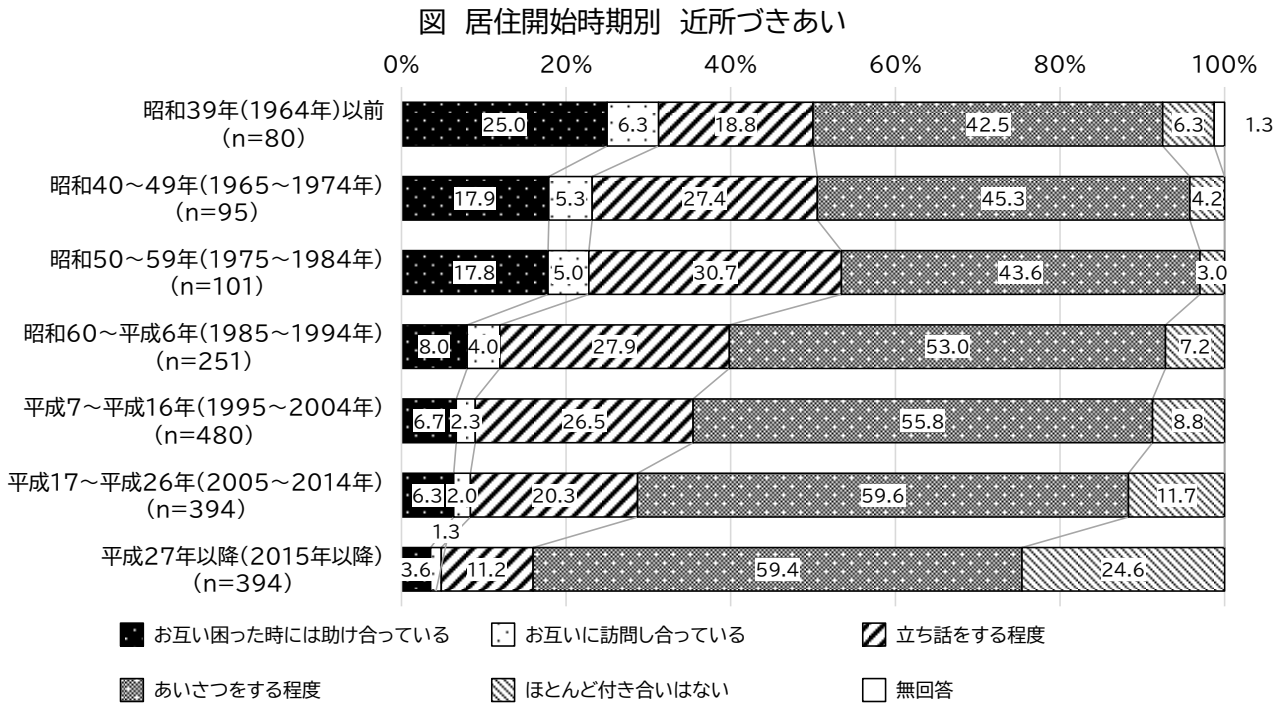
いずれの地区でも「あいさつをする程度」が最も高くなっている。「お互い困った時には助け合っている」の数値が最も高いのは南部地区、低いのは北部地区である。「ほとんど付き合いはない」の数値が最も高いのは北部地区、低いのは西部地区である。

図 地区別 近所づきあい



■ 居住開始時期別でみる特徴

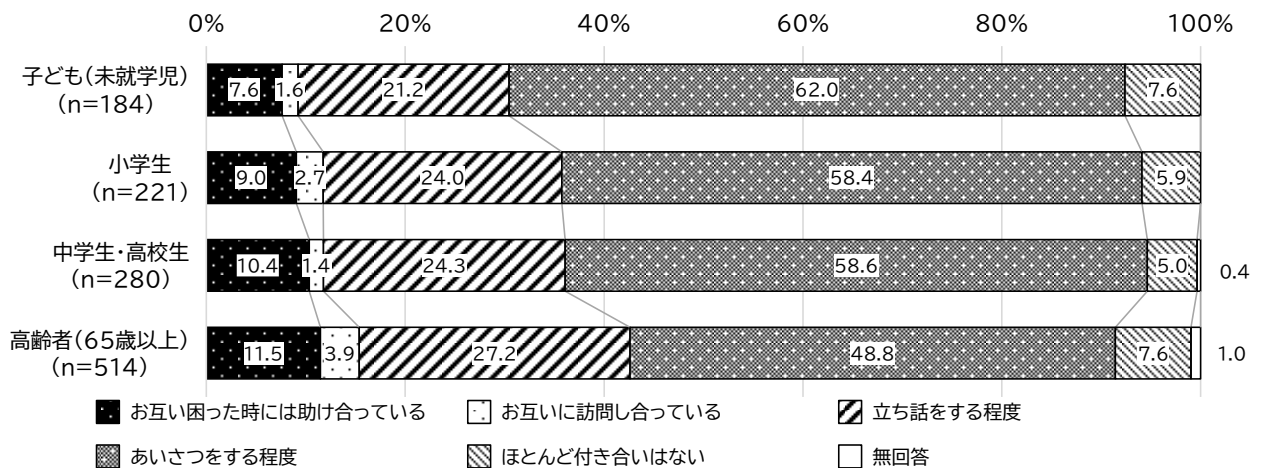
いずれも「あいさつをする程度」が最も高くなっている。居住開始時期が早いほど「お互い困った時には助け合っている」「お互いに訪問し合っている」の数値が高い。



■ 未就学児の同居、小学生の同居、中学生・高校生、高齢者の同居

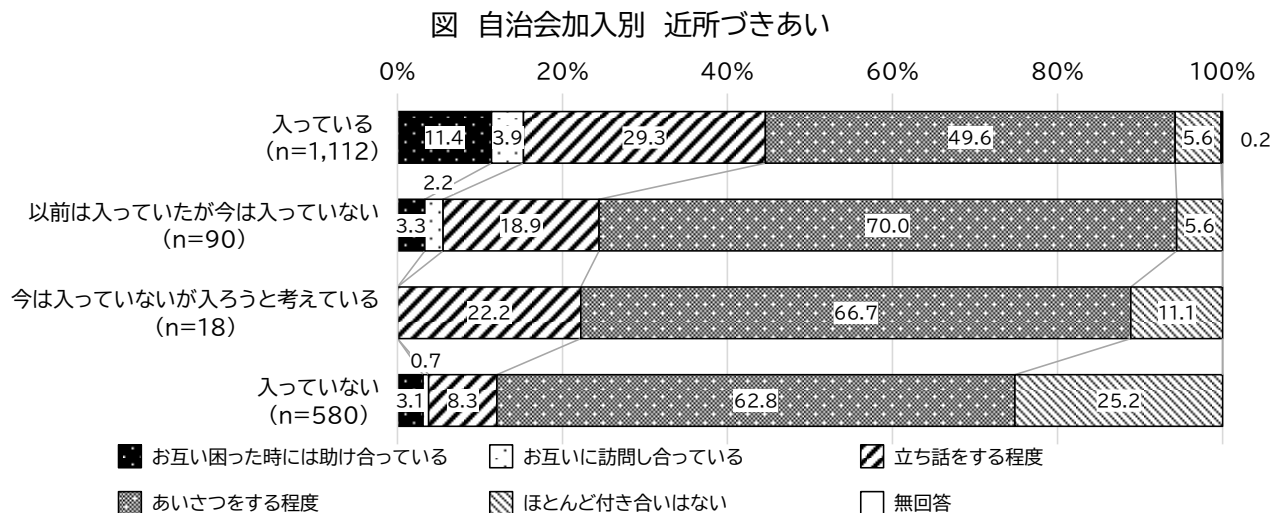
いずれも「あいさつをする程度」が最も高くなっており、特に未就学児と同居のケースでは6割を超えている。

図 未就学児の同居、小学生の同居、高齢者の同居別 近所づきあい



■ 自治会加入でみる特徴

いずれも「あいさつをする程度」が最も高くなっており、特に以前は入っていたが今は入っていないケースでは7割に達している。「お互い困った時には助け合っている」が1割を超えているのは自治会に入っているケースのみである。一方、自治会に入っていないケースでは「ほとんど付き合いはない」が25.2%と、全体の4分の1を占めている。



(5)地域の助け合い

近所の方に手助けできることは「安否確認の声掛け」
 手伝ってほしいことは「災害時の避難の手助け」

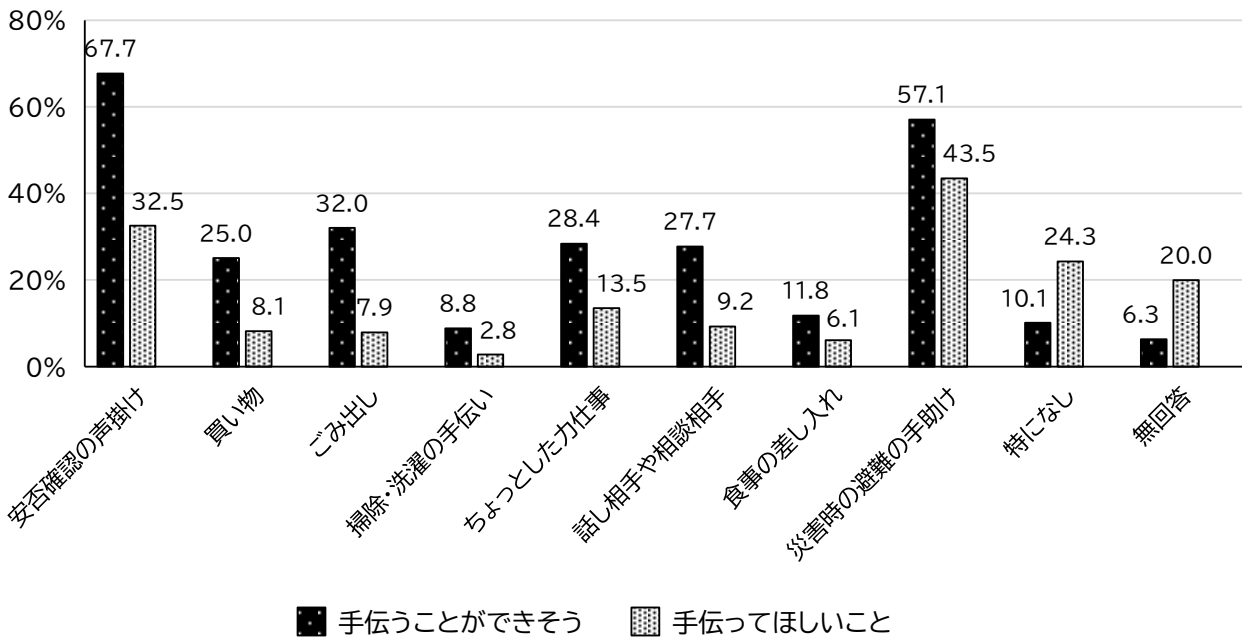
問 10 近所で困っている方がいた時に、あなたが手伝うことができそうなものはありますか。

また、あなたが困った時にご近所から手伝ってほしいことはありますか。(〇はいくつでも)

近所の方に手助けできることは「安否確認の声掛け」が 67.7%で最も高く、「災害時の避難の手助け」57.1%、「ごみ出し」32.0%、「ちょっとした力仕事」28.4%となっている。

手伝ってほしいことは「災害時の避難の手助け」が 43.5%で最も高く、「安否確認の声掛け」が 32.5%となっており、「特になし」は 24.3%である。

図 地域の助け合い(n=1,817)



(6)地域情報の入手と情報発信手段

身近な地域情報の入手手段は「地域の回覧板・掲示板」、次いで「広報よこはま」
 今後力を入れてほしい情報発信手段は「区のホームページ」、若い世代でSNSの充実が望まれている

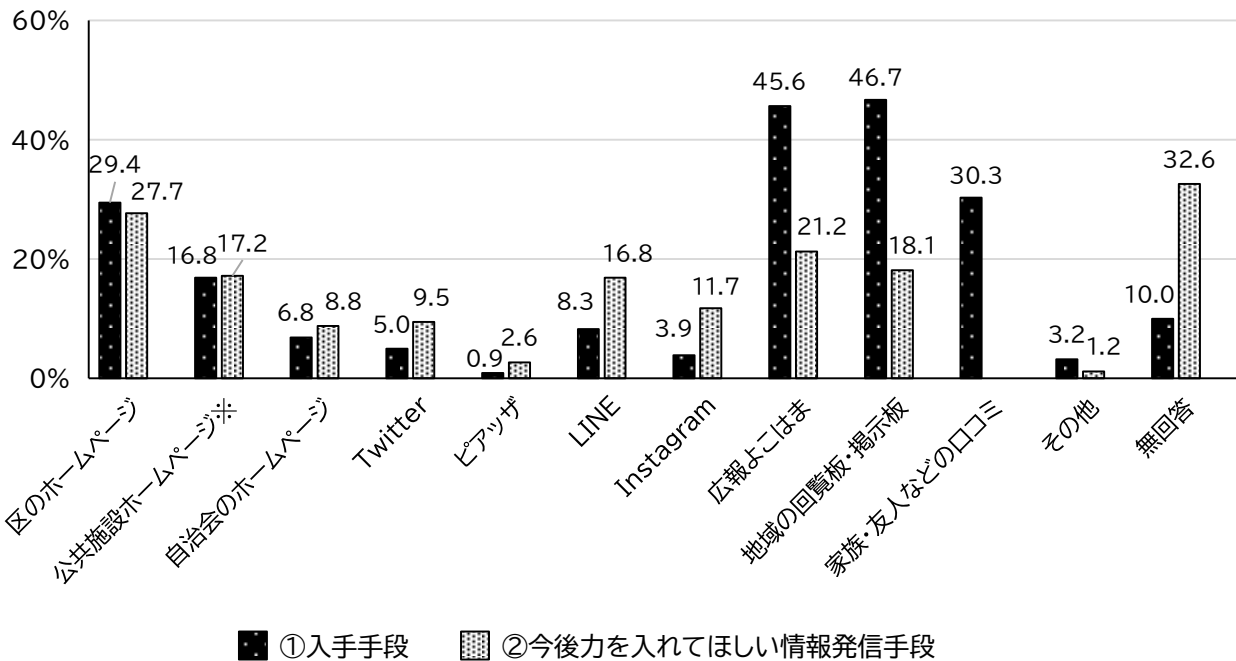
問 11 身近な地域情報(地域のお祭り、乳幼児が参加できる教室、介護予防の講座、障害児・者施設の自主製品販売、イベントなど)の「①入手手段」について、○をつけてください。

また、「②今後力を入れてほしい情報発信手段」に○をつけてください。

身近な地域情報の入手手段は「地域の回覧板・掲示板」が 46.7%で最も高く、次いで「広報よこはま」が 45.6%、以下「家族・友人などの口コミ」30.3%、「区のホームページ」29.4%となっている。

今後力を入れてほしい情報発信手段は「区のホームページ」が 27.7%で最も高く、次いで「広報よこはま」21.2%となっている。

図 地域情報の入手と情報発信手段(n=1,817)

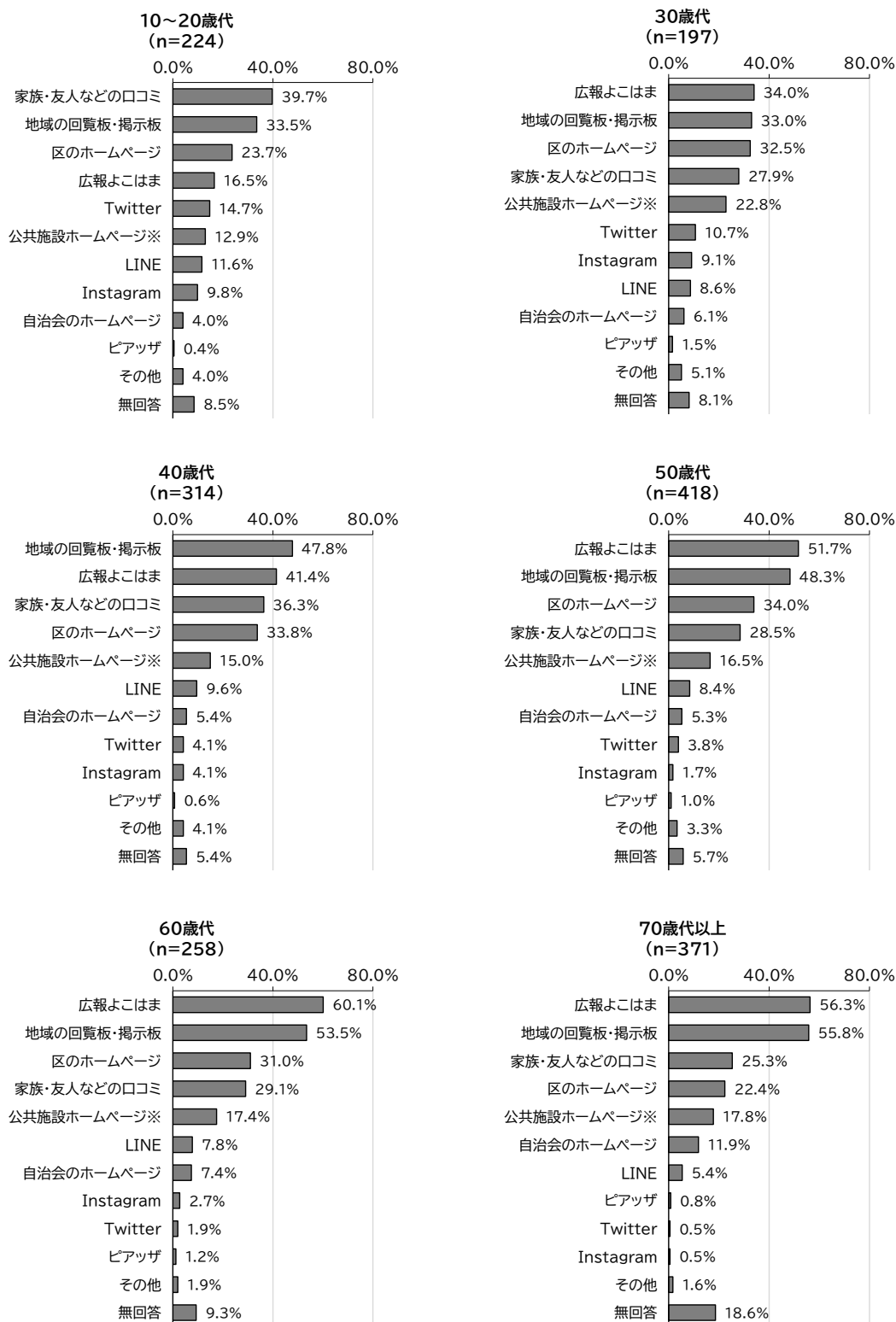


※ピアッツァとは…街に暮らす人同士が情報を発信し合う地域 SNS アプリです。

■ 年代別でみる特徴

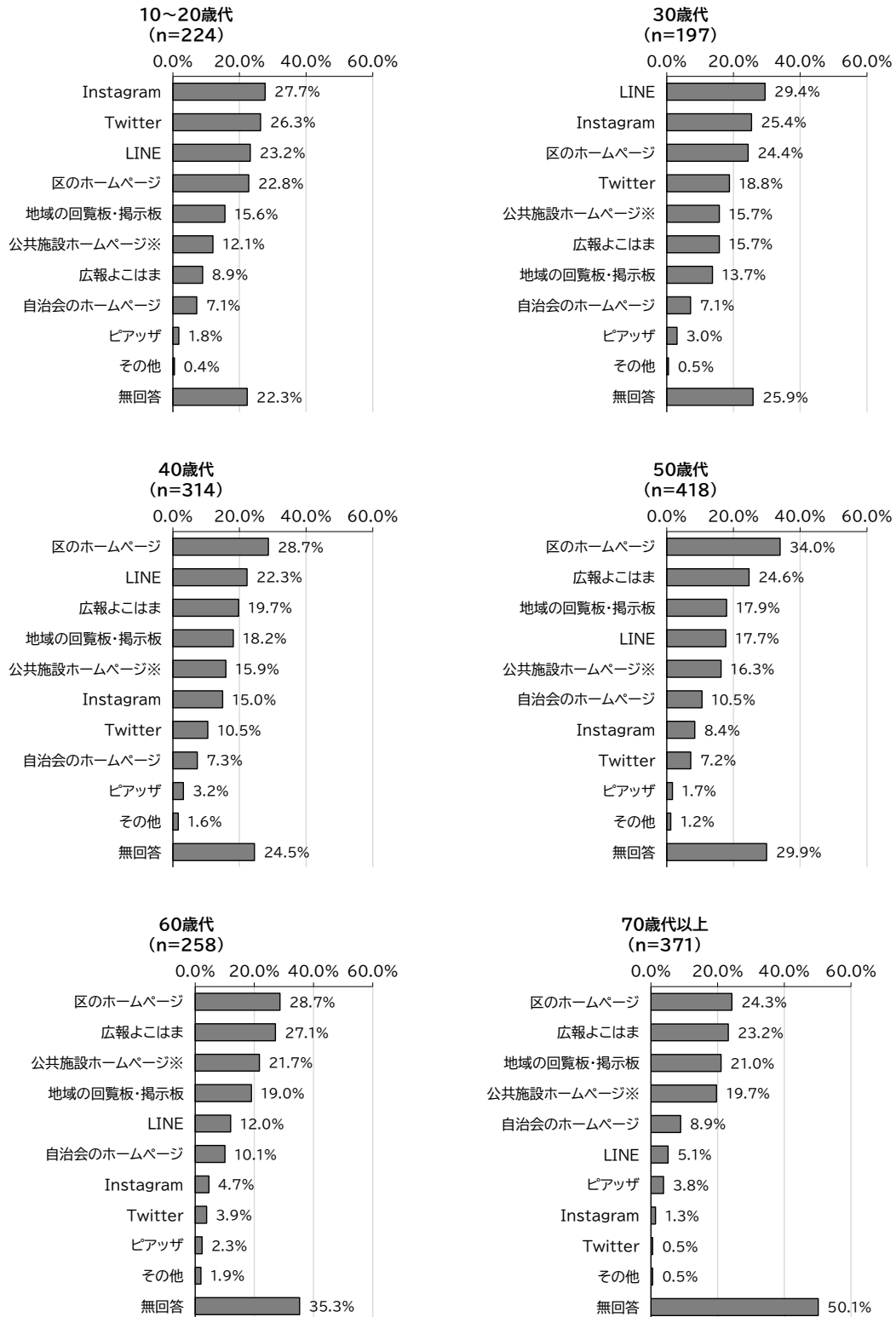
情報入手手段を年代別にみると、10～20 歳代では「家族・友人などの口コミ」、40 歳代では「地域の回覧板・掲示板」、それ以外の年代では「広報よこはま」が最も高くなっている。

図 年代別 地域情報の入手手段



今後力を入れてほしい情報発信手段を年代別にみると、10～20 歳代では「Instagram」、30 歳代では「LINE」、40 歳代以上の年代では「区のホームページ」が最も高くなっている。また、10～20 歳代では「Twitter」、30 歳代では「Instagram」の数値も高く、若い年代でSNSの充実が望まれている。

図 年代別 今後力を入れてほしい情報発信手段



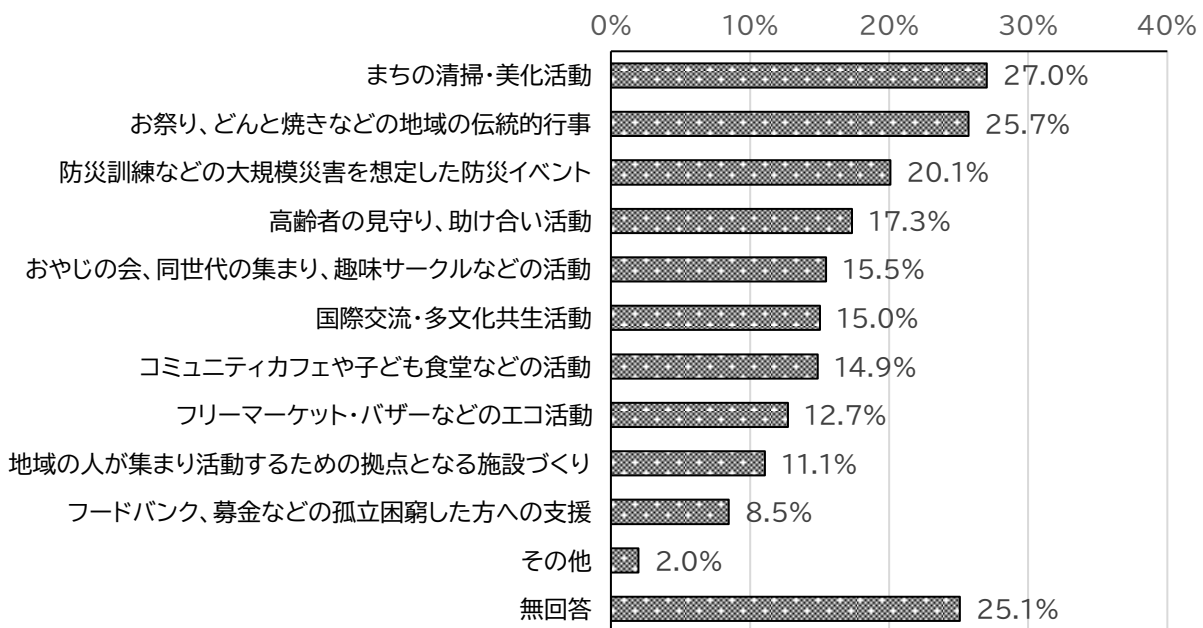
(7)地域活動への関心

関心が高いのは「まちの清掃・美化活動」、次いで「お祭り、どんと焼きなどの地域の伝統的行事」

問 12 あなたは、以下の1～10 の地域活動について、企画や運営(担い手としての参加)に関心がありますか。関心のあるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

「まちの清掃・美化活動」が 27.0%で最も高く、次いで「お祭り、どんと焼きなどの地域の伝統的行事」25.7%、「防災訓練などの大規模災害を想定した防災イベント」20.1%となっている。

図 地域活動への関心(n=1,817)

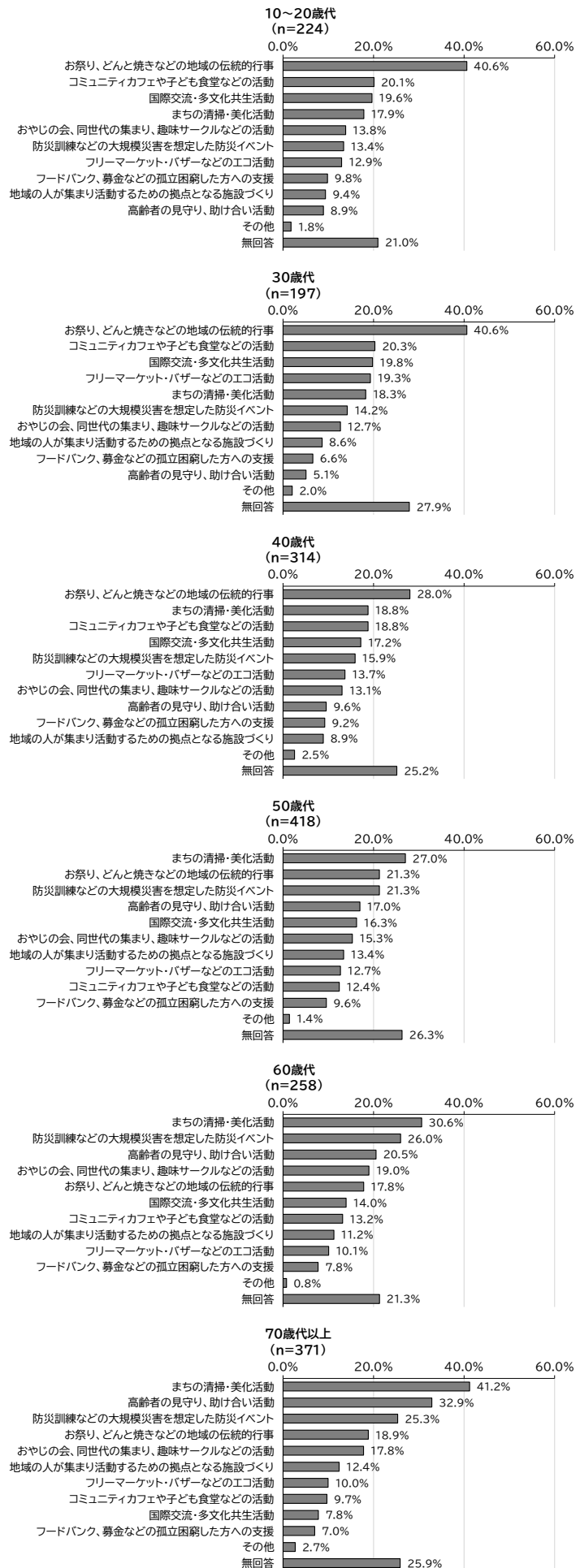


■ 年代別でみる特徴

40 歳代までの年代では「お祭り、どんと焼きなどの地域の伝統的行事」、50 歳代以上の年代では「まちの清掃・美化活動」が最も高くなっている。

70 歳代以上では「高齢者の見守り、助け合い活動」の数値が、他に比べて高くなっている。

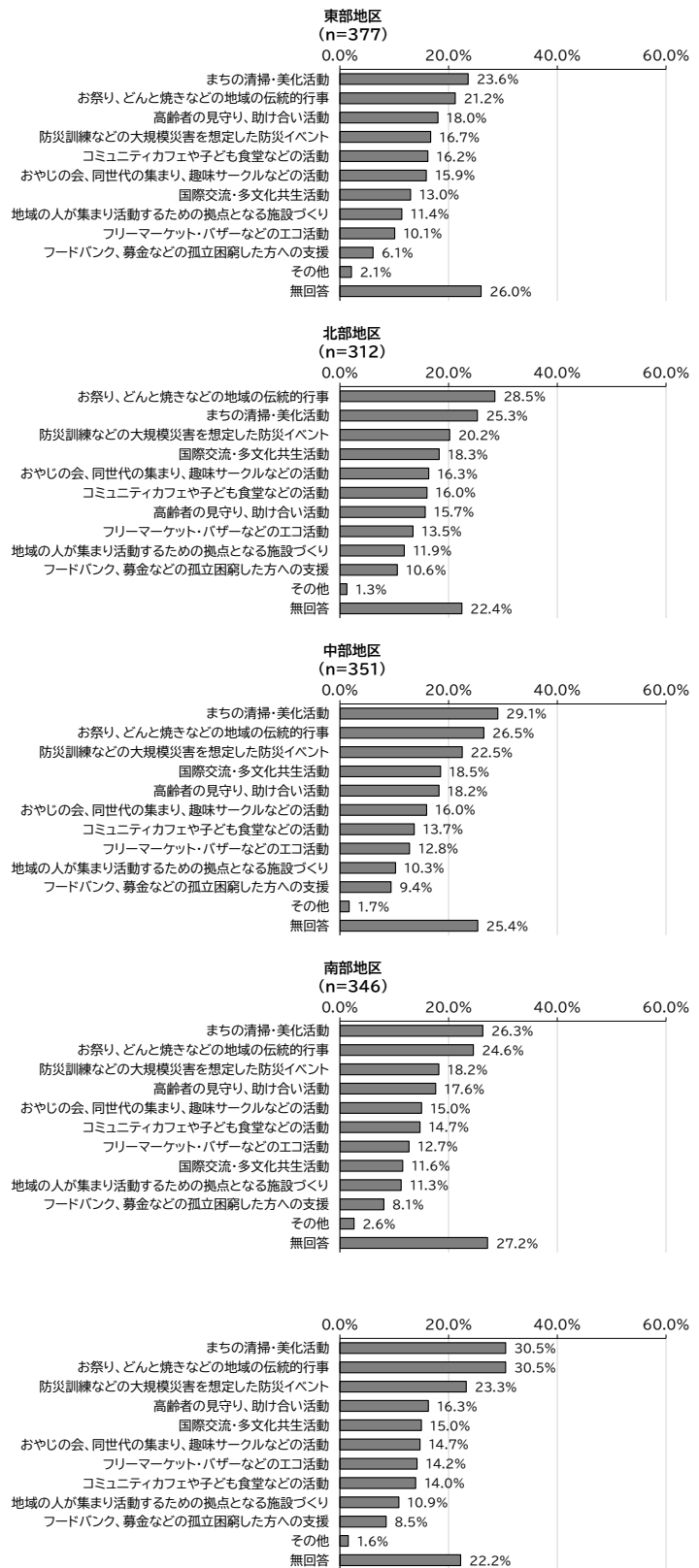
図 年代別 地域活動への関心



■ 地区別でみる特徴

北部地区では「お祭り、どんと焼きなどの地域の伝統的行事」が最も高く、西部地区では「まちの清掃・美化活動」「お祭り、どんと焼きなどの地域の伝統的行事」が同率、それ以外の地区では「まちの清掃・美化活動」「お祭り、どんと焼きなどの地域の伝統的行事」が最も高くなっている。

図 地区別 地域活動への関心



5. 生活環境の重要度・満足度

(1)生活環境の重要度

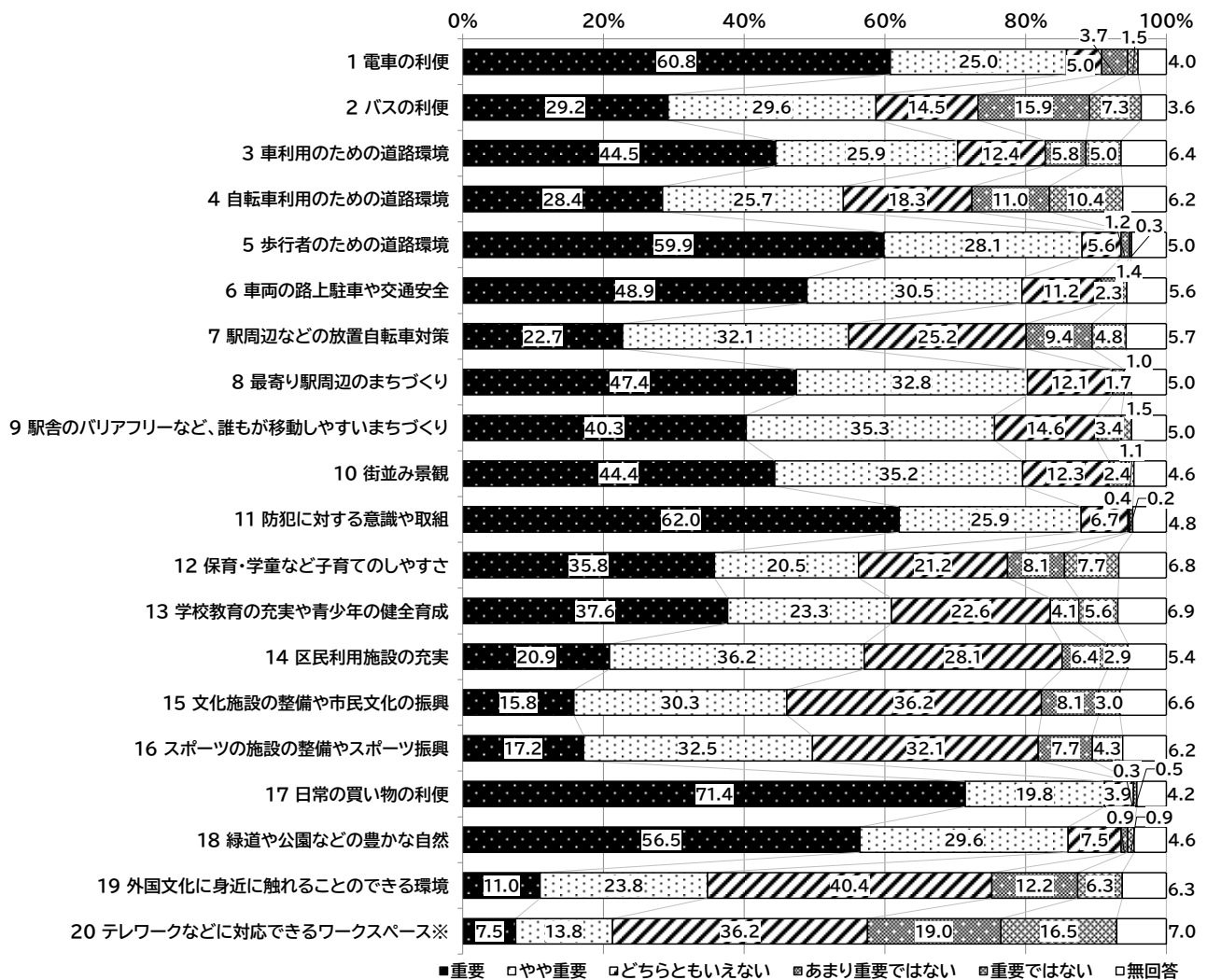
重要と回答が多かったものは、第1位「日常の買い物の利便」、第2位「防犯に対する意識や取組」、第3位「電車の利便」となっている

問 13 以下の1)~21)の項目について、

【1】あなたにとって、どの程度重要ですか。

「日常の買い物の利便」が71.4%と最も高く、次いで「防犯に対する意識や取組」が62.0%、「電車の利便」が60.8%となっている。

図 生活環境の重要度(n=1,817)



テレワークなどに対応できるワークスペース※(コワーキングスペースやレンタルオフィス等)の充実

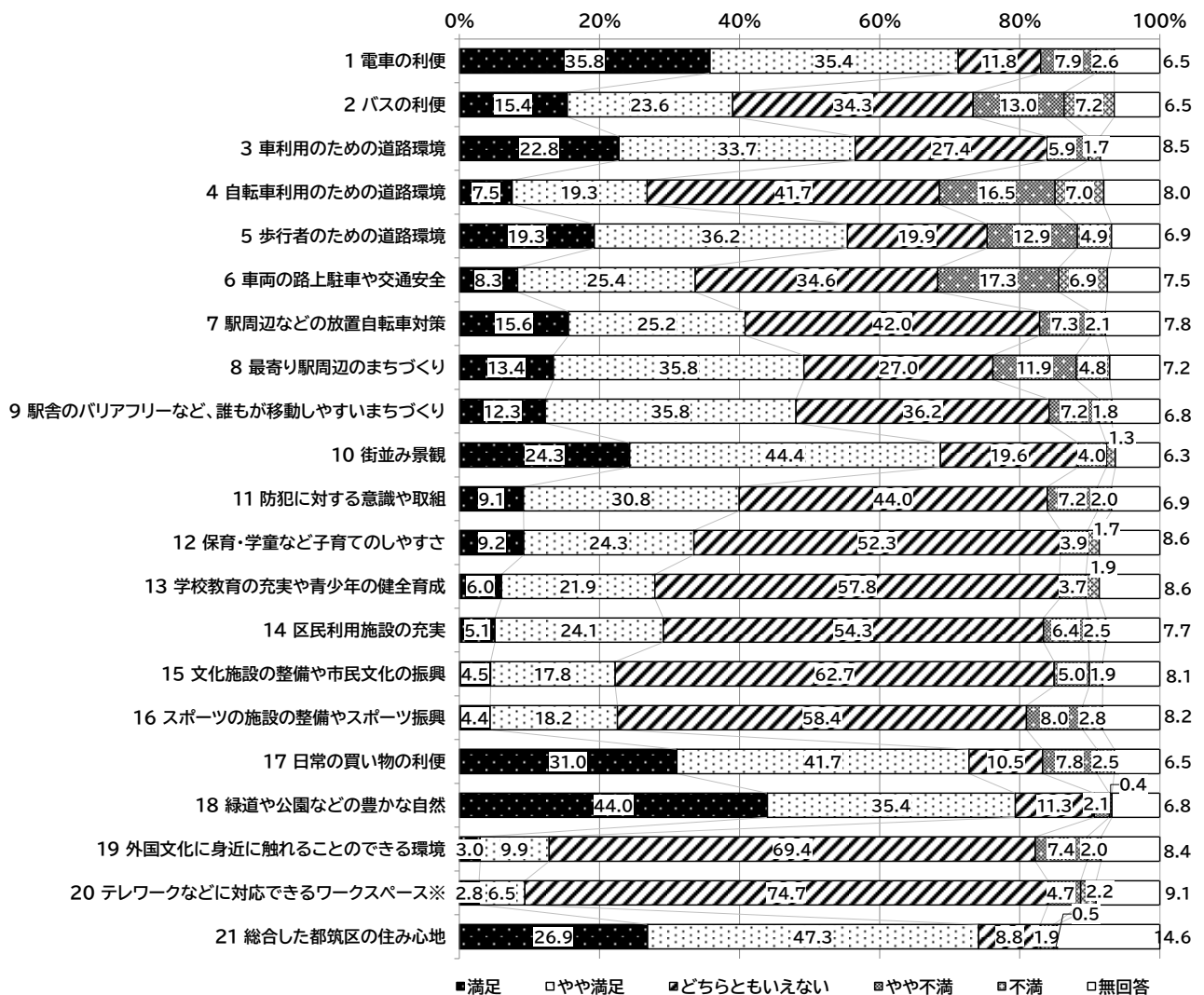
(2)生活環境の満足度

満足と回答が多かったものは、第1位「緑道や公園などの豊かな自然」、第2位「電車の利便」、第3位「日常の買い物の利便」となっている

【2】現在、どの程度満足していますか。

「緑道や公園などの豊かな自然」が44.0%と最も高く、次いで「電車の利便」が35.8%、「日常の買い物の利便」が31.0%となっている。

図 生活環境の満足度



■ 生活環境に関する重要度・満足度の全体的考察

生活環境に関する重要度・満足度を総括的に把握するために、次のとおり回答の数値化を行った。

(重要度について)

「重要」に+2点、「やや重要」に+1点、「どちらともいえない」に0点、「あまり重要ではない」に-1点、「重要ではない」に-2点を付与し、全回答の平均値として算出した。

(満足度について)

「満足」に+2点、「やや満足」に+1点、「どちらともいえない」に0点、「やや不満」に-1点、「不満」に-2点を付けて、全回答の平均値を算出した。

上記、数値化の結果を、「表 生活環境の重要度、満足度の一覧」にまとめた。

なお、いずれも小数点第2位を四捨五入し算出した。

表 生活環境の重要度、満足度及び変化度の一覧

生活環境 調査項目	重要度	満足度
電車の利便	1.5	1.0
バスの利便	0.6	0.3
車利用のための道路環境	1.1	0.8
自転車利用のための道路環境	0.5	0.0
歩行者のための道路環境	1.5	0.6
車両の路上駐車や交通安全	1.3	0.1
駅周辺などの放置自転車対策	0.6	0.5
最寄り駅周辺のまちづくり	1.3	0.4
駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり	1.2	0.5
街並み景観	1.3	0.9
防犯に対する意識や取組	1.6	0.4
保育・学童など子育てのしやすさ	0.7	0.4
学校教育の充実や青少年の健全育成	0.9	0.3
区民利用施設の充実	0.7	0.2
文化施設の整備や市民文化の振興	0.5	0.2
スポーツの施設の整備やスポーツ振興	0.5	0.1
日常の買い物の利便	1.7	1.0
緑道や公園などの豊かな自然	1.5	1.3
外国文化に身近に触れることのできる環境	0.2	0.0
テレワークなどに対応できるワークスペース※	-0.2	0.0
平均	0.9	0.5
総合した都筑区の住み心地		1.1

■ 重要度と満足度の関係

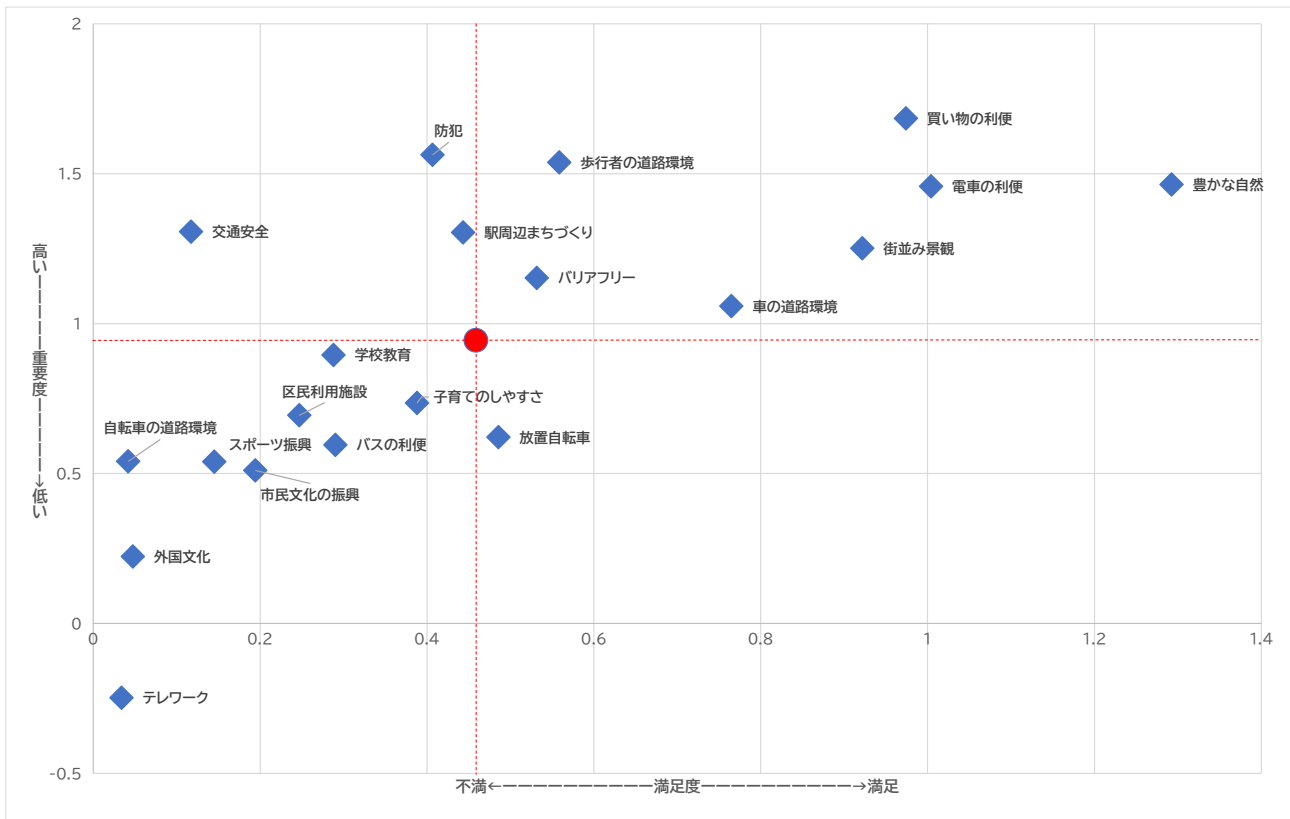
『重要度』『満足度』について結果を数値化し、両者の関係をみると、重要度・満足度共に全体に平均値より高い項目は「緑道や公園などの豊かな自然」「日常の買い物の利便」「電車の利便」「街並み景観」「車利用のための道路環境」「歩行者のための道路環境」「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」の7項目である。

平均点より重要度が高く満足度が低い項目は、「防犯に対する意識や取組」「最寄り駅周辺のまちづくり」「車両の路上駐車や交通安全」の3項目である。

平均点より重要度は低いが満足度が高い項目は「駅周辺などの放置自転車対策」のみである。

平均点より重要度・満足度共に低い項目は「保育・学童など子育てのしやすさ」「学校教育の充実や青少年の健全育成」「区民利用施設の充実」「バスの利便」「文化施設の整備や市民文化の振興」「スポーツの施設の整備やスポーツ振興」「自転車利用のための道路環境」「外国文化に身近に触れることのできる環境」「テレワークなどに対応できるワークスペース」の9項目である。

図 重要度・満足度の関係(全体)



■ 地区別 重要度と満足度の関係

<東部地区>

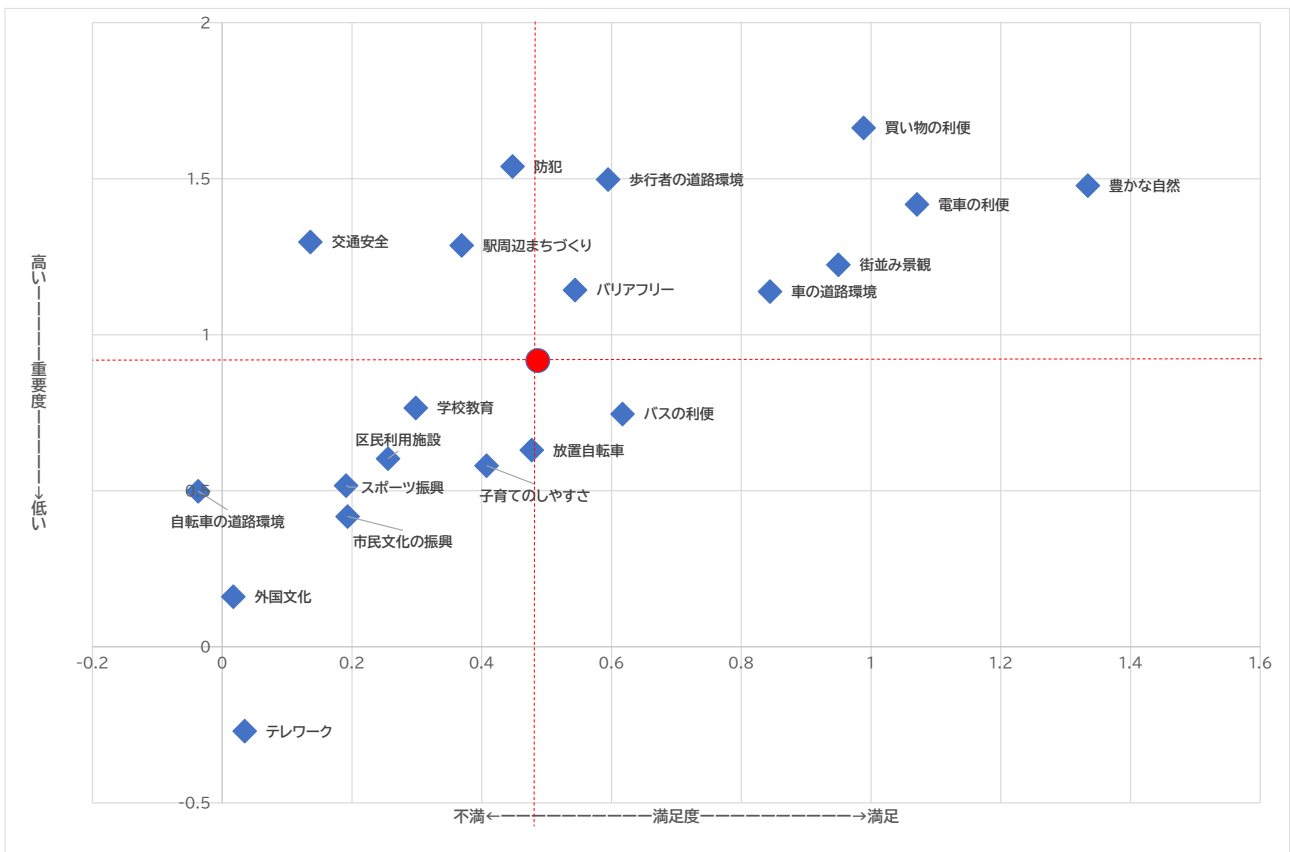
重要度・満足度共に全体に平均値より高い項目は「緑道や公園などの豊かな自然」「日常の買い物の利便」「電車の利便」「街並み景観」「車利用のための道路環境」「歩行者のための道路環境」「駅舎のバリアフリー」など、誰もが移動しやすいまちづくり」の7項目である。

平均点より重要度が高く満足度が低い項目は、「防犯に対する意識や取組」「最寄り駅周辺のまちづくり」「車両の路上駐車や交通安全」の3項目である。

平均点より重要度は低いが満足度が高い項目は「バスの利便」のみである。

平均点より重要度・満足度共に低い項目は「学校教育の充実や青少年の健全育成」「駅周辺などの放置自転車対策」「保育・学童など子育てのしやすさ」「区民利用施設の充実」「スポーツの施設の整備やスポーツ振興」「自転車利用のための道路環境」「文化施設の整備や市民文化の振興」「外国文化に身近に触れることのできる環境」「テレワークなどに対応できるワークスペース」の9項目である。

図 重要度・満足度の関係(東部地区)



<北部地区>

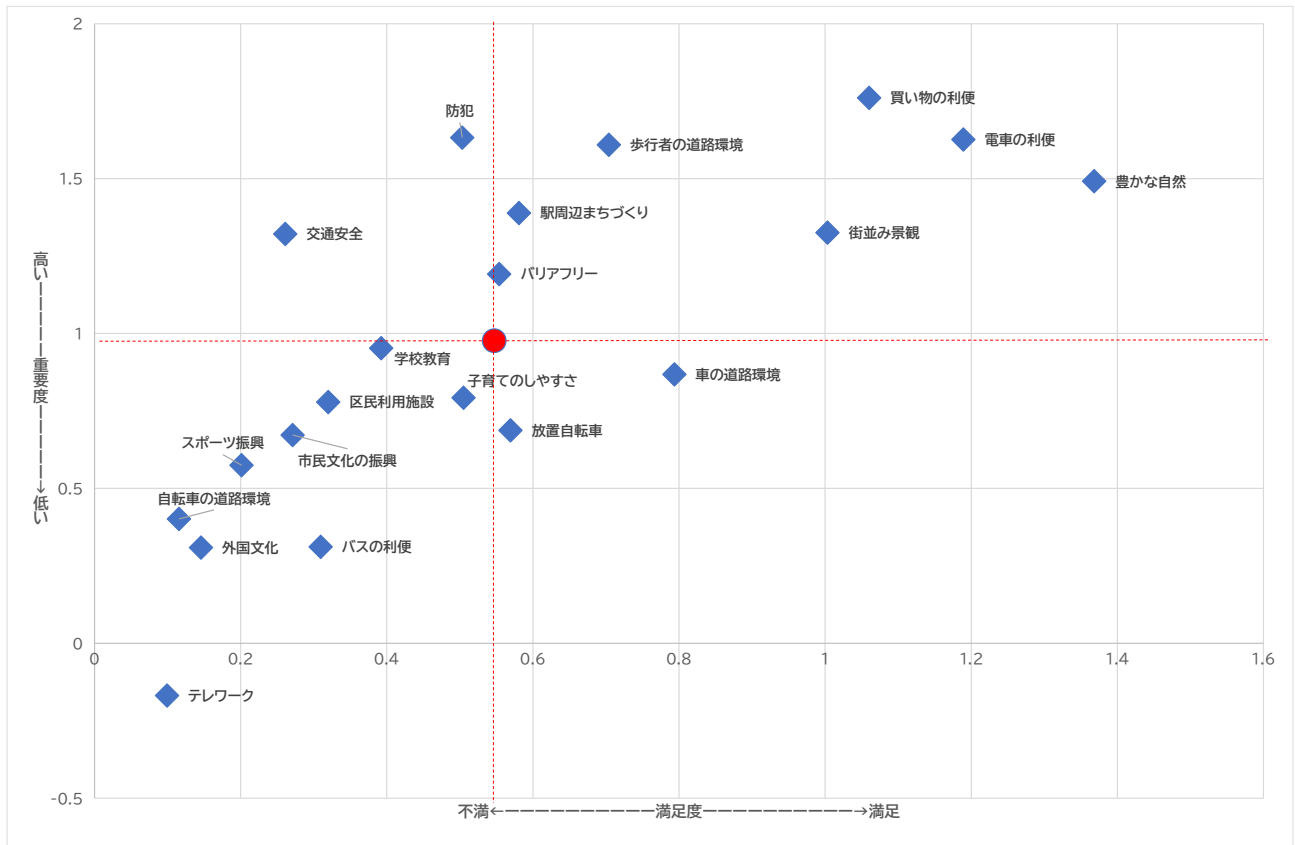
重要度・満足度共に全体に平均値より高い項目は「緑道や公園などの豊かな自然」「日常の買い物の利便」「電車の利便」「街並み景観」「歩行者のための道路環境」「最寄り駅周辺のまちづくり」「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」の7項目である。

平均点より重要度が高く満足度が低い項目は、「防犯に対する意識や取組」「車両の路上駐車や交通安全」の2項目である。

平均点より重要度は低いが満足度が高い項目は「車利用のための道路環境」「駅周辺などの放置自転車対策」の2項目である。

平均点より重要度・満足度共に低い項目は「学校教育の充実や青少年の健全育成」「保育・学童など子育てのしやすさ」「区民利用施設の充実」「文化施設の整備や市民文化の振興」「スポーツの施設の整備やスポーツ振興」「自転車利用のための道路環境」「バスの利便」「外国文化に身近に触れることのできる環境」「テレワークなどに対応できるワークスペース」の9項目である。

図 重要度・満足度の関係(北部地区)



<中部地区>

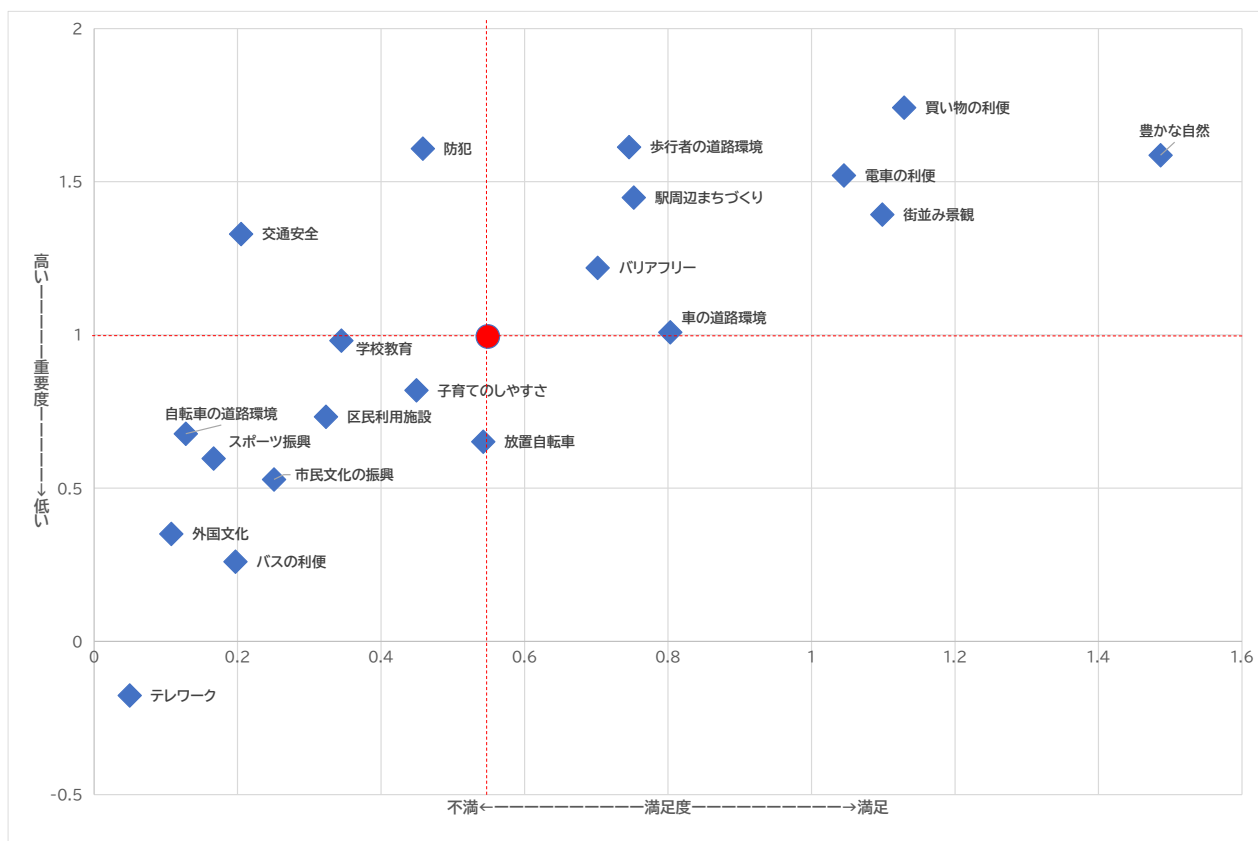
重要度・満足度共に全体に平均値より高い項目は「緑道や公園などの豊かな自然」「日常の買い物の利便」「電車の利便」「街並み景観」「歩行者のための道路環境」「最寄り駅周辺のまちづくり」「駅舎のバリアフリー」など、誰もが移動しやすいまちづくり」「車利用のための道路環境」の8項目である。

平均点より重要度が高く満足度が低い項目は、「防犯に対する意識や取組」「車両の路上駐車や交通安全」の2項目である。

平均点より重要度は低いが満足度が高い項目はなかった。

平均点より重要度・満足度共に低い項目は「学校教育の充実や青少年の健全育成」「保育・学童など子育てのしやすさ」「駅周辺などの放置自転車対策」「区民利用施設の充実」「自転車利用のための道路環境」「スポーツの施設の整備やスポーツ振興」「文化施設の整備や市民文化の振興」「外国文化に身近に触れることのできる環境」「バスの利便」「テレワークなどに対応できるワークスペース」の10項目である。

図 重要度・満足度の関係(中部地区)



<南部地区>

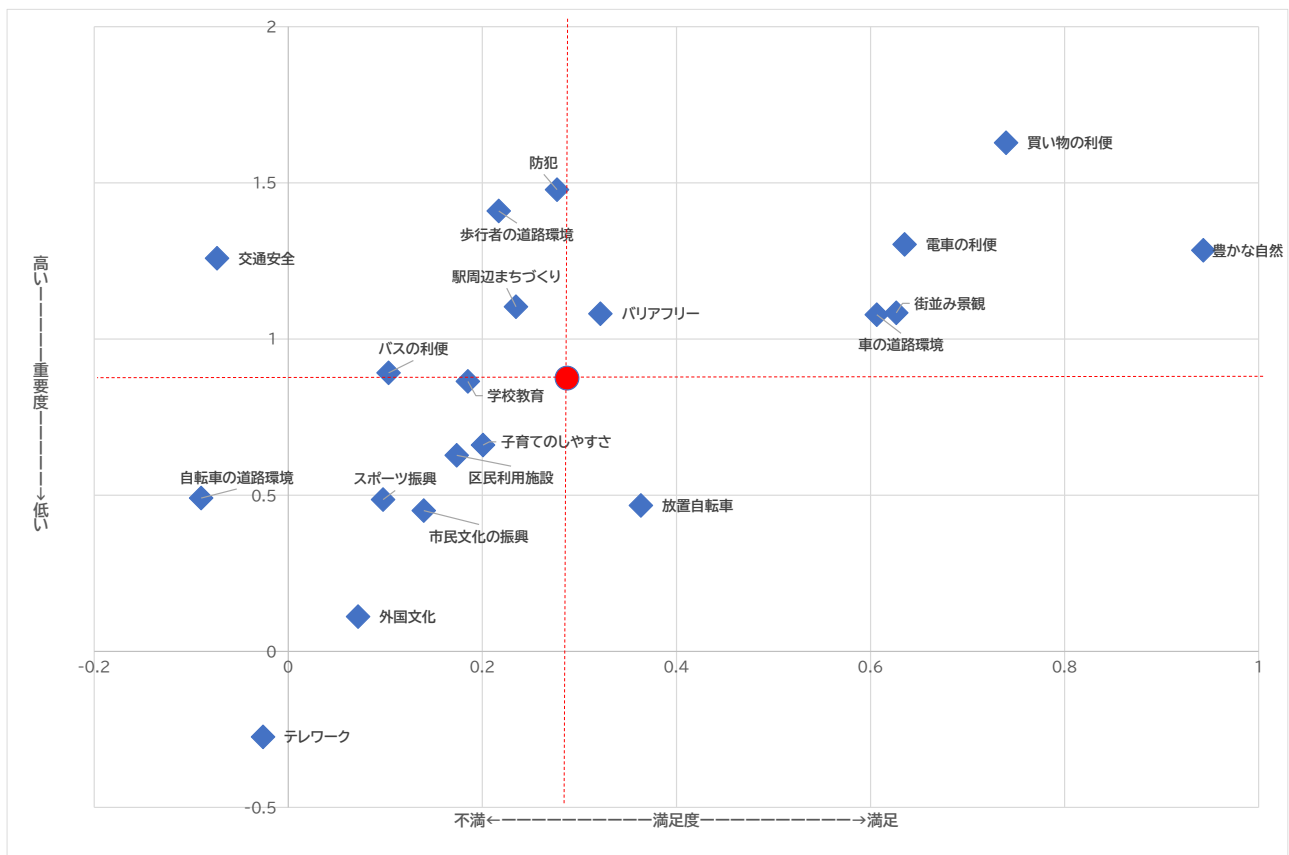
重要度・満足度共に全体に平均値より高い項目は「緑道や公園などの豊かな自然」「日常の買い物の利便」「電車の利便」「街並み景観」「車利用のための道路環境」「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」の6項目である。

平均点より重要度が高く満足度が低い項目は、「防犯に対する意識や取組」「歩行者のための道路環境」「最寄り駅周辺のまちづくり」「バスの利便」「車両の路上駐車や交通安全」の5項目である。

平均点より重要度は低いが満足度が高い項目は「駅周辺などの放置自転車対策」のみである。

平均点より重要度・満足度共に低い項目は「学校教育の充実や青少年の健全育成」「保育・学童など子育てのしやすさ」「区民利用施設の充実」「スポーツの施設の整備やスポーツ振興」「文化施設の整備や市民文化の振興」「自転車利用のための道路環境」「外国文化に身近に触れることのできる環境」「テレワークなどに対応できるワークスペース」の8項目である。

図 重要度・満足度の関係(南部地区)



<西部地区>

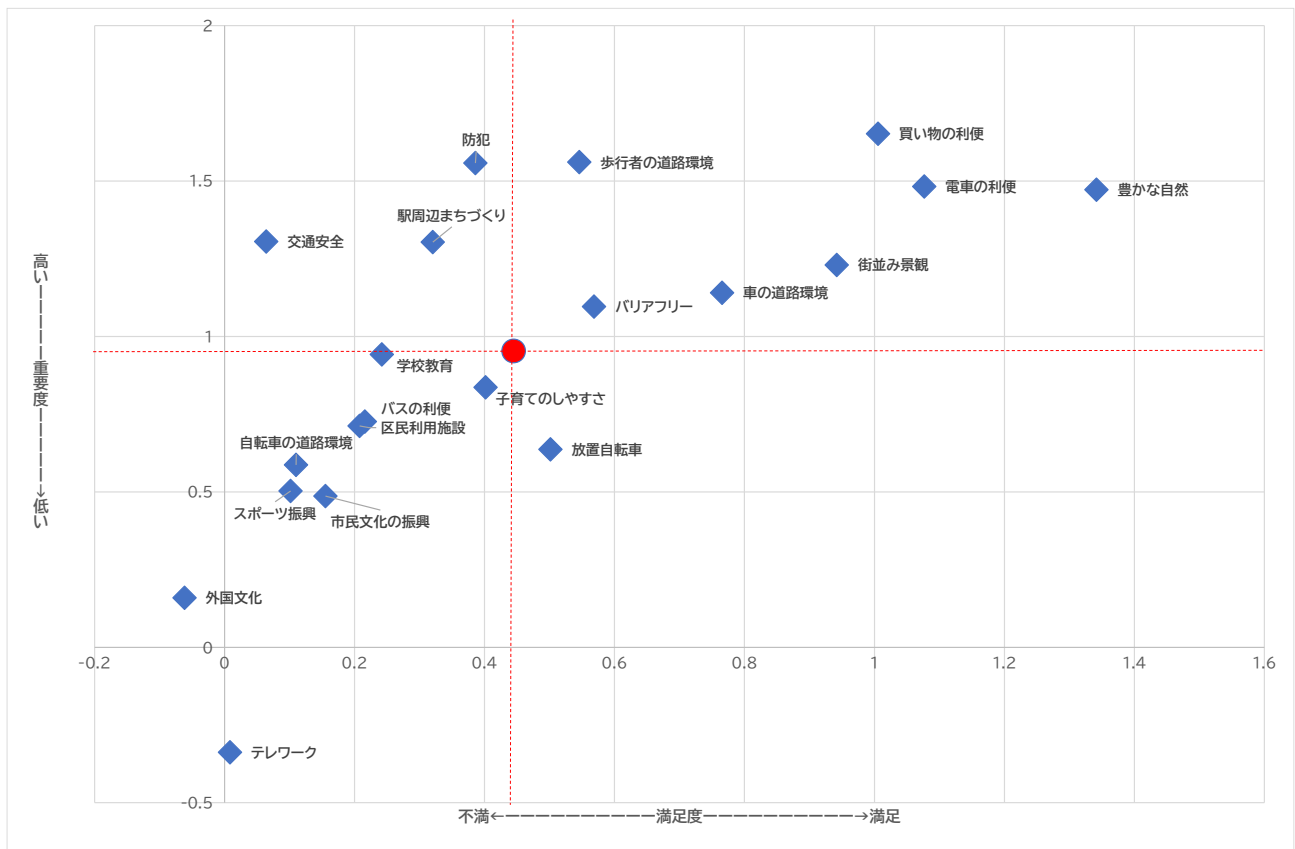
重要度・満足度共に全体に平均値より高い項目は「緑道や公園などの豊かな自然」「日常の買い物の利便」「電車の利便」「街並み景観」「歩行者のための道路環境」「車利用のための道路環境」「駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり」の7項目である。

平均点より重要度が高く満足度が低い項目は、「防犯に対する意識や取組」「最寄り駅周辺のまちづくり」「車両の路上駐車や交通安全」の3項目である。

平均点より重要度は低いが満足度が高い項目は「駅周辺などの放置自転車対策」のみである。

平均点より重要度・満足度共に低い項目は「学校教育の充実や青少年の健全育成」「保育・学童など子育てのしやすさ」「バスの利便」「区民利用施設の充実」「自転車利用のための道路環境」「スポーツの施設の整備やスポーツ振興」「文化施設の整備や市民文化の振興」「外国文化に身近に触れることのできる環境」「テレワークなどに対応できるワークスペース」の9項目である。

図 重要度・満足度の関係(西部地区)



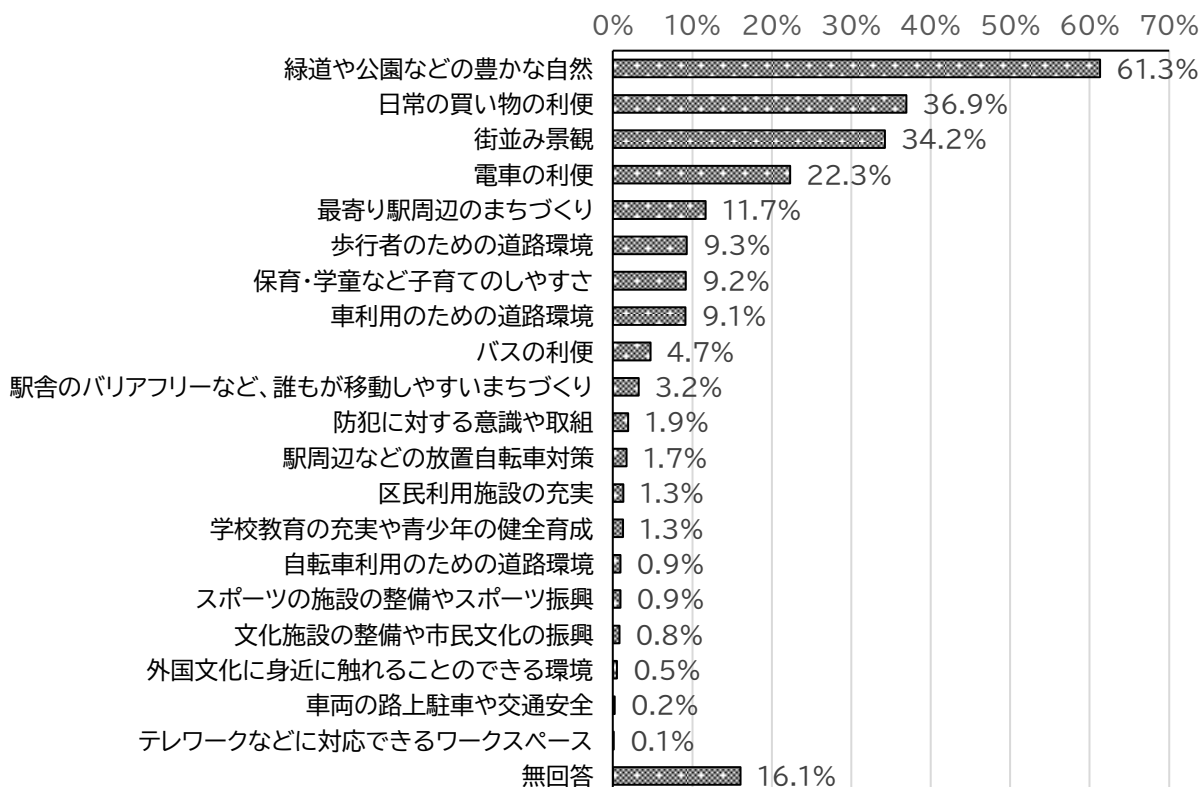
(3)自慢できる都筑区の魅力

都筑区の魅力は「緑道や公園などの豊かな自然」、次いで「日常の買い物の利便」「街並み景観」

問 13-1 問 13 の1)~20)の中で、区外の方に自慢できる都筑区の魅力はどの項目だと思いますか。
(番号は3つまで)

「緑道や公園などの豊かな自然」が 61.3%で最も高く、次いで「日常の買い物の利便」36.9%、「街並み景観」34.2%、「電車の利便」22.3%となっている。

図 自慢できる都筑区の魅力(n=1,817)



6. 災害対策

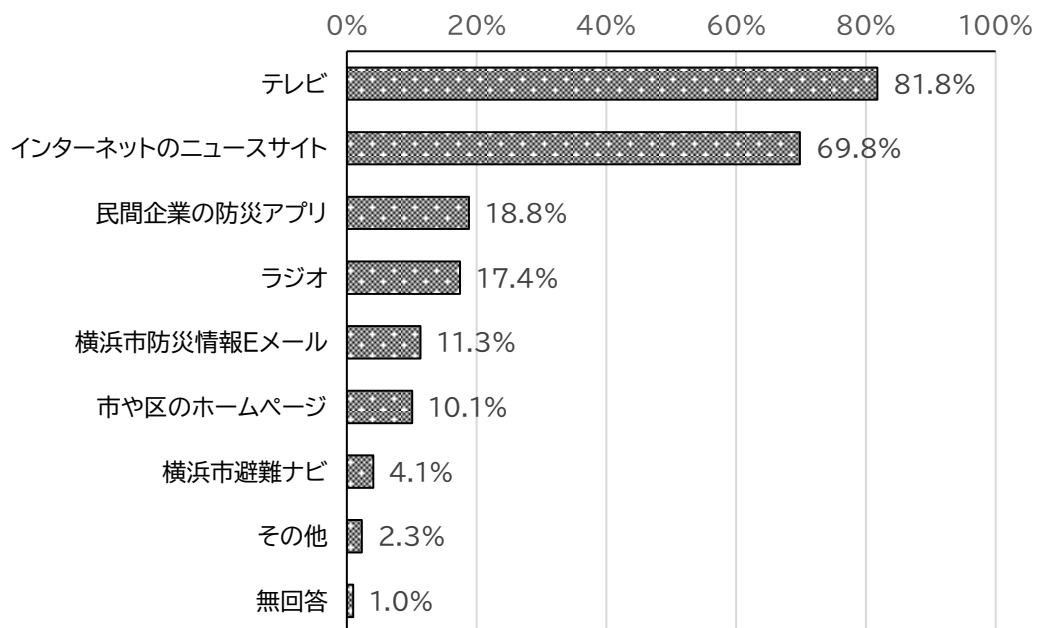
(1) 災害に関する情報入手手段

災害情報入手手段は「テレビ」が最も多く、次いで「インターネットのニュースサイト」

問 14 あなたは、災害に関する情報をどのような手段で得ていますか。(〇はいくつでも)

「テレビ」が81.8%で最も高く、次いで「インターネットのニュースサイト」が69.8%となっている。

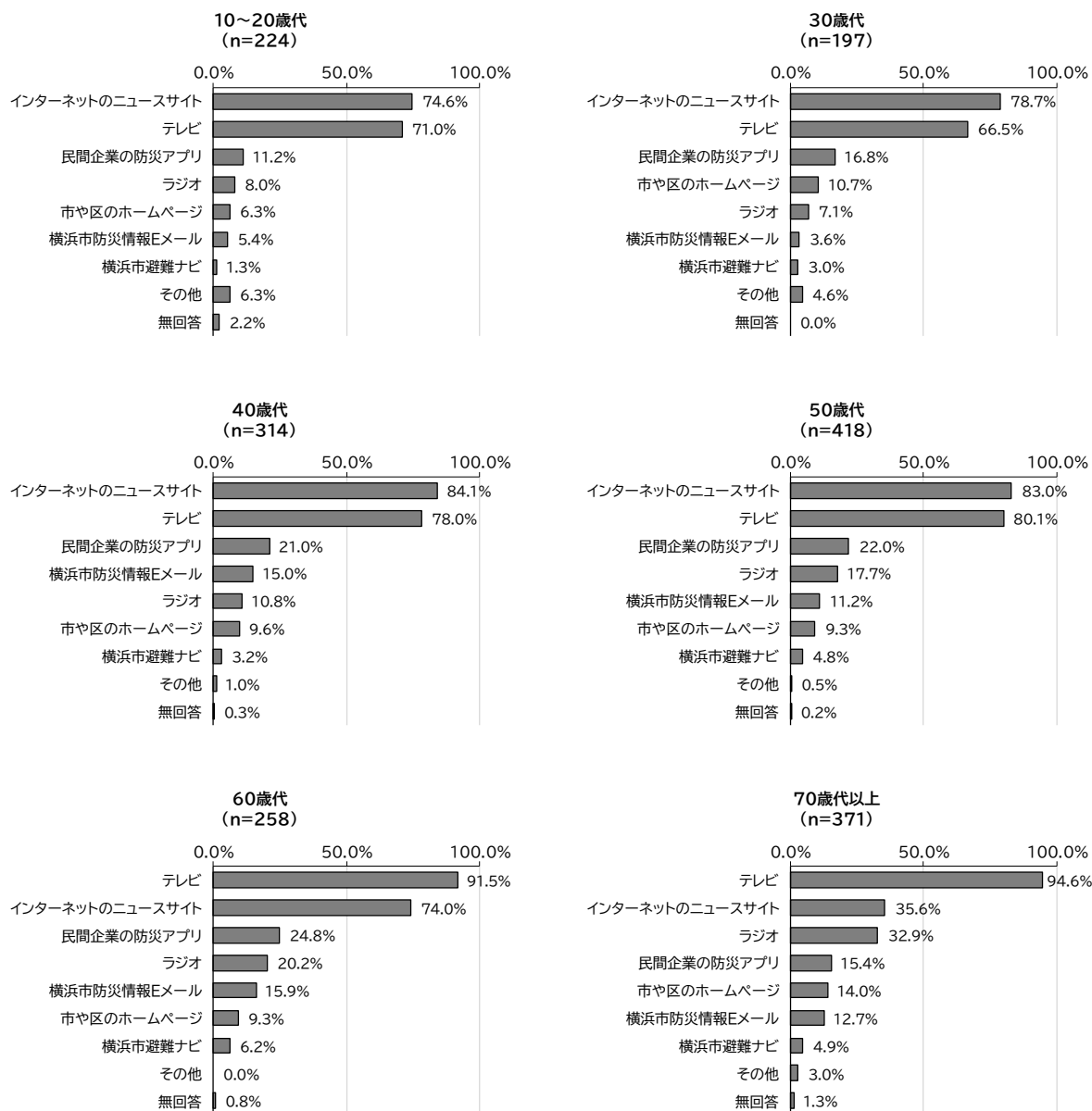
図 災害に関する情報入手手段(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

50 歳代までの年代では「インターネットのニュースサイト」、60 歳代以上の年代では「テレビ」が最も高くなっている。また 70 歳代以上では「ラジオ」の数値が3割を超えている。なお、「インターネットのニュースサイト」は 60 歳代、70 歳代以上でも2位となっており、年代を問わず情報入手手段として有効であることがうかがえる。

図 年代別 災害に関する情報入手手段



(2)地震や風水害への備え

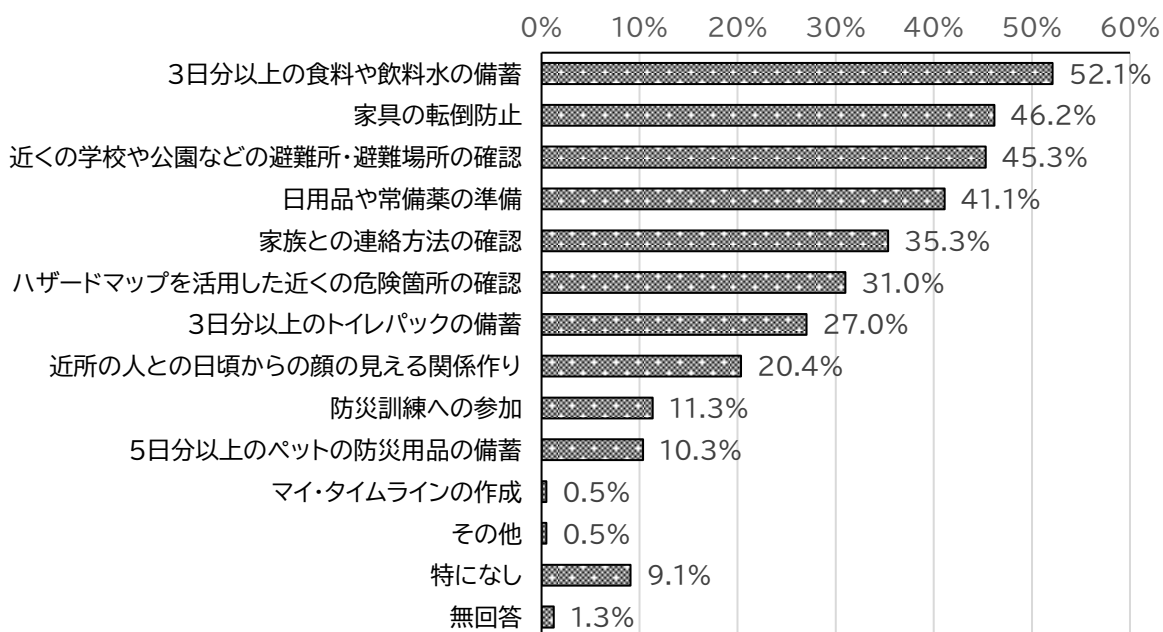
地震や風水害への備えとして「3日以上の食料や飲料水の備蓄」が最も多く、次いで「家具の転倒防止」「近くの学校や公園などの避難所・避難場所の確認」「日用品や常備薬の準備」

問 15 あなたやあなたの家族は、地震や風水害があった場合に備えて、どのような対策をしていますか。

(〇はいくつでも)

「3日以上の食料や飲料水の備蓄」が 52.1%と最も高く、次いで「家具の転倒防止」46.2%、「近くの学校や公園などの避難所・避難場所の確認」45.3%、「日用品や常備薬の準備」41.1%となっている。

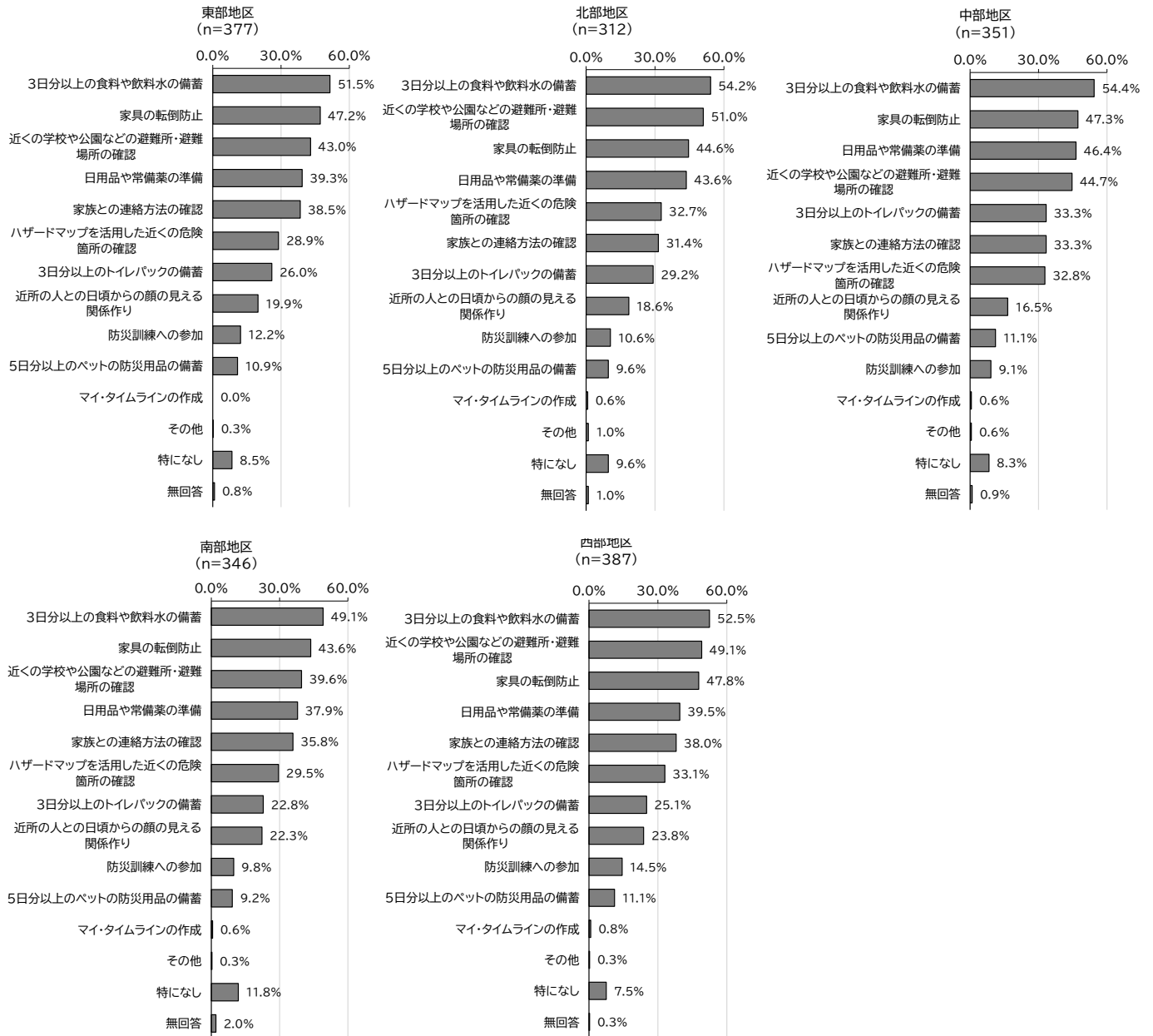
図 地震や風水害への備え(n=1,817)



■ 地区別でみる特徴

地震や風水害への備えを地区別にみると、いずれの地区でも「3日以上以上の食料や飲料水の備蓄」の数値が最も高く、2位、3位には「家具の転倒防止」「近くの学校や公園などの避難所・避難場所の確認」を挙げている。

図 地区別 地震や風水害への備え



(3)災害時要援護者の同居の有無

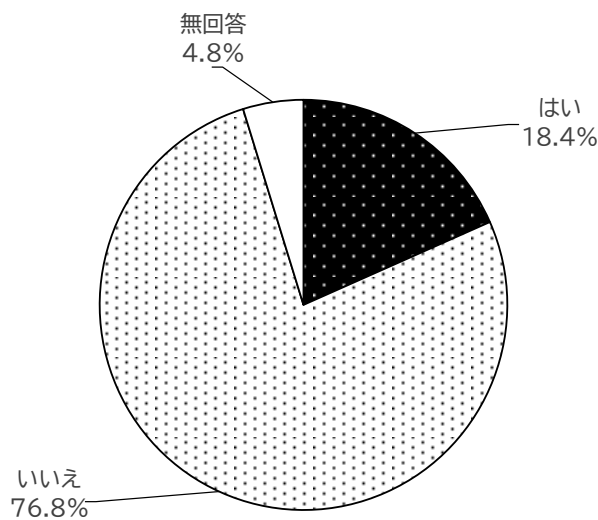
同居家族に災害時要援護者がいるのは全体の2割弱

問 16 あなたやあなたと一緒に住んでいる家族に、災害時要援護者(※)の方はいらっしゃいますか。

※災害時要援護者とは、災害時に何らかの助けが必要になる方(高齢者、障害者、妊婦、乳幼児、傷病者など自力では避難が困難と思われる方)を指します。

「はい」が18.4%、「いいえ」が76.8%となっている。

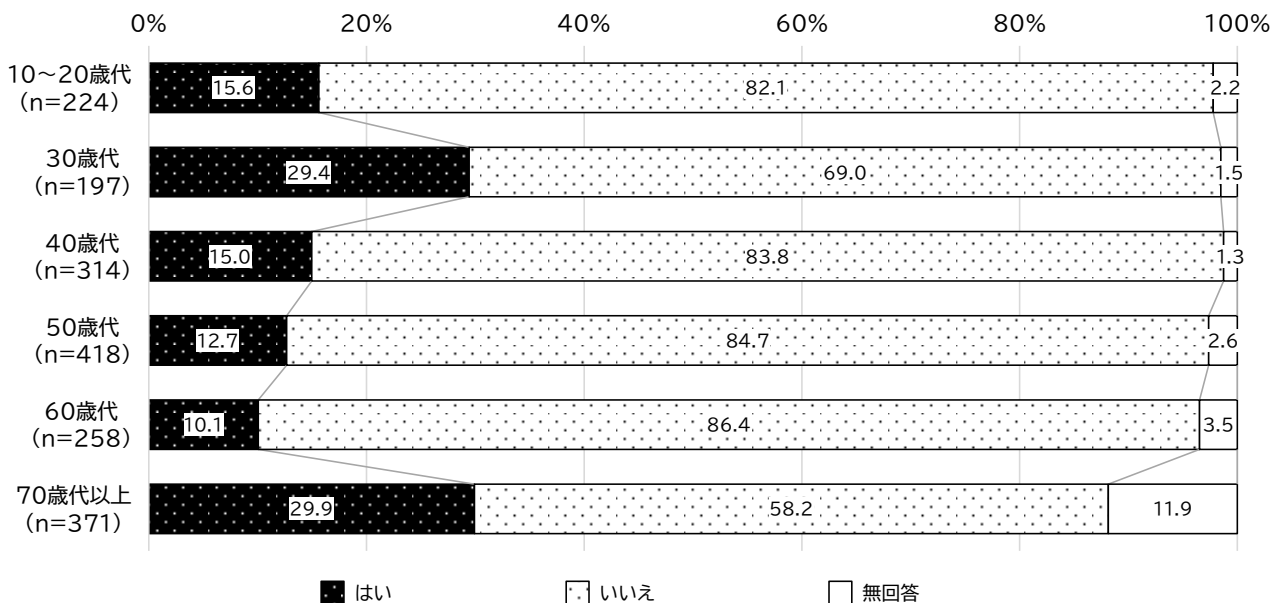
図 災害時要援護者の同居の有無(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

いずれの年代でも「いいえ」の方が高いが、30歳代と70歳代以上では「はい」の数値が高く、3割弱となっている。

図 年代別 災害時要援護者の同居の有無



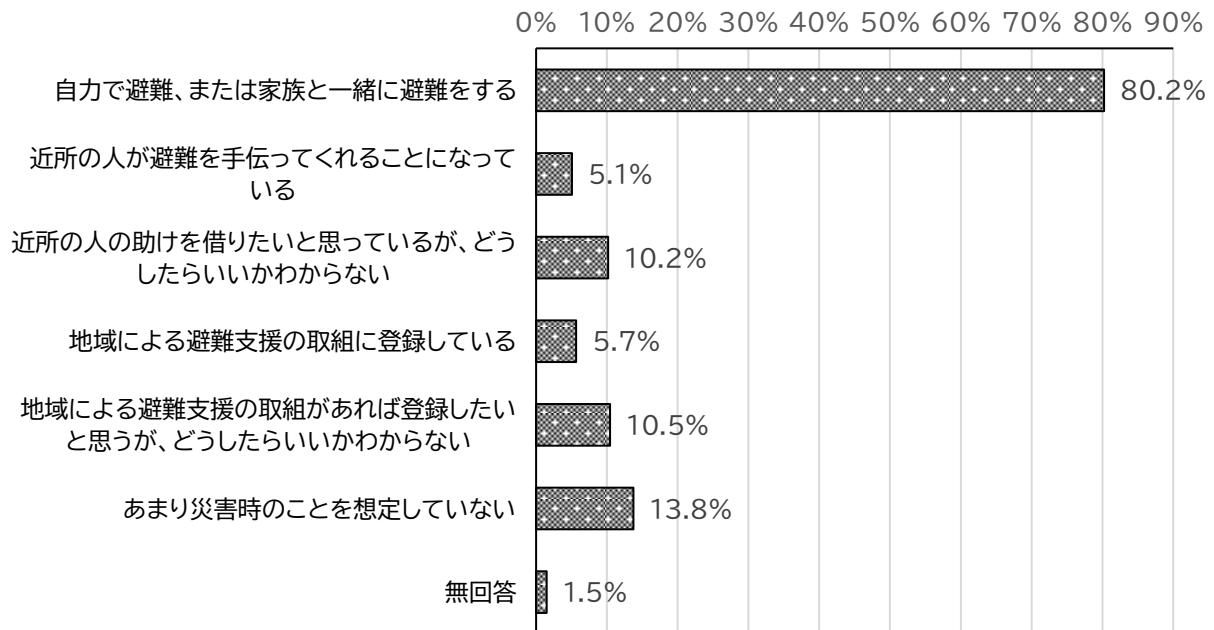
(4)災害発生時の災害時要援護者への対応

災害発生時の災害時要援護者への対応は「自力で避難、または家族と一緒に避難をする」

問 16-1 あなたやあなたと一緒に住んでいる家族で、災害発生時の対応としてあてはまるものに○をしてください。(問 16 で「はい」と答えた方、○はいくつでも)

「自力で避難、または家族と一緒に避難をする」が 80.2%と、突出して多くなっている。

図 災害発生時の災害時要援護者への対応(n=334)



7. 健康づくり

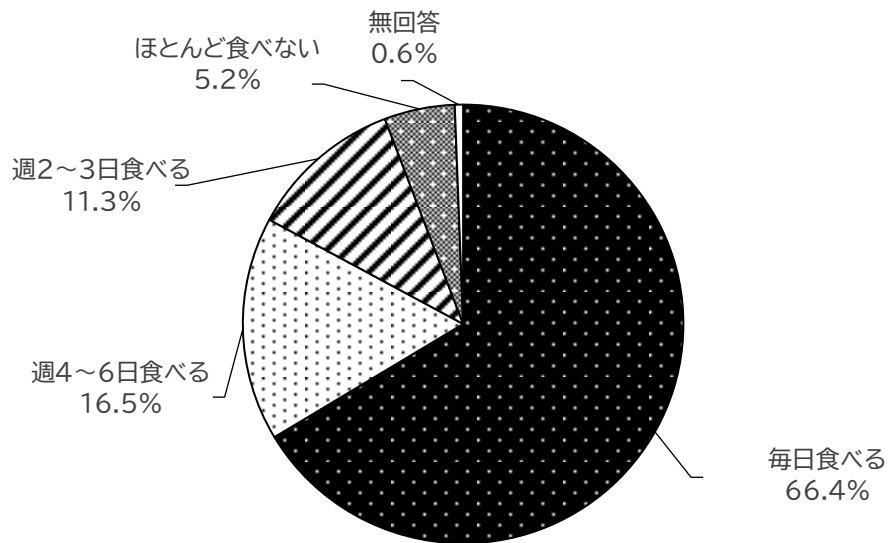
(1) 1日2回以上、主食・主菜・副菜すべてを食べる日数

主食・主菜・副菜すべてを「毎日食べる」のは全体の6割以上

問 17 1日2回以上、主食・主菜・副菜すべてを食べることは週に何日ありますか。(○はひとつ)

「毎日食べる」が 66.4%で最も高く、次いで「週4～6日食べる」16.5%、「週2～3日食べる」11.3%となっている。

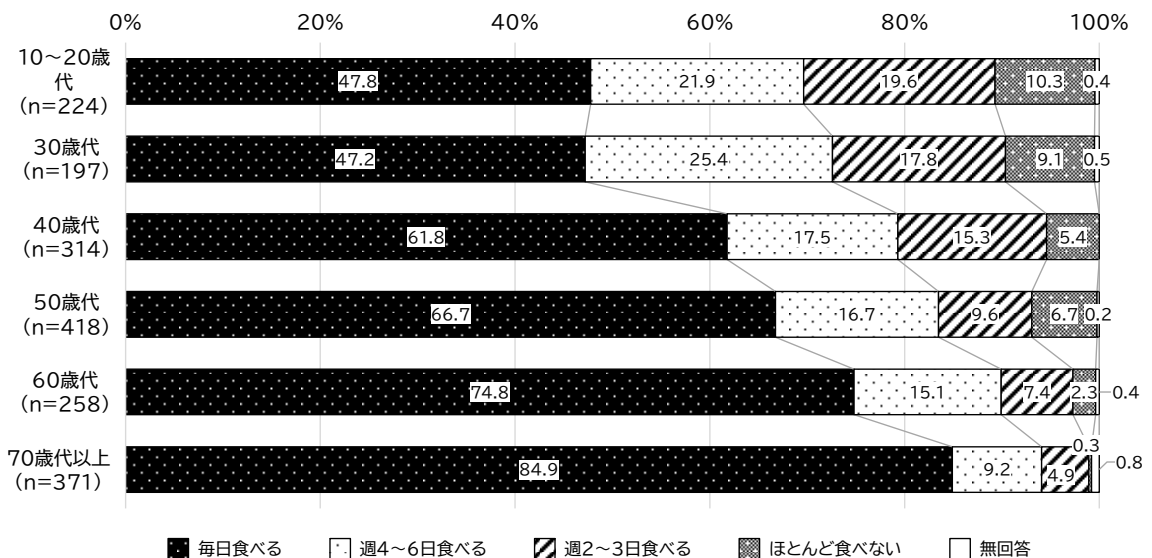
図 1日2回以上、主食・主菜・副菜すべてを食べる日数(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

いずれの年代でも「毎日食べる」が最も高く、年齢が高いほど数値も高くなっている。

図 年代別 1日2回以上、主食・主菜・副菜すべてを食べる日数



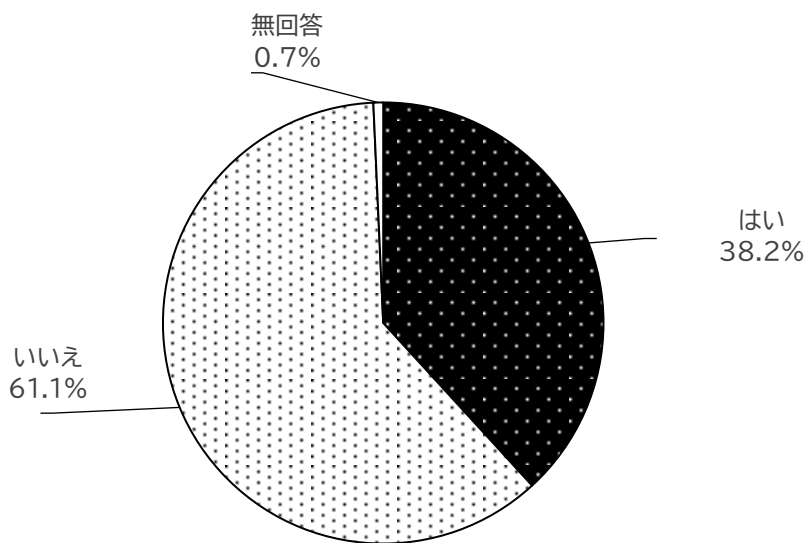
(2)「息がはずみ汗をかく程度」の運動を、1回30分以上、週に2回以上行っているか

「息がはずみ汗をかく程度」の運動を、1回30分以上、週に2回以上行っているのは全体の4割弱

問 18 この1年間で「息がはずみ汗をかく程度」の運動を、1回30分以上、週に2回以上行っていますか。
(○はひとつ)

「いいえ」が61.1%で、「はい」の38.2%を22.9ポイント上回っている。

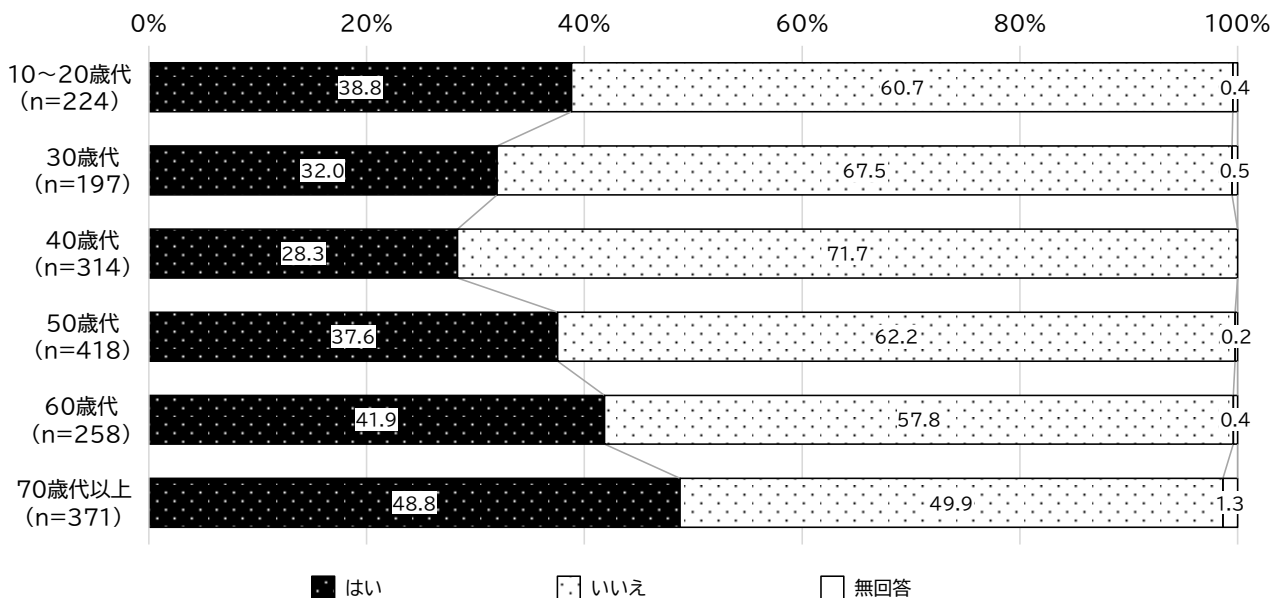
図 「息がはずみ汗をかく程度」の運動の回数(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

いずれの年代でも「いいえ」の方が高く、40歳代では7割を超えている。一方70歳代では「はい」の数値が高く5割弱に達しており、「いいえ」と拮抗している。

図 年代別「息がはずみ汗をかく程度」の運動の回数



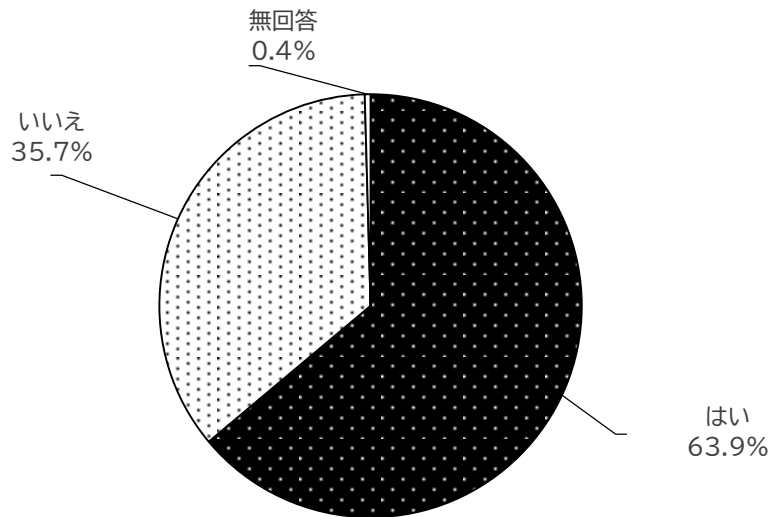
(3) 歯科健診の受診

6割以上の方が歯科検診を受診しており、高齢者層で受診率が高い

問 19 この1年間に歯科健診を受けましたか。(○はひとつ)

「はい」が63.9%で、「いいえ」の35.7%を28.2ポイント上回っている。

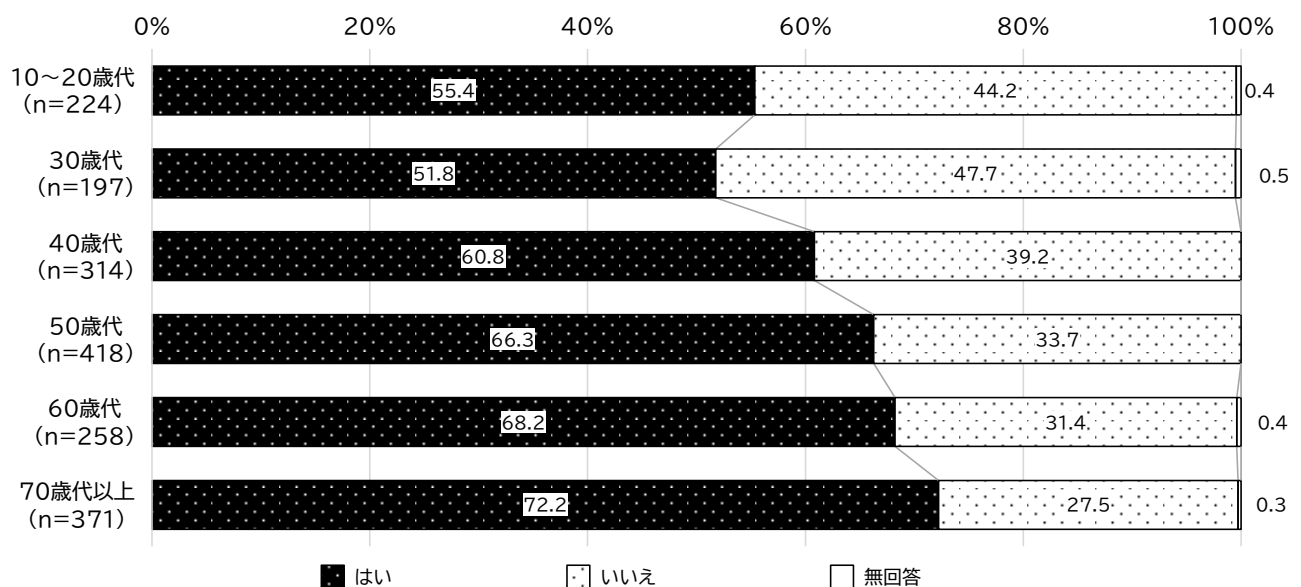
図 歯科健診の受診(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

いずれの年代でも「はい」の方が高く、40歳代以上の年代では6割を超えており、高齢者層で受診率が高くなっている。

図 年代別 歯科健診の受診



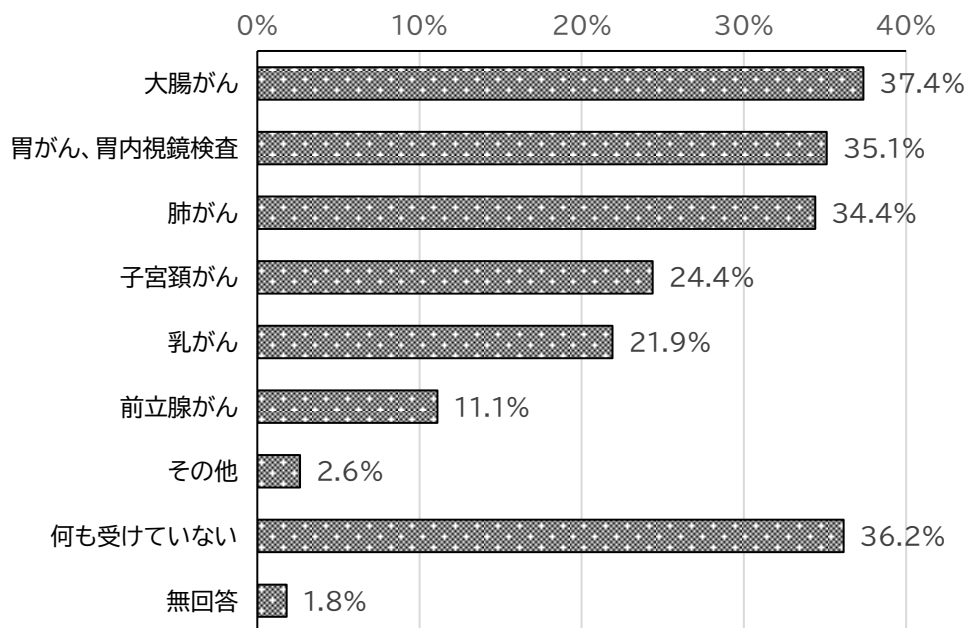
(4)がん健診の受診

大腸がん、肺がん、胃がん検診の受診率が高いが、何も受けていない人も3割以上に達する

問 20 過去2年間でがん検診を受けましたか。また、受けた方はどのような検診を受けましたか。(〇はいくつでも)

受けたがん検診では「大腸がん」が 37.4%で最も高く、次いで「胃がん、胃内視鏡検査」35.1%、「肺がん」34.4%となっている。「何も受けていない」は 36.2%である。

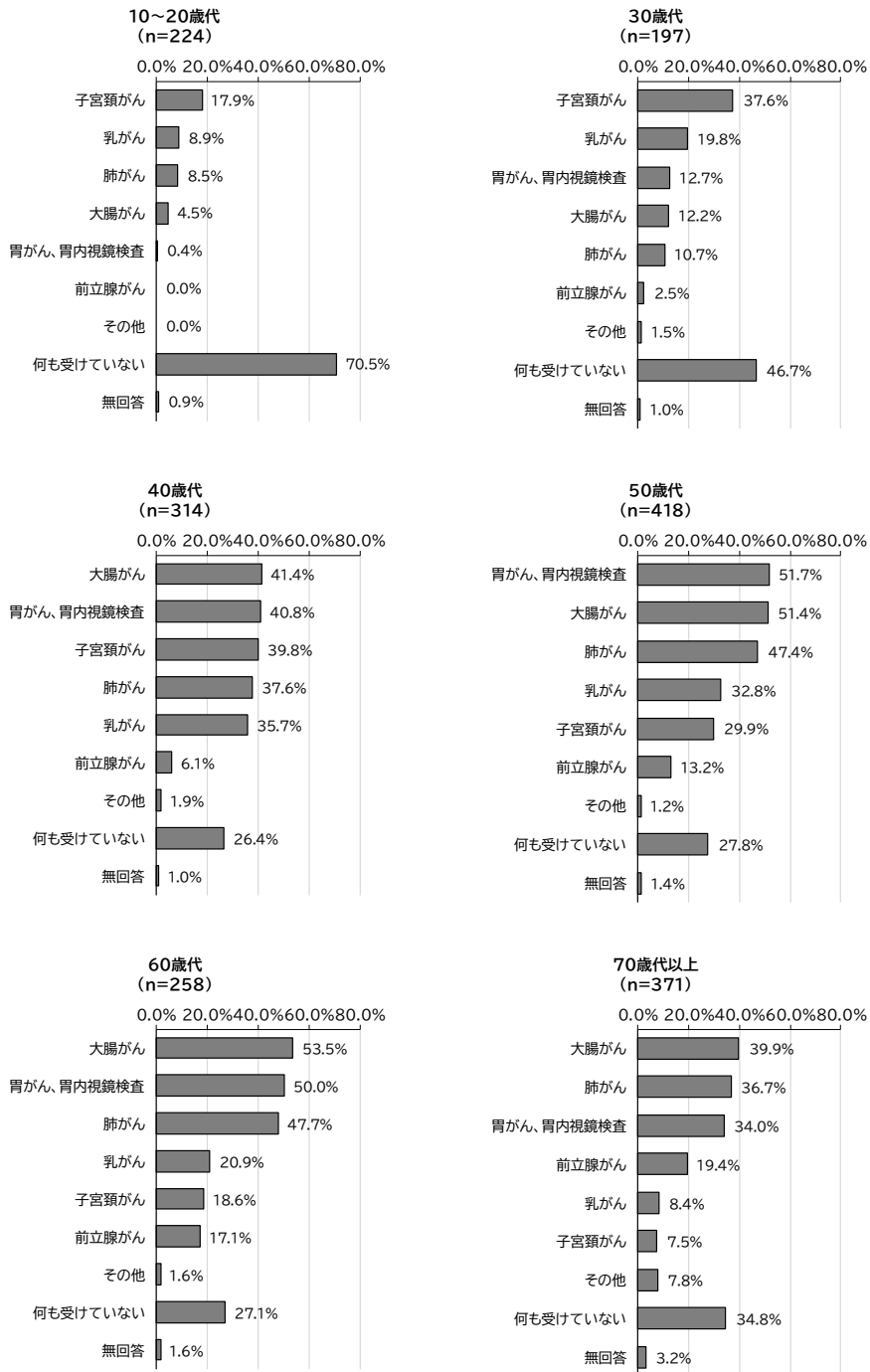
図 がん健診の受診(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

10～20 歳代、30 歳代では「何も受けていない」が最も高く、若年層での受診率は低い。40 歳代と 60 歳代、70 歳代以上では「大腸がん※2」、50 歳代では「胃がん※3、胃内視鏡検査※4」が最も高くなっている。

図 年代別 がん健診の受診

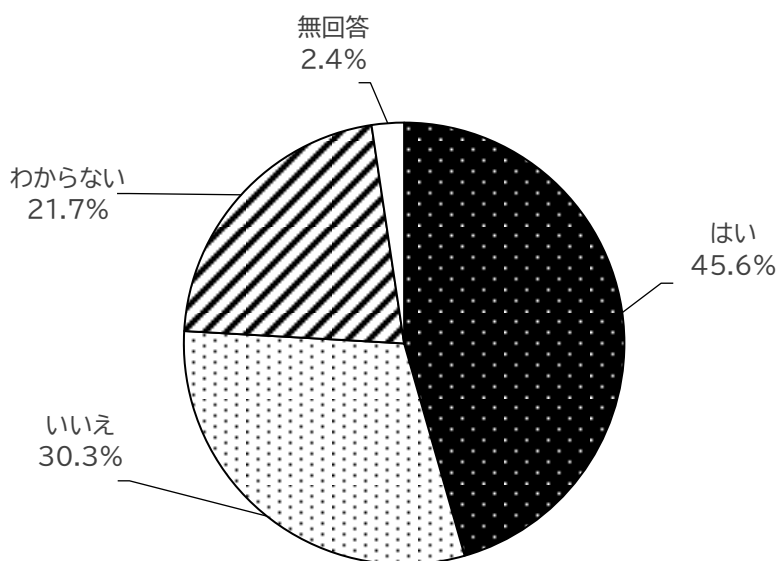


(5)都筑野菜の購入経験

「都筑野菜」の購入経験は4割を超え、年齢が高いほど購入率も高い

問 21 都筑区では区内で取れた新鮮でおいしい野菜や果物、卵などの食材を「都筑野菜」としてPRしています。あなたは、過去1年間で都筑野菜を購入したことがありますか。(〇はひとつ)
「はい」が45.6%、「いいえ」が30.3%となっている。

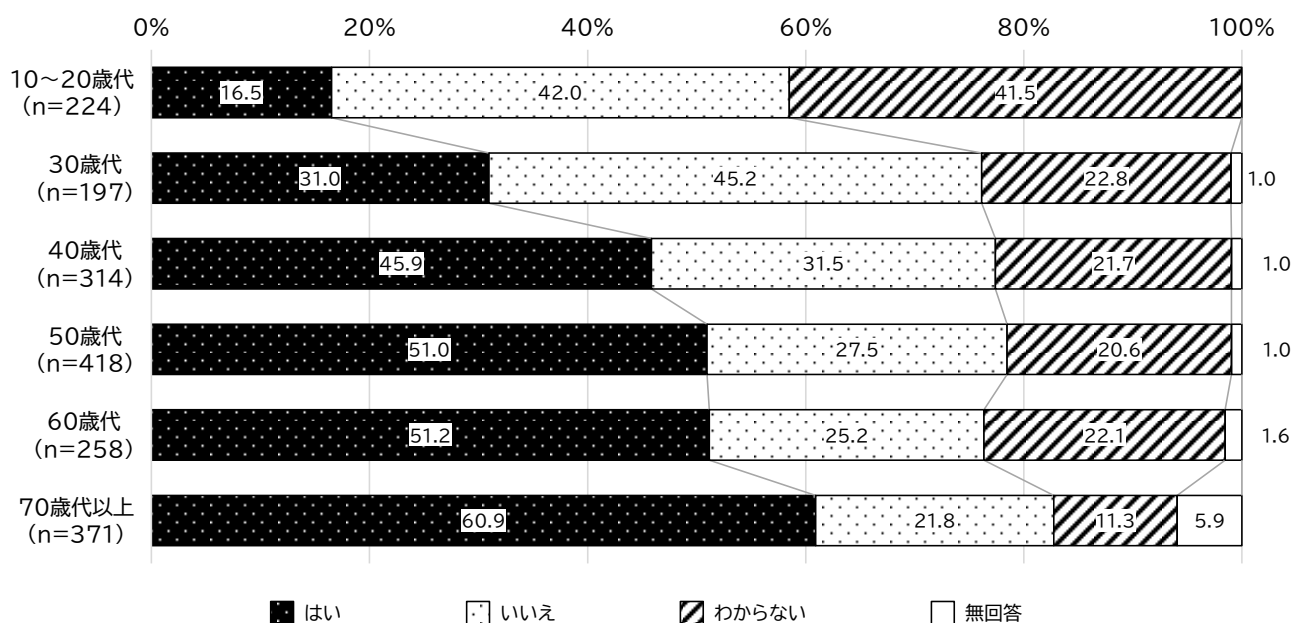
図 都筑野菜の購入経験(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

30歳代までの年代では「いいえ」、40歳代以上の年代では「はい」が最も多い。年齢が高いほど数値も高く、70歳代以上では「はい」が6割に達している。

図 年代別 都筑野菜の購入経験

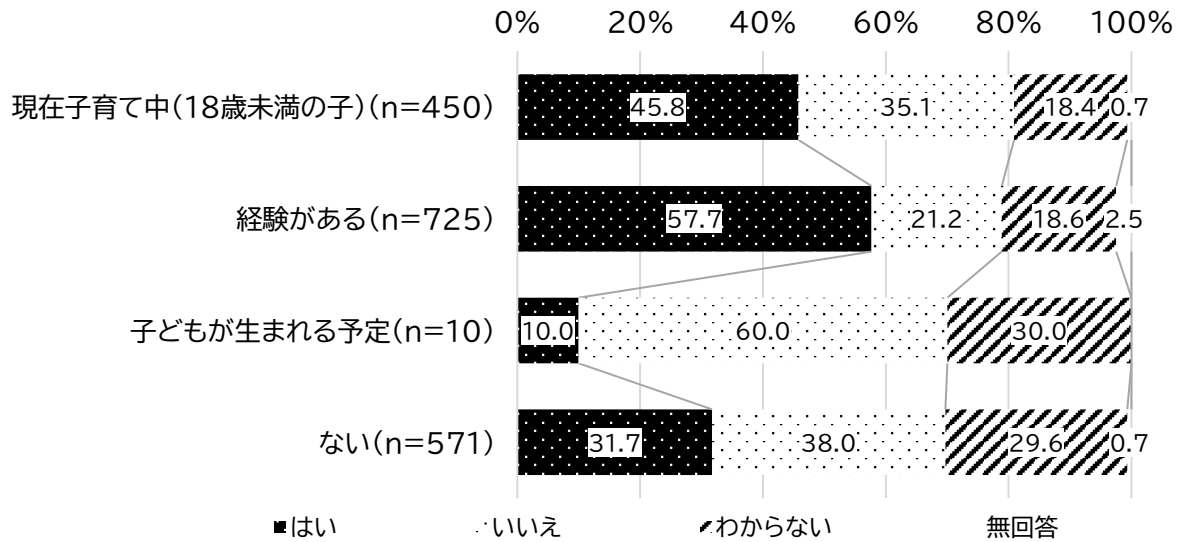


■ 子育て経験の有無別でみる特徴

都筑野菜の購入経験は、子育ての経験がある方が最も高く 57.7%、次いで現在子育て中(18歳未満の子)の方 45.8%、子育て経験がない方は 31.7%となっている。

子育て経験のある方と現在子育て中の方では、「はい」と回答した方が「いいえ」と回答した方を上回っている。

図 子育て経験の有無別 都筑野菜の購入経験



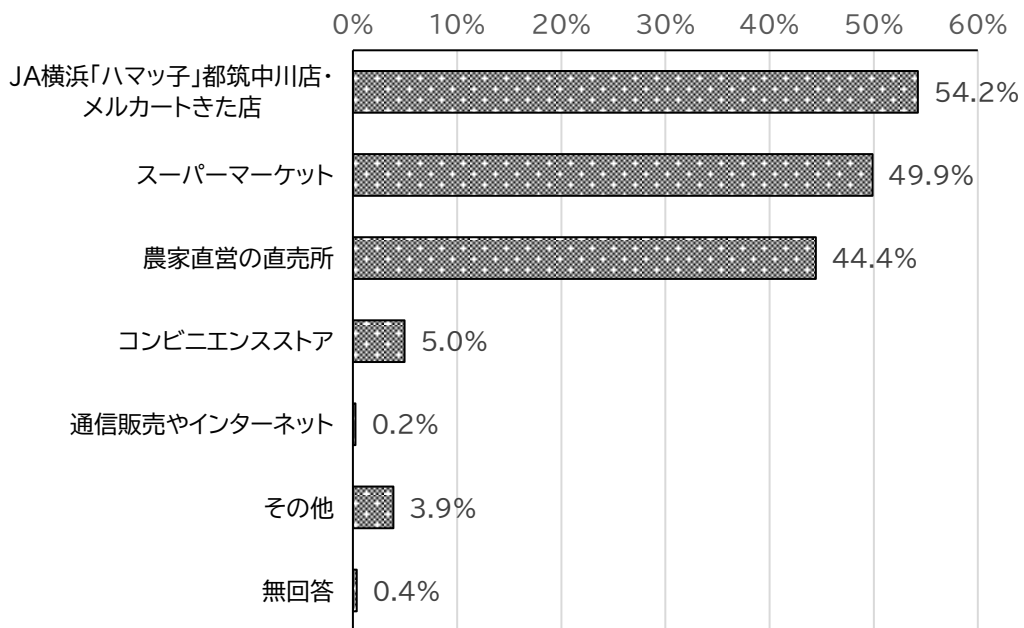
(6)都筑野菜の購入場所

都筑野菜の購入場所は「JA 横浜「ハマッ子」都筑中川店・メルカートきた店」、次いで「スーパーマーケット」「農家直営の直売所」

問 21-1 購入場所はどちらですか。(問 21 で「はい」と答えた方、○はいくつでも)

「JA 横浜「ハマッ子」都筑中川店・メルカートきた店」が 54.2%で最も高く、次いで「スーパーマーケット」49.9%、「農家直営の直売所」44.4%となっている。

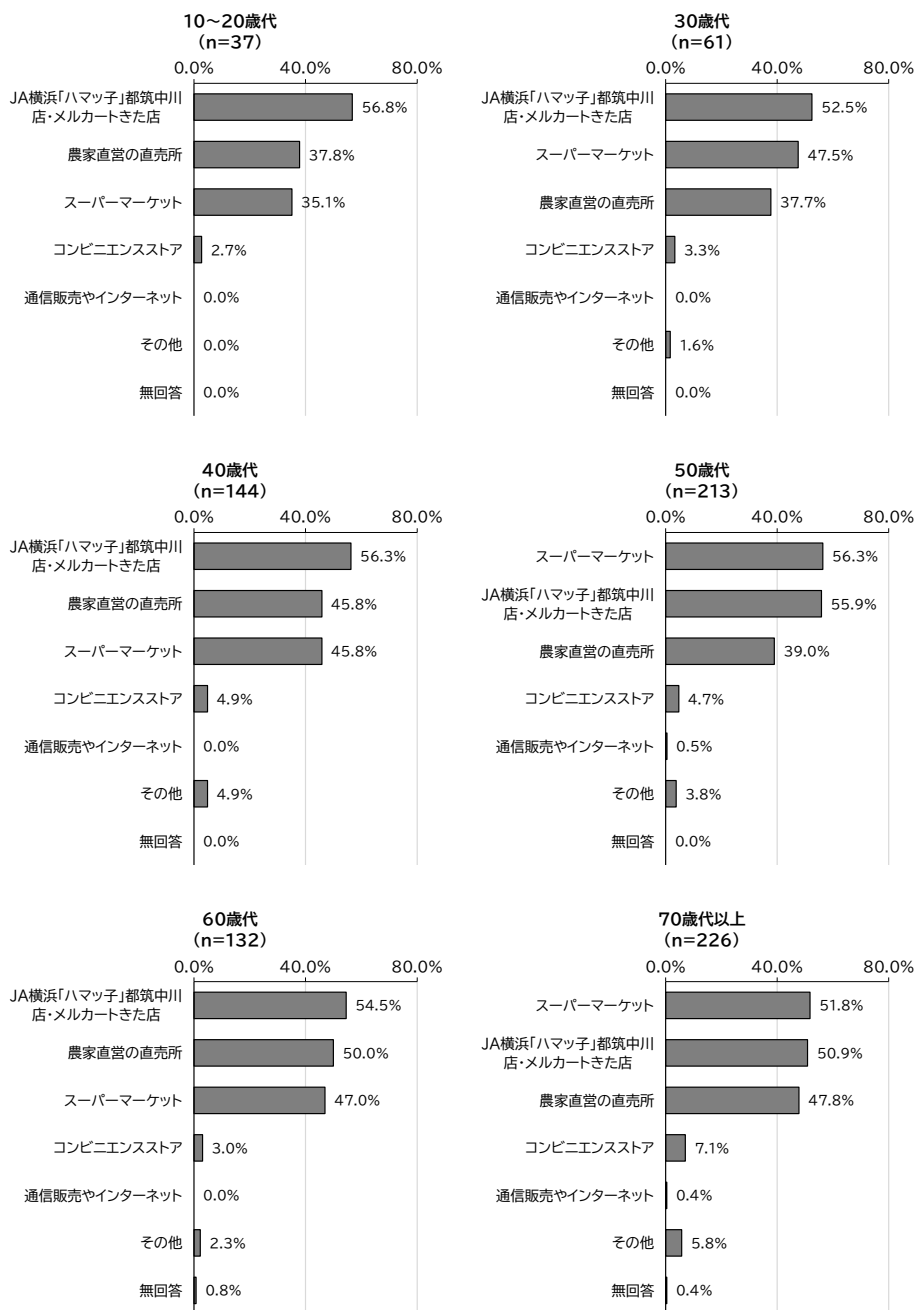
図 都筑野菜の購入場所(n=828)



■ 年代別でみる特徴

50歳代と70歳代以上では「スーパーマーケット」、それ以外の年代では「JA 横浜「ハマッ子」都筑中川店・メルカートきた店」が最も高くなっている。

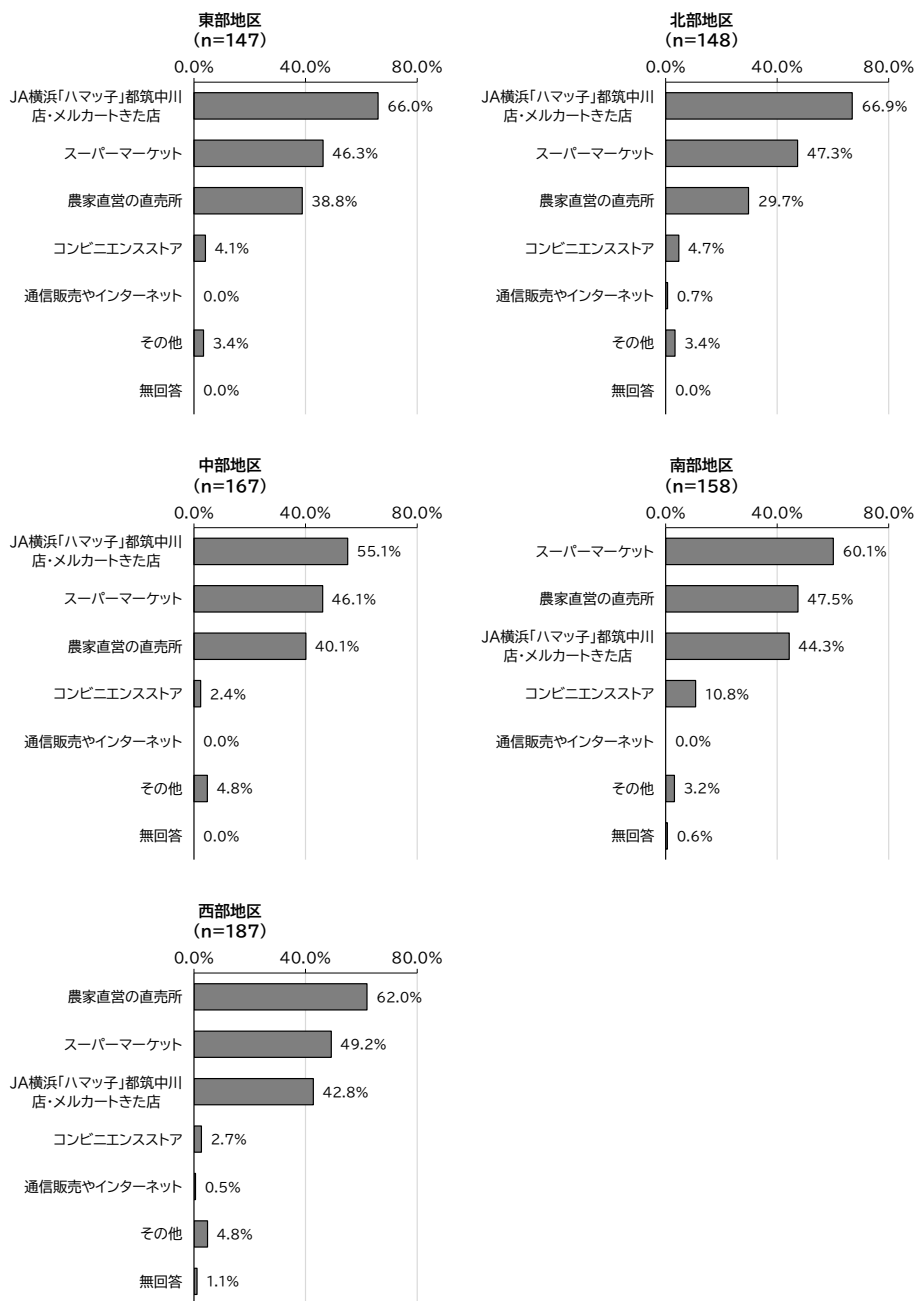
図 年代別 都筑野菜の購入場所



■ 地区別でみる特徴

南部地区では「スーパーマーケット」、西部地区では「農家直営の直売所」、それ以外の地区では「JA 横浜「ハマッ子」都筑中川店・メルカートきた店」が最も高くなっている。

図 地区別 都筑野菜の購入場所



8. 子ども・子育て支援

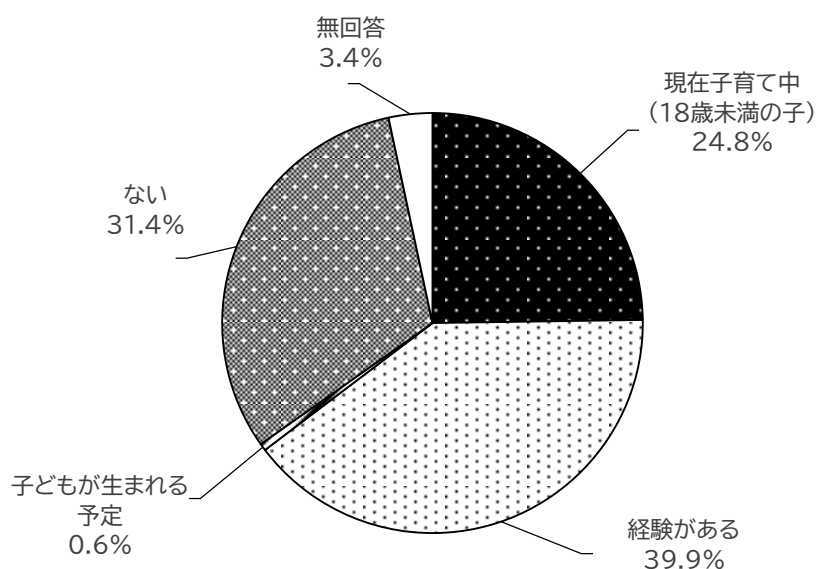
(1) 子育ての経験

子育て経験がある人は全体の4割、「現在子育て中」と合わせると6割以上

問 22 あなたの子育ての経験について、あてはまるものを選んでください。(○はひとつ)

「経験がある」が最も高く 39.9%、次いで「ない」31.4%、「現在子育て中(18歳未満の子)」24.8%となっている。「経験がある」「現在子育て中(18歳未満の子)」を合わせると 64.7%である。

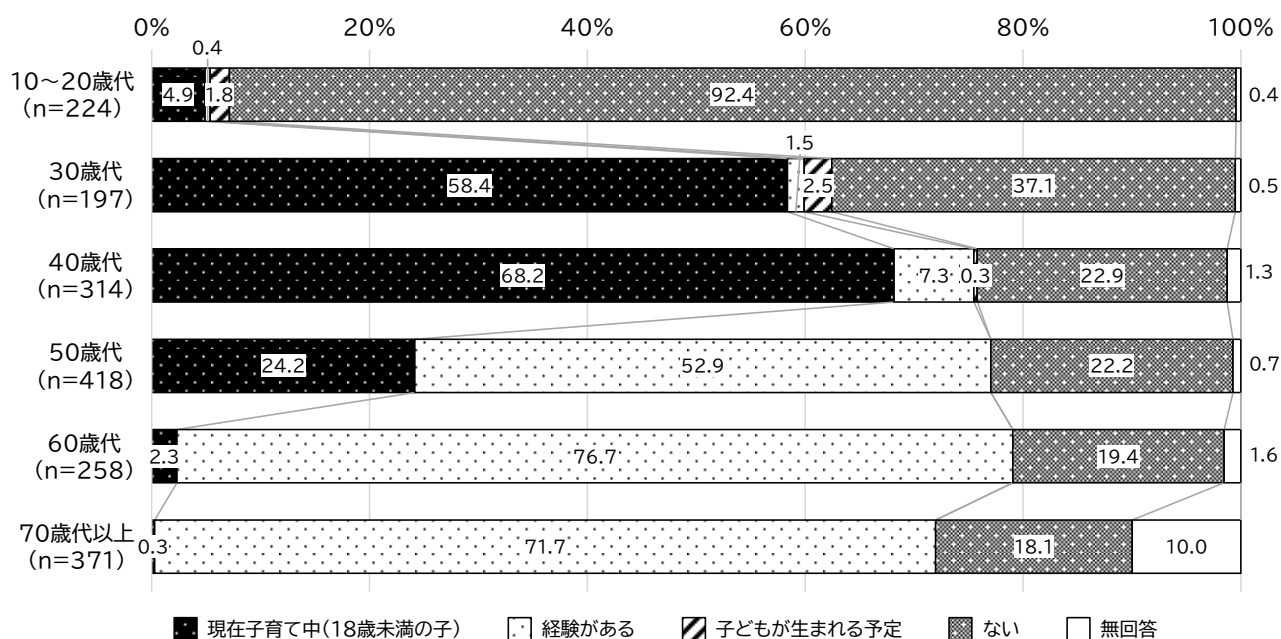
図 子育ての経験(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

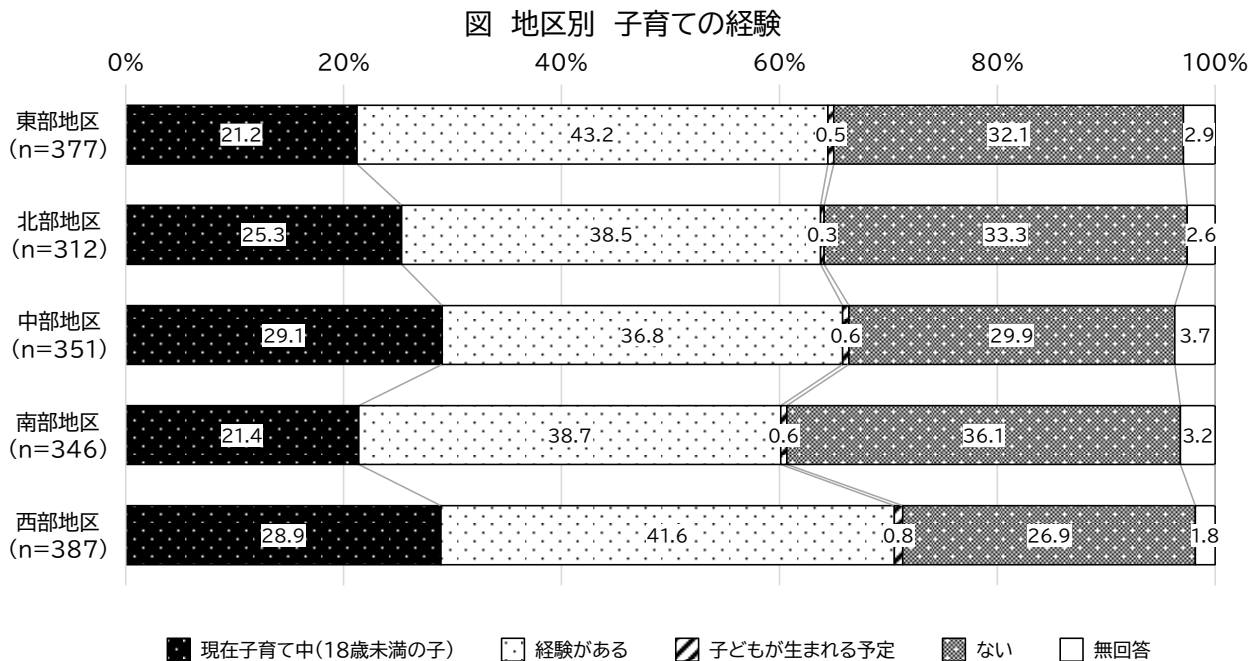
50歳代以上では「経験がある」が、30歳代と40歳代では「現在子育て中(18歳未満の子)」が、10～20歳代では「ない」が最も高くなっている。

図 年代別 子育ての経験



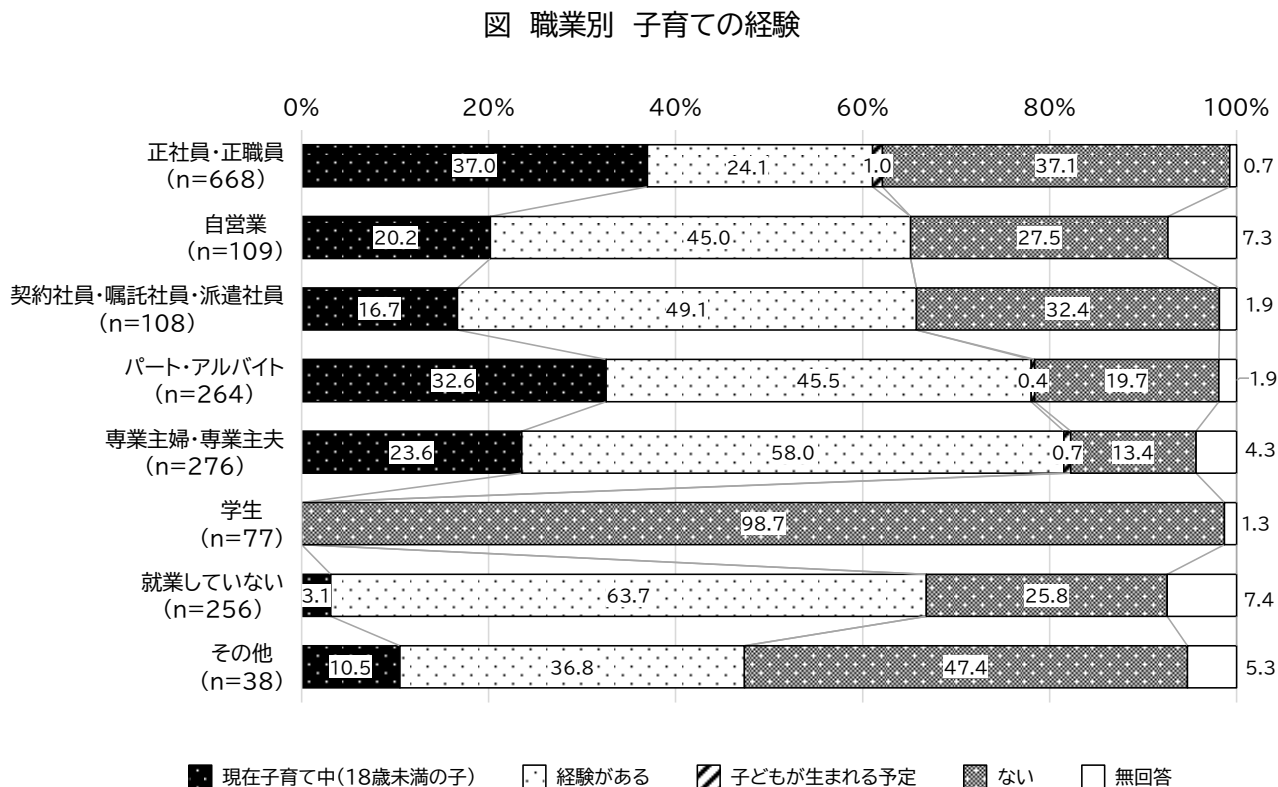
■ 地区別でみる特徴

「経験がある」は、東部地区が43.2%で最も高くなっている。「現在子育て中」(18歳未満の子)は、「中部地区」が29.1%で最も高くなっている。



■ 職業別でみる特徴

正社員・正職員では「現在子育て中(18歳未満の子)」と「ない」が37%台で拮抗しており、学生では「ない」が98.7%と高くなっている。それ以外は「経験がある」が最も高くなっている。



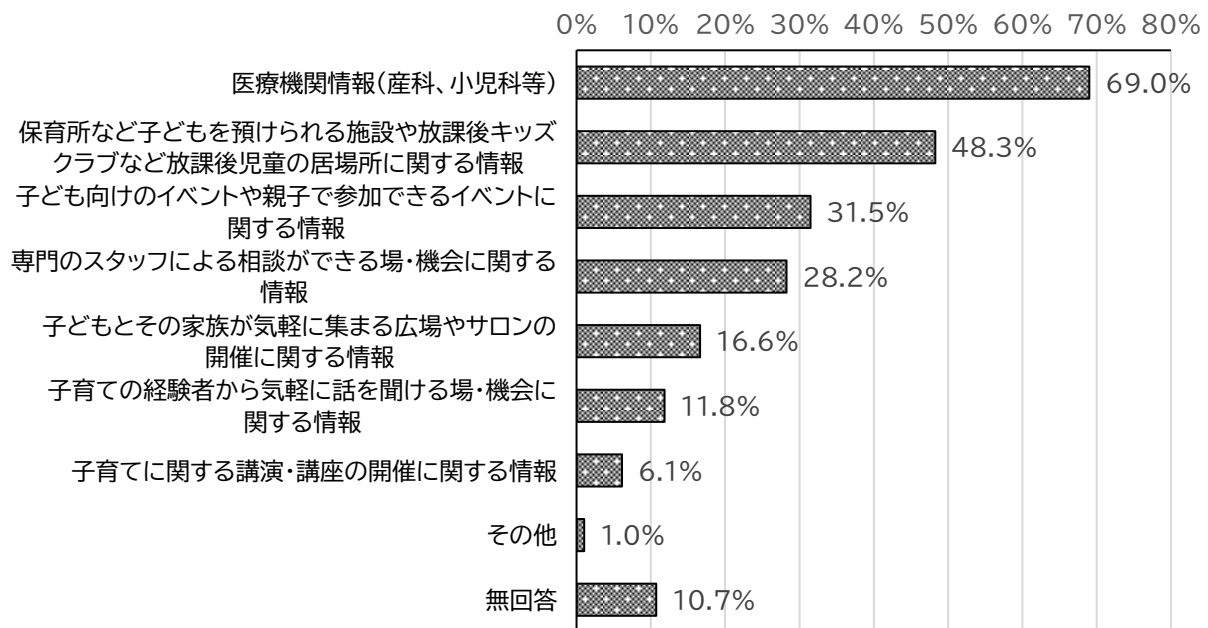
(2)子育てに役立つ情報

「医療機関情報(産科、小児科等)」を7割以上が挙げている

問 23 子育てをするにあたり、どのような情報があると役に立つと思いますか。(〇は3つまで)

「医療機関情報(産科、小児科等)」が69.0%で最も高く、次いで「保育所など子どもを預けられる施設や放課後キッズクラブなど放課後児童の居場所に関する情報」48.3%、「子ども向けのイベントや親子で参加できるイベントに関する情報」31.5%となっている。

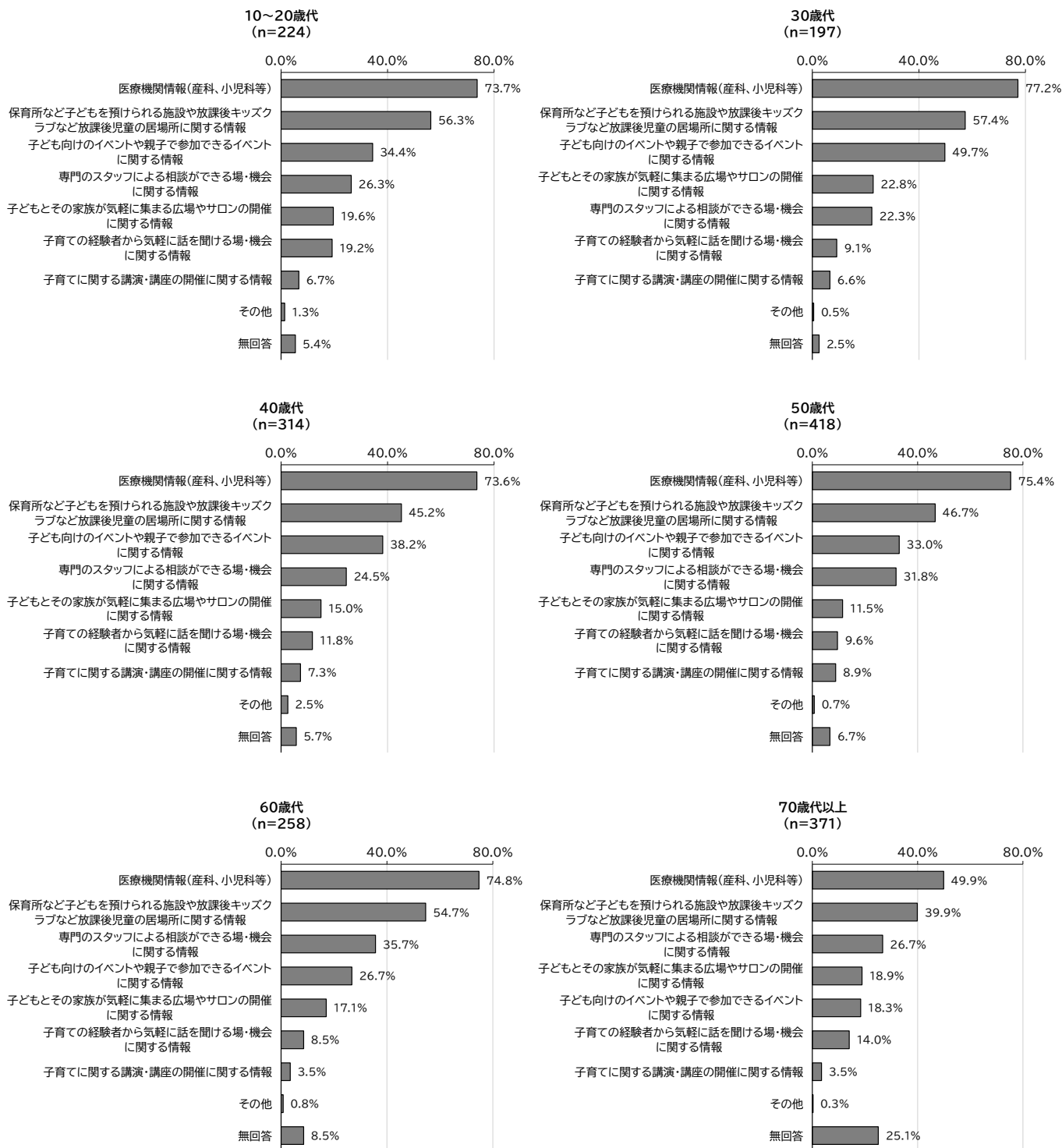
図 子育てに役立つ情報(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

いずれの年代でも「医療機関情報(産科、小児科等)」が最も高く、次いで「保育所など子どもを預けられる施設や放課後キッズクラブなど放課後児童の居場所に関する情報」が高くなっている。

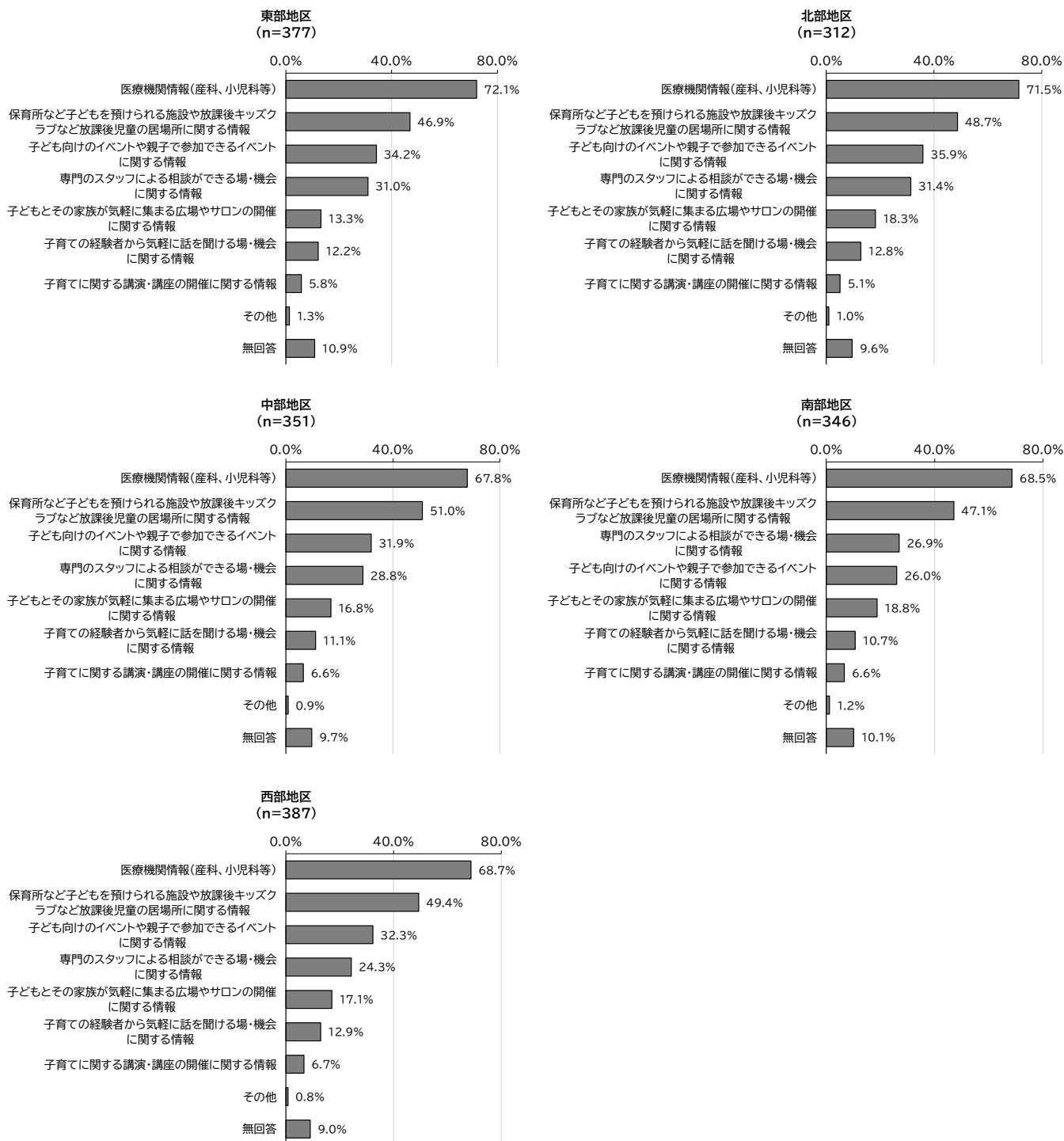
図 年代別 子育てに役立つ情報



■ 地区別でみる特徴

いずれの地区でも「医療機関情報(産科、小児科等)」が最も高く、次いで「保育所など子どもを預けられる施設や放課後キッズクラブなど放課後児童の居場所に関する情報」が高くなっている。

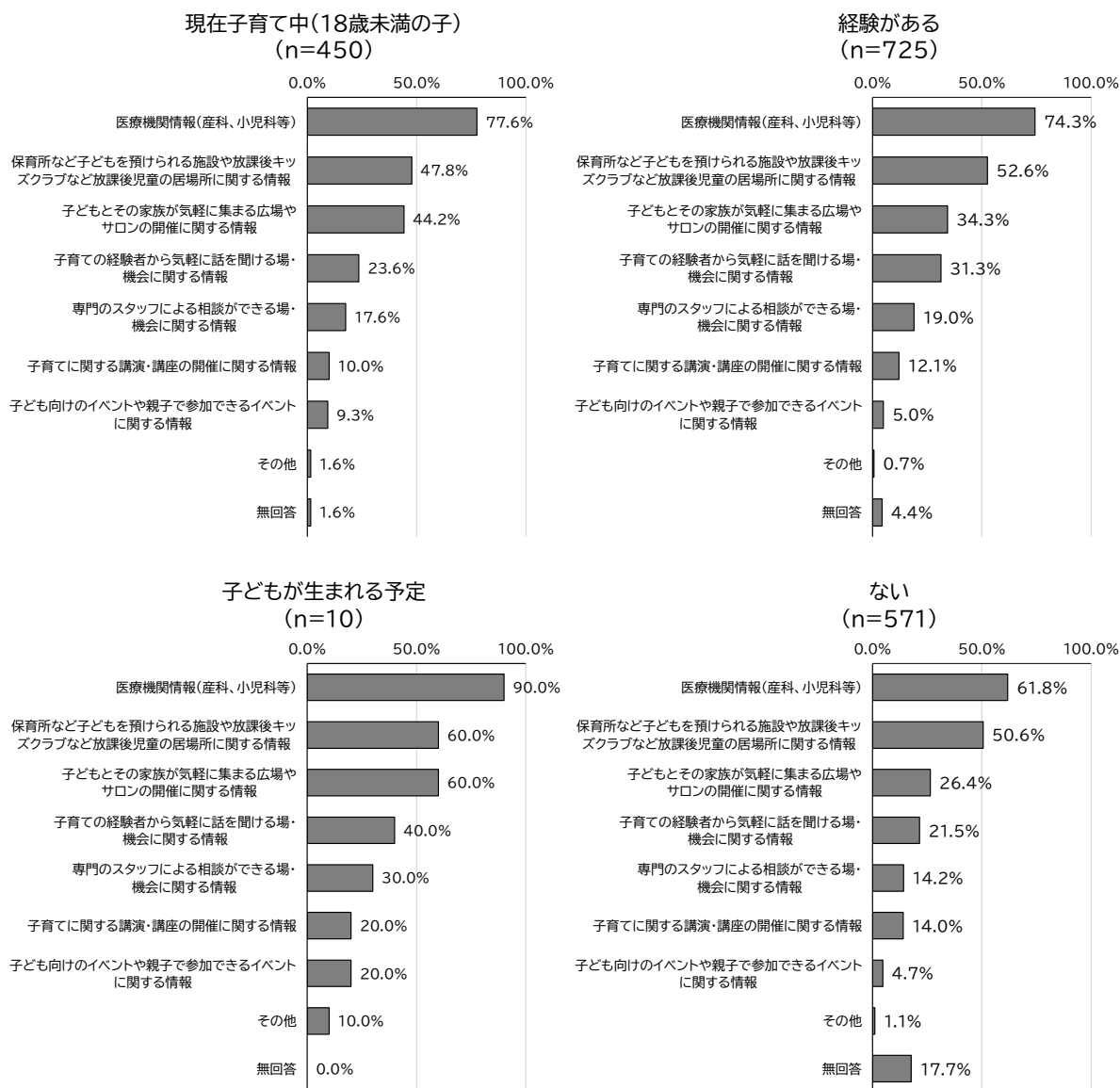
図 地区別 子育てに役立つ情報



■ 「問 22 子育ての経験の有無」別でみる特徴

子育ての経験の有無に係わらず、「医療機関情報(産科、小児科等)」が最も高く、次いで、現在子育て中(18歳未満の子)では「子ども向けのイベントや親子で参加できるイベントに関する情報」、それ以外では「保育所など子どもを預けられる施設や放課後キッズクラブなど放課後児童の居場所に関する情報」が高くなっている。

図 「問 22 子育ての経験の有無」別 子育てに役立つ情報



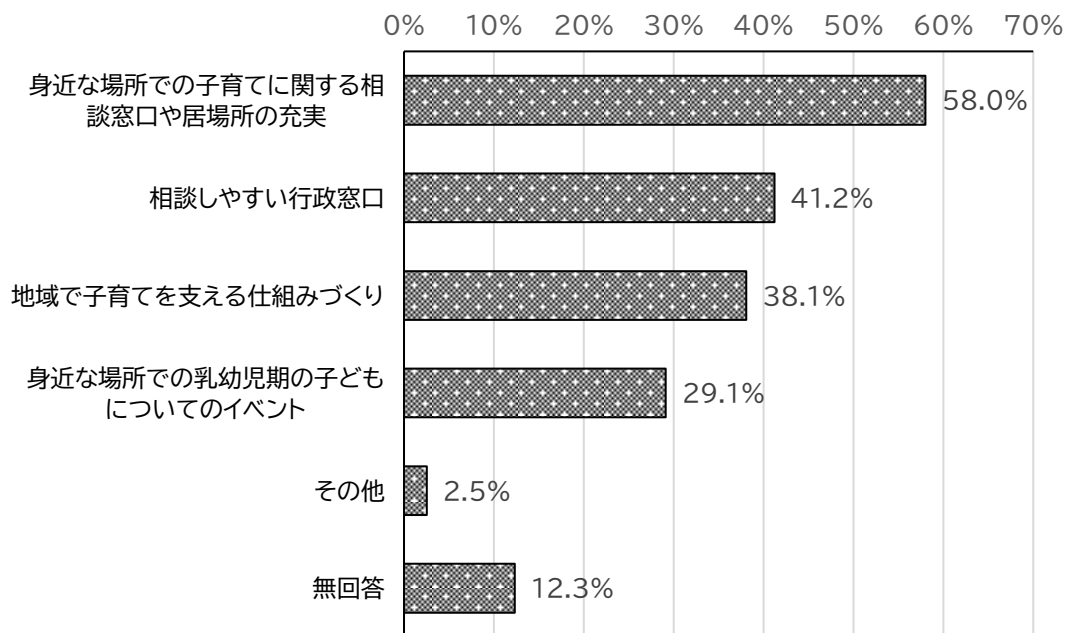
(3)子育てにあたってあるとよい取組

「身近な場所での子育てに関する相談窓口や居場所の充実」を6割近くが挙げている

問 24 子育てをするにあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。(〇は3つまで)

「身近な場所での子育てに関する相談窓口や居場所の充実」が 58.0%で最も高く、次いで「相談しやすい行政窓口」41.2%、「地域で子育てを支える仕組みづくり」38.1%、「身近な場所での乳幼児期の子どもについてのイベント」29.1%となっている。

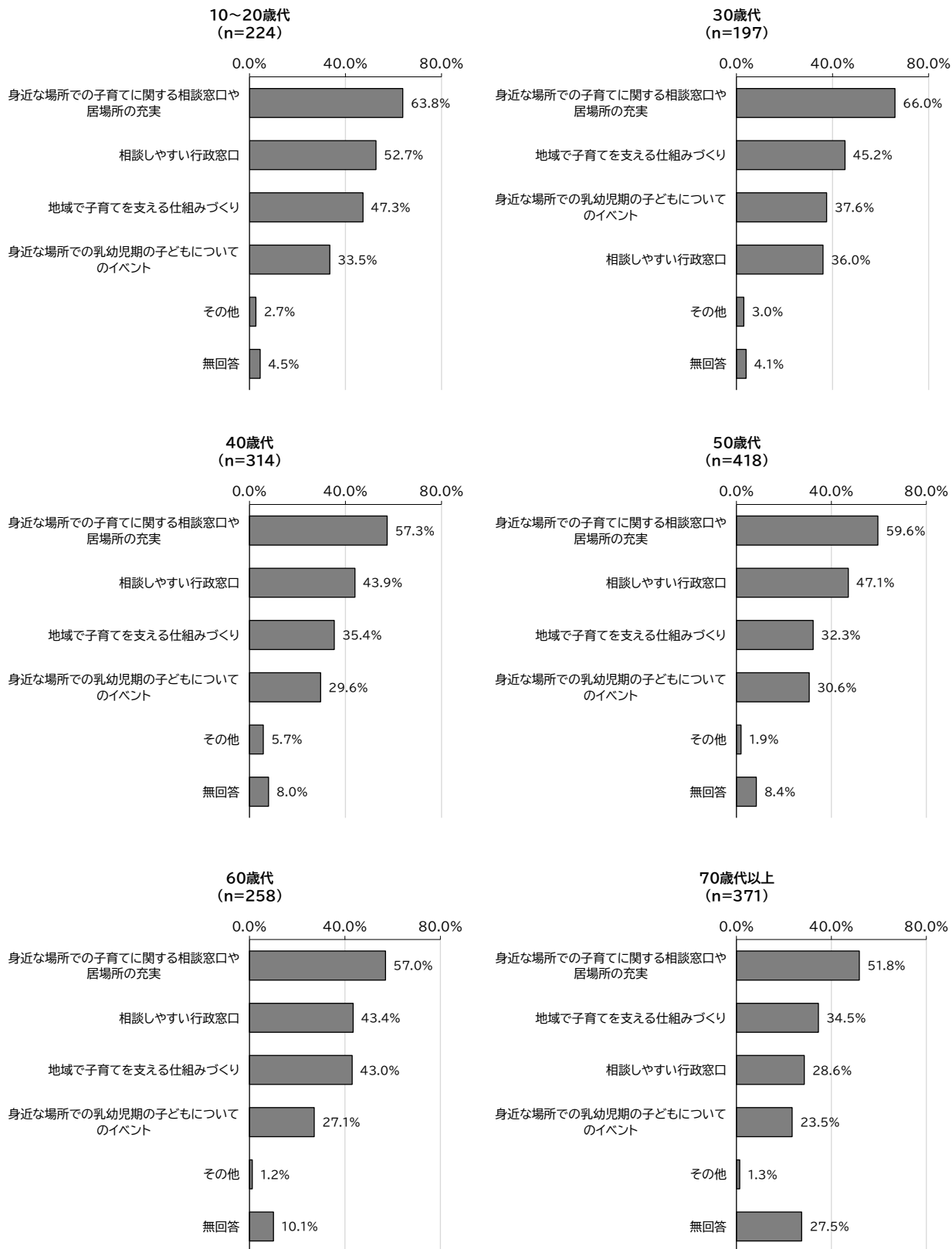
図 子育てにあたってあるとよい取組(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

いずれの年代でも「身近な場所での子育てに関する相談窓口や居場所の充実」が最も高く、特に30歳代以下では6割を超えている。

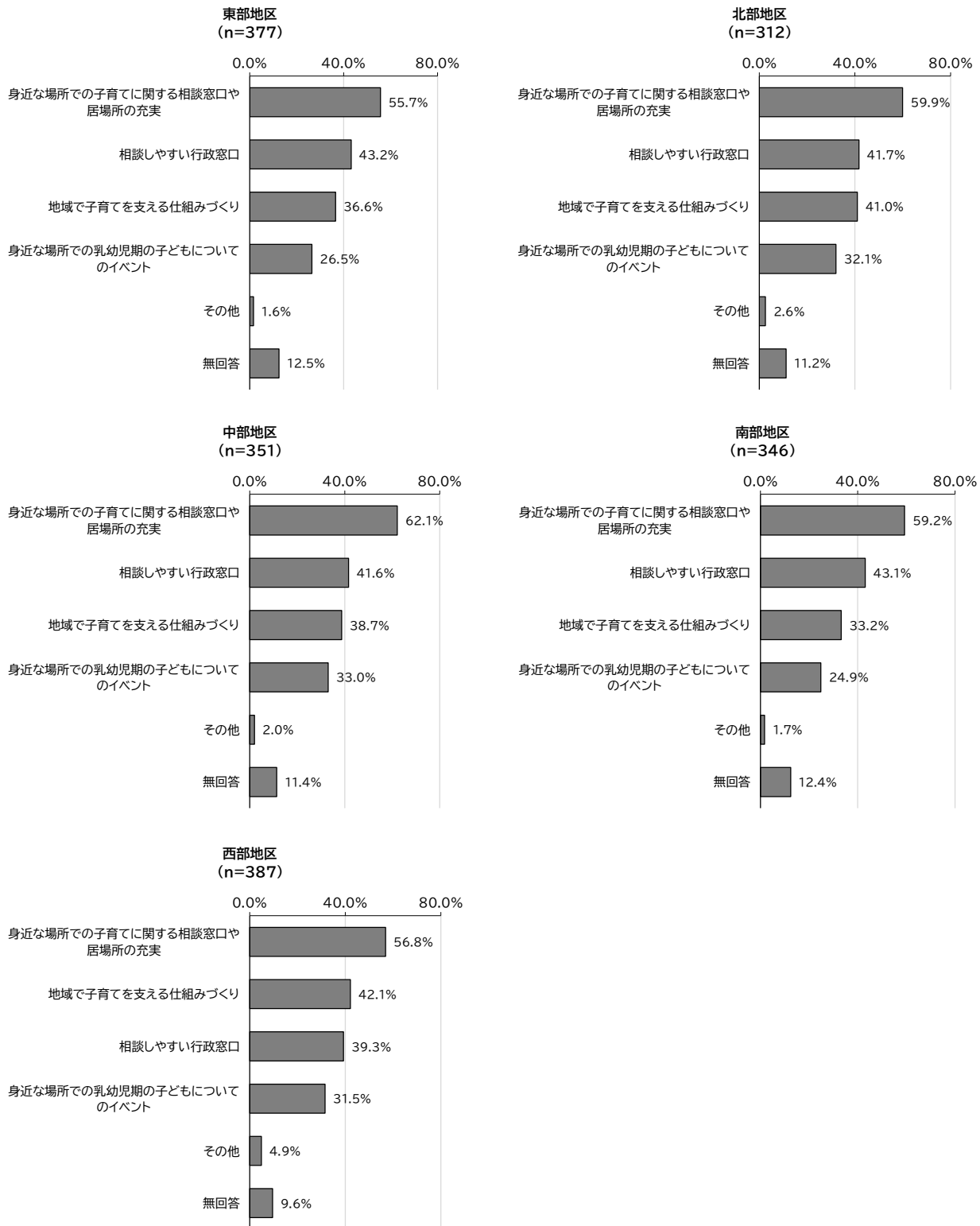
図 年代別 子育てにあたってあるとよい取組



■ 地区別でみる特徴

いずれの地区でも「身近な場所での子育てに関する相談窓口や居場所の充実」が最も高く、特に中部地区では6割を超えている。

図 地区別 子育てにあたってあるとよい取組



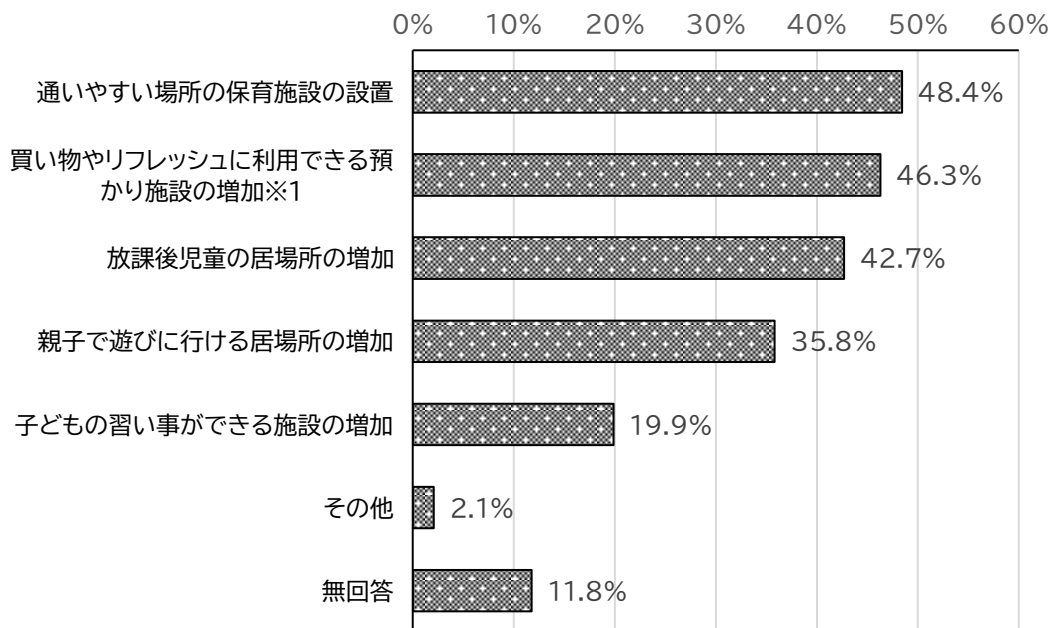
(4)子どもに関する居場所・施設について、あるとよい取組

「通いやすい場所の保育施設の設置」「買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加」「放課後児童の居場所の増加」をそれぞれ4割以上が挙げている

問 25 子どもに関する居場所・施設について、どのような取組があるとよいと思いますか。(〇は3つまで)

「通いやすい場所の保育施設の設置」が 48.4%で最も高く、次いで「買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加※1」46.3%、「放課後児童の居場所の増加」42.7%となっている。

図 子どもに関する居場所・施設について、あるとよい取組(n=1,817)

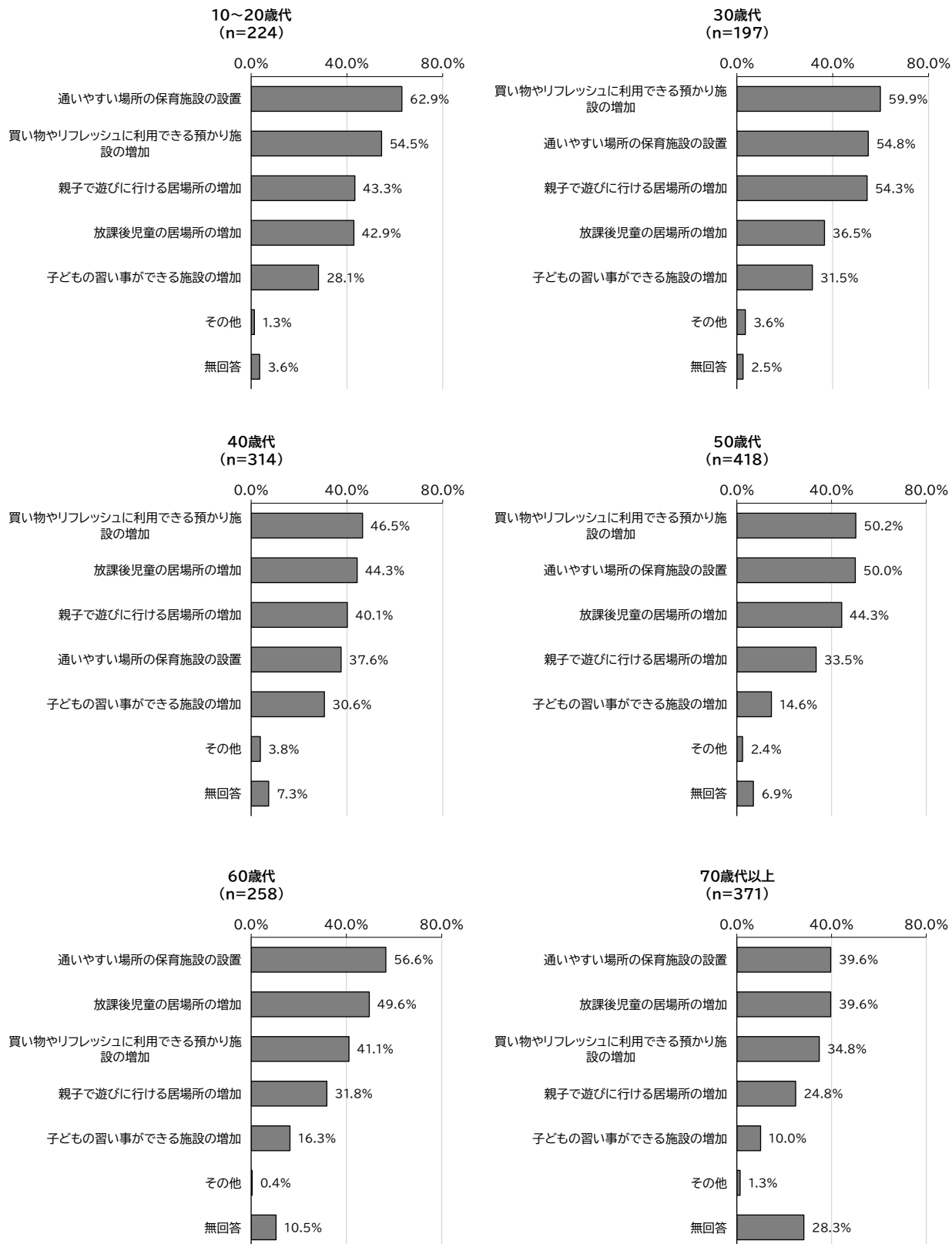


買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加※1(一時保育・一時預かりなど)

■ 年代別でみる特徴

10～20歳代と60歳代以上では「通いやすい場所の保育施設の設置」が、30歳代、40歳代、50歳代では「買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加」が最も高くなっている。

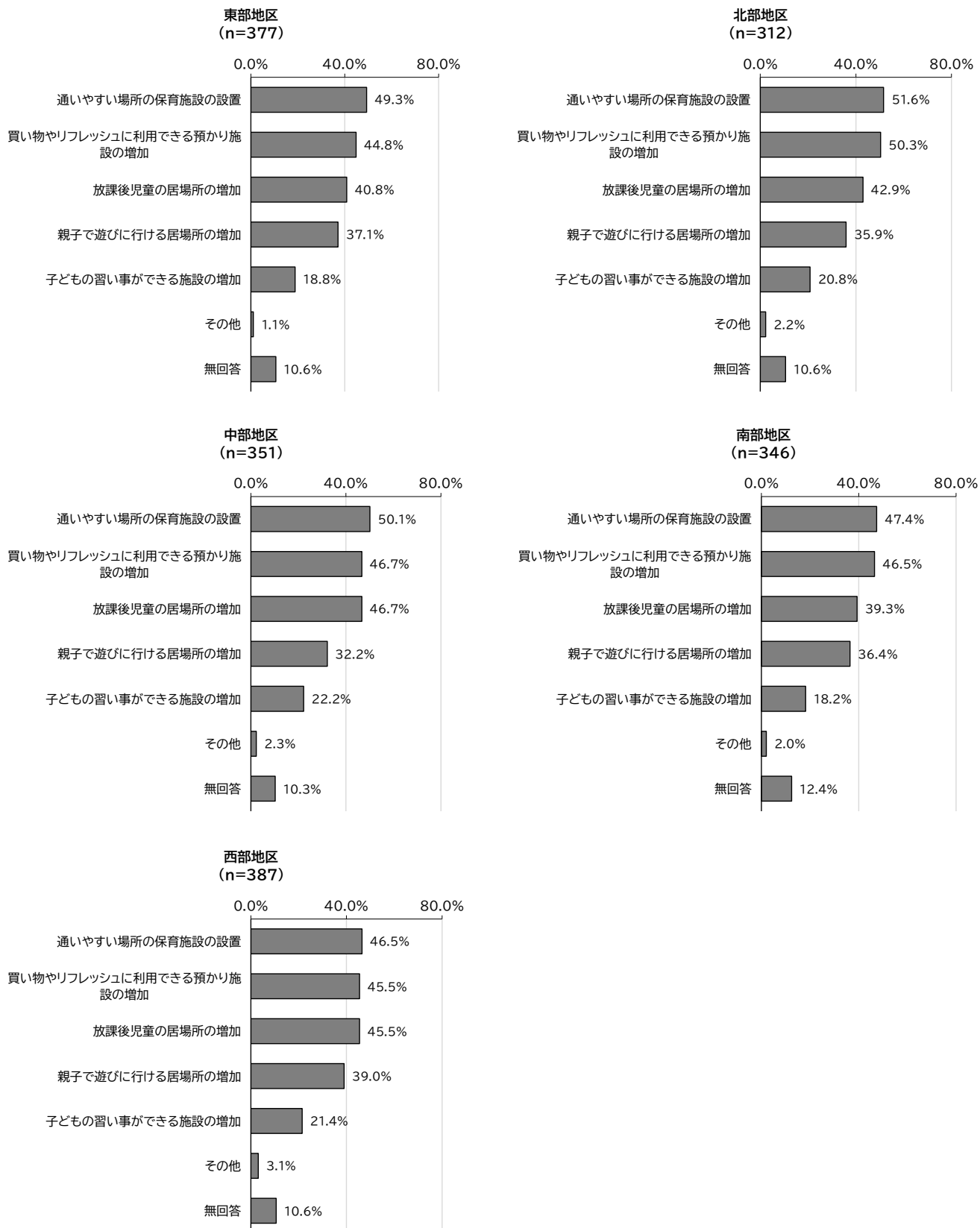
図 年代別 子どもに関する居場所・施設について、あるとよい取組



■ 地区別でみる特徴

いずれの地区でも「通いやすい場所の保育施設の設置」が最も高く、特に北部地区と中部地区では 5 割を超えている。

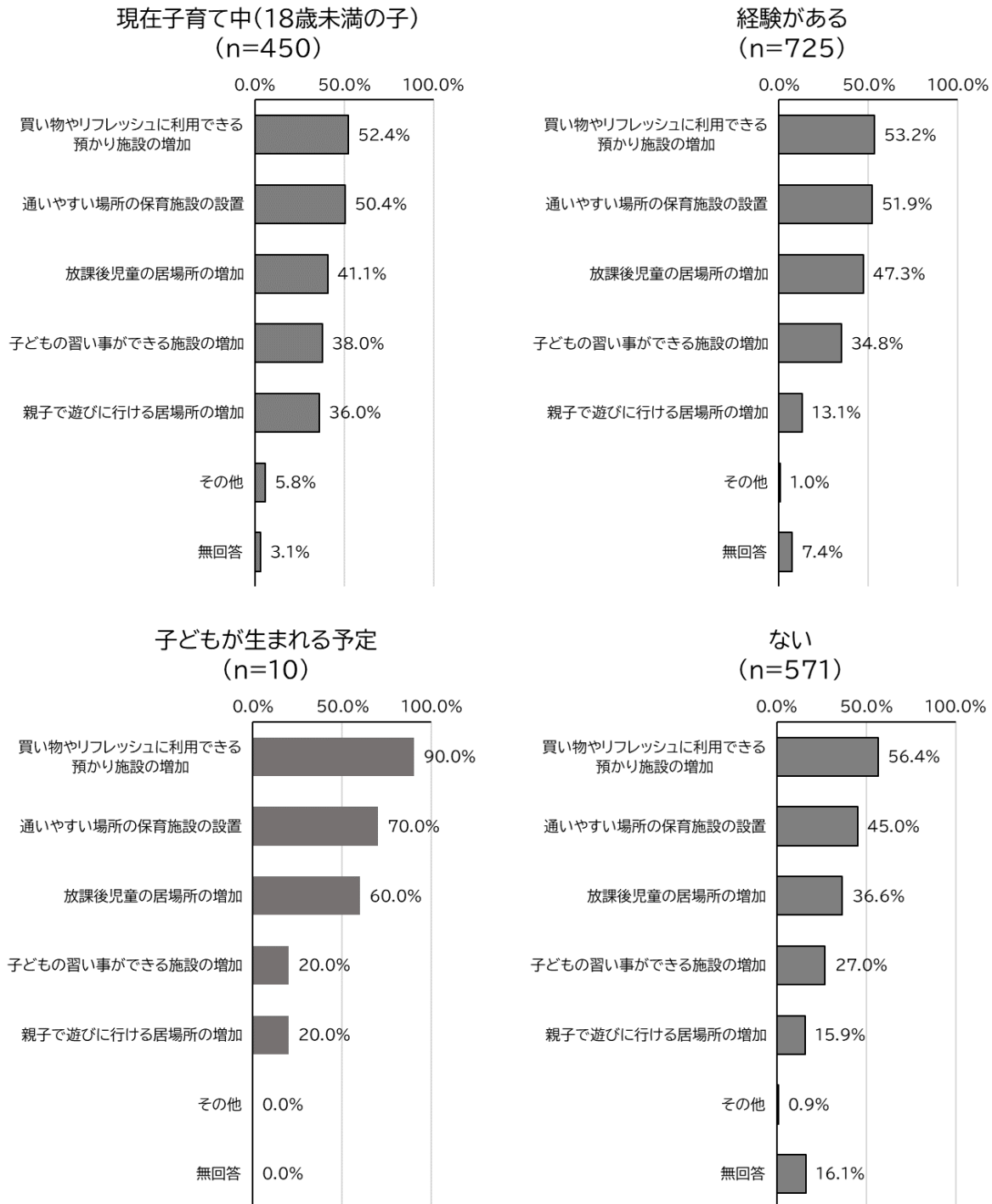
図 地区別 子どもに関する居場所・施設について、あるとよい取組



■ 「問 22 子育ての経験の有無」別でみる特徴

“現在子育て中(18歳未満の子)”では「親子で遊びに行ける居場所の増加」、「経験がある」と“ない”では「通いやすい場所の保育施設の設置」、「子どもが生まれる予定”では「買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加」が最も高い。

図 「問 22 子育ての経験の有無」別 子どもに関する居場所・施設について、あるとよい取組



9. 障害児・者理解

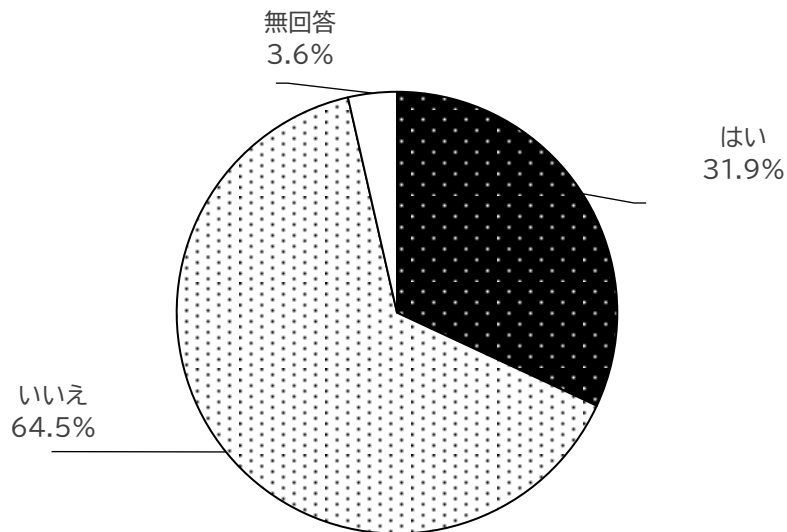
(1) 障害児・者と交流する機会の有無

障害児・者と交流する機会があったのは全体の約3割、若年層での数値が高くなっている

問 26 障害児・者と交流する機会を持ったことがありますか。(○はひとつ)

「いいえ」が64.5%で、「はい」31.9%の2倍となっている。

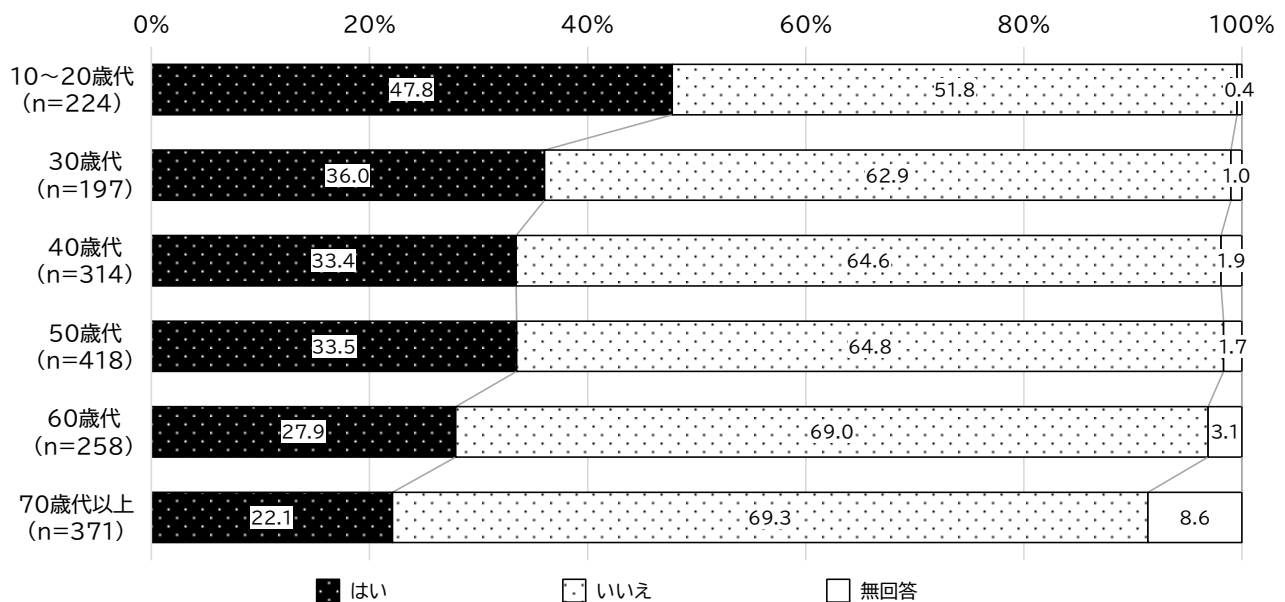
図 障害児・者と交流する機会の有無(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

いずれの年代でも「いいえ」の方が高いが、10～20 歳代では「はい」の数値が 47.8%と、半数近くに達している。

図 年代別 障害児・者と交流する機会の有無



(2)障害理解のためのイベントや啓発活動への参加

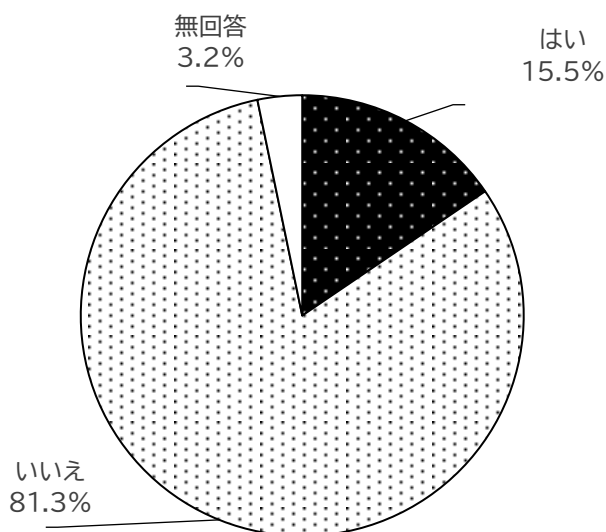
8割以上が、イベントや啓発活動への参加機会はなかったとしている

問 27 障害や疾病などに対する理解を深めるためのイベントや啓発活動に参加したことがありますか。

(〇はひとつ)

「いいえ」は 81.3%と8割以上を占め、「はい」は 15.5%となっている。

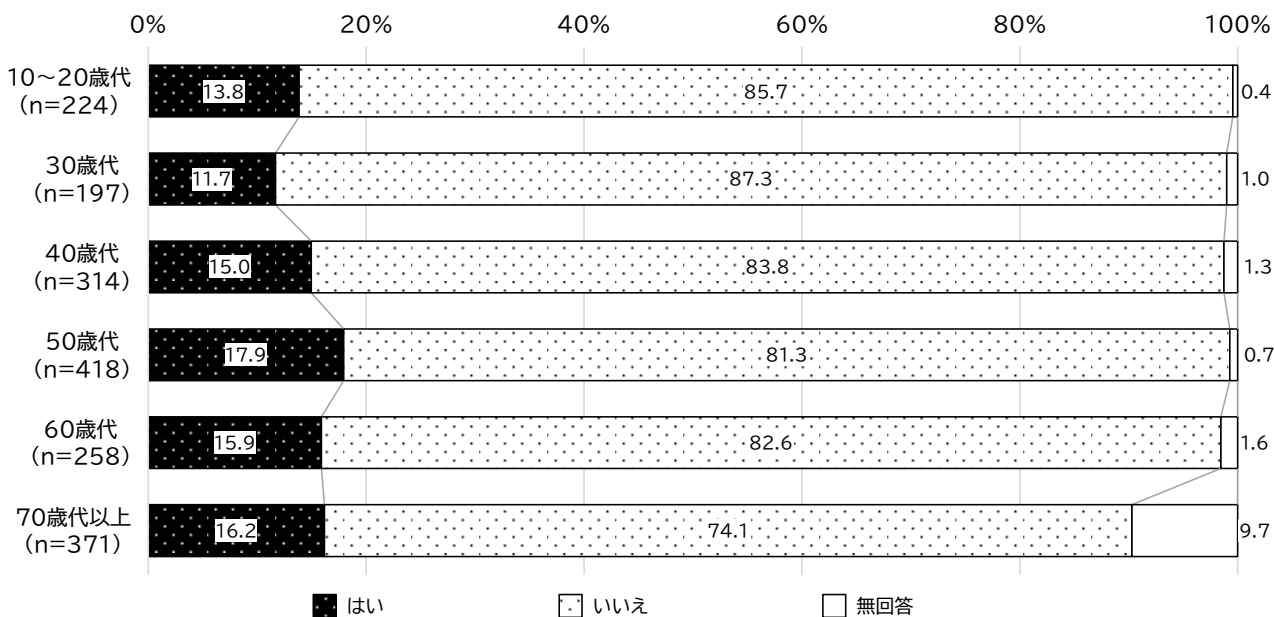
図 障害理解のためのイベントや啓発活動への参加



■ 年代別でみる特徴

いずれの年代でも「いいえ」の方が高いが、50歳代では「はい」の数値が 17.9%と、他の年代より高くなっている。

図 年代別 障害理解のためのイベントや啓発活動への参加



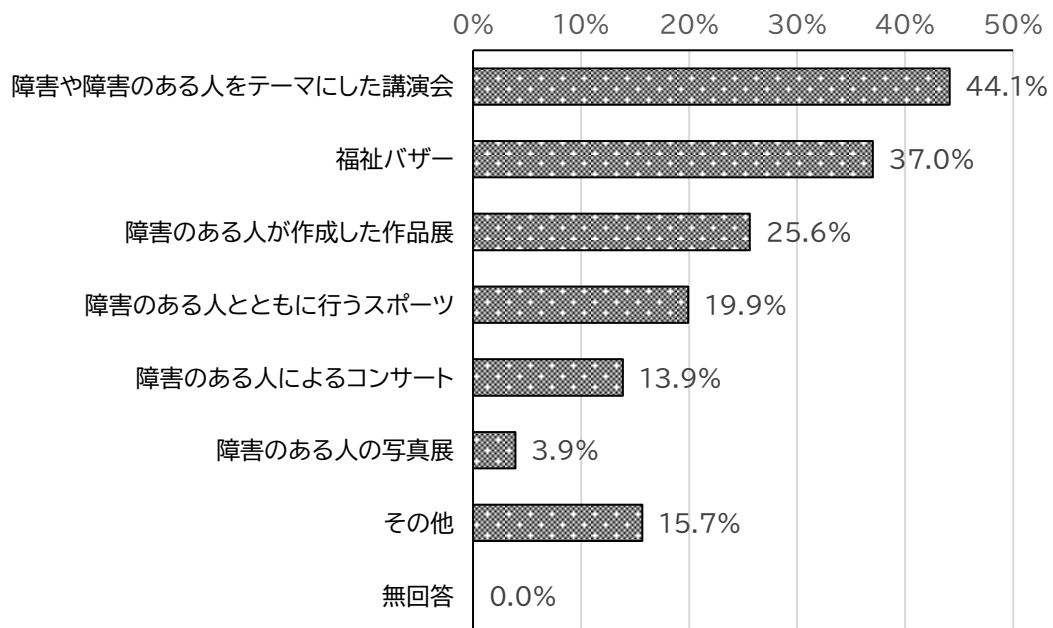
(3)参加したイベント

イベントの内容は「障害や障害のある人をテーマにした講演会」、次いで「福祉バザー」

問 27-1 具体的にどのようなイベントに参加したことがありますか。(問 27 で「はい」と答えた方、○はいくつでも)

「障害や障害のある人をテーマにした講演会」が44.1%で最も高く、次いで「福祉バザー」37.0%、「障害のある人が作成した作品展」25.6%となっている。

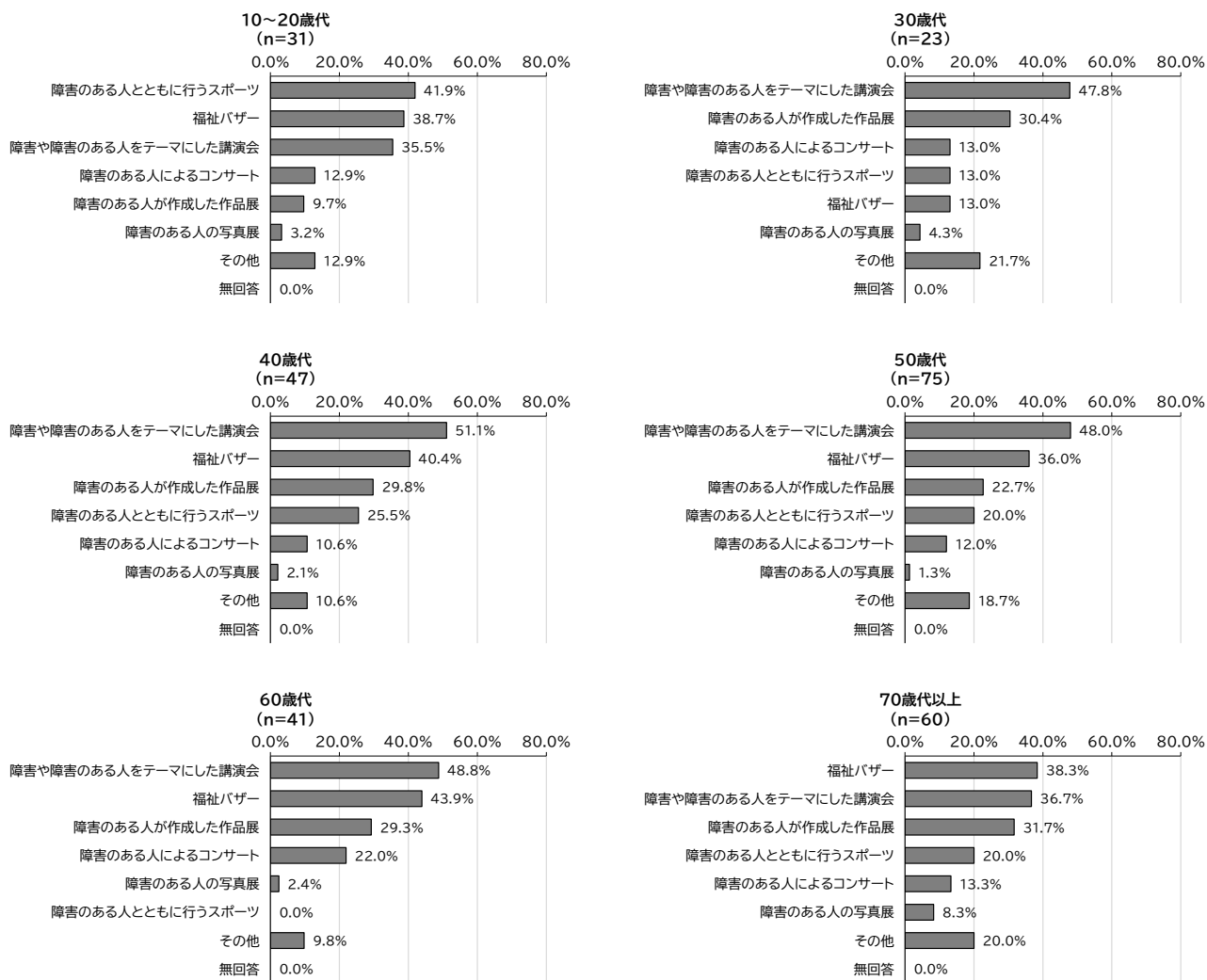
図 参加したイベント(n=281)



■ 年代別でみる特徴

10～20 歳代では「障害のある人とともに行うスポーツ」、70 歳代以上では「福祉バザー」、それ以外の年代では「障害や障害のある人をテーマにした講演会」が最も高くなっている。

図 年代別 参加したイベント



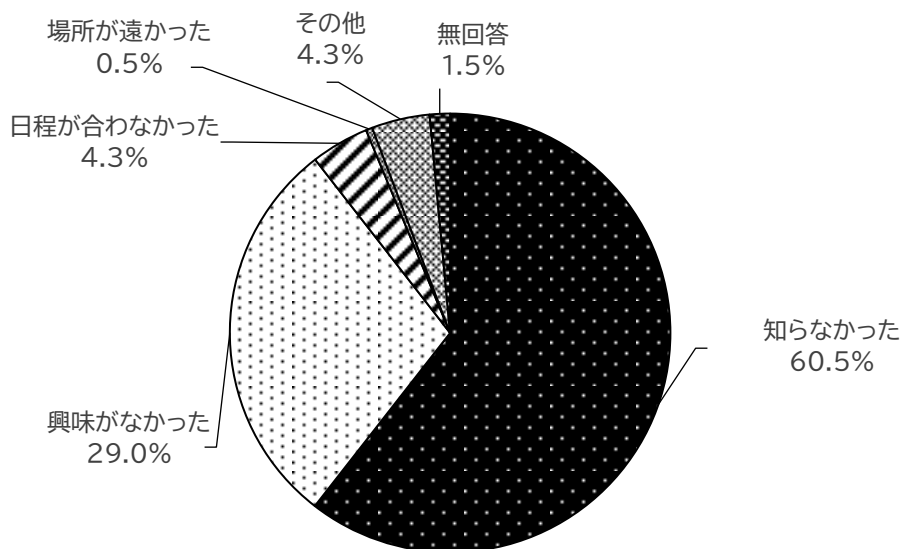
(4)参加しなかった理由

参加しなかったのは「知らなかった」からが6割を占める

問 27-2 その理由はどうしてですか。(問 27 で「いいえ」と答えた方、○はひとつ)

「知らなかった」が 60.5%で最も高く、次いで「興味がなかった」が 29.0%となっている。

図 参加しなかった理由(n=1,477)



10. 高齢者支援

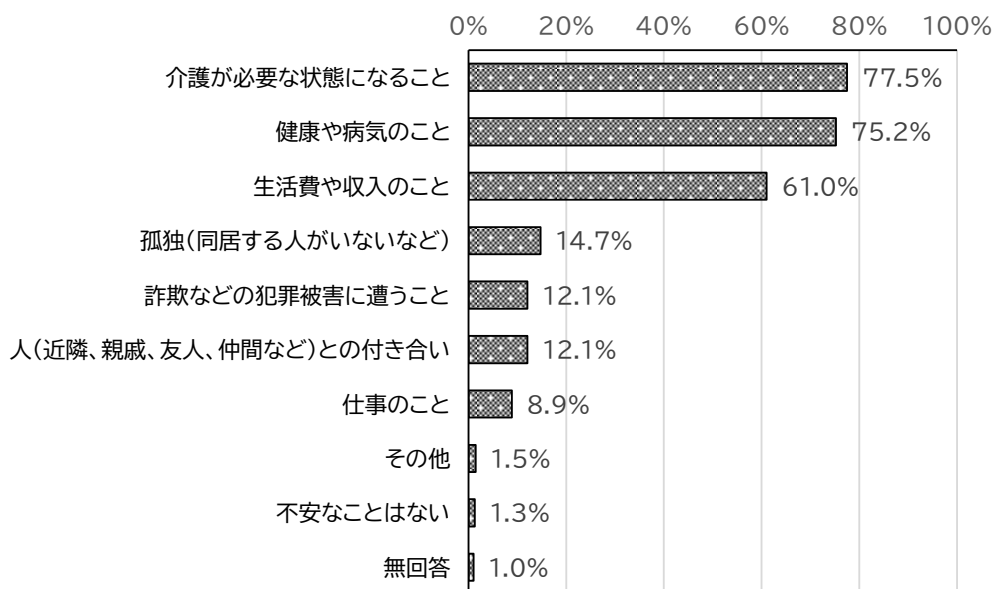
(1) 高齢者の生活で特に不安なこと

「介護が必要な状態になること」「健康や病気のこと」をそれぞれ7割以上が挙げている

問 28 高齢者の生活で特に不安なことは何ですか。高齢者でない方は、将来を想定してお答えください。
(〇は3つまで)

「介護が必要な状態になること」(77.5%)、「健康や病気のこと」(75.2%)をそれぞれ7割以上が挙げている。次いで「生活費や収入のこと」61.0%となっている。

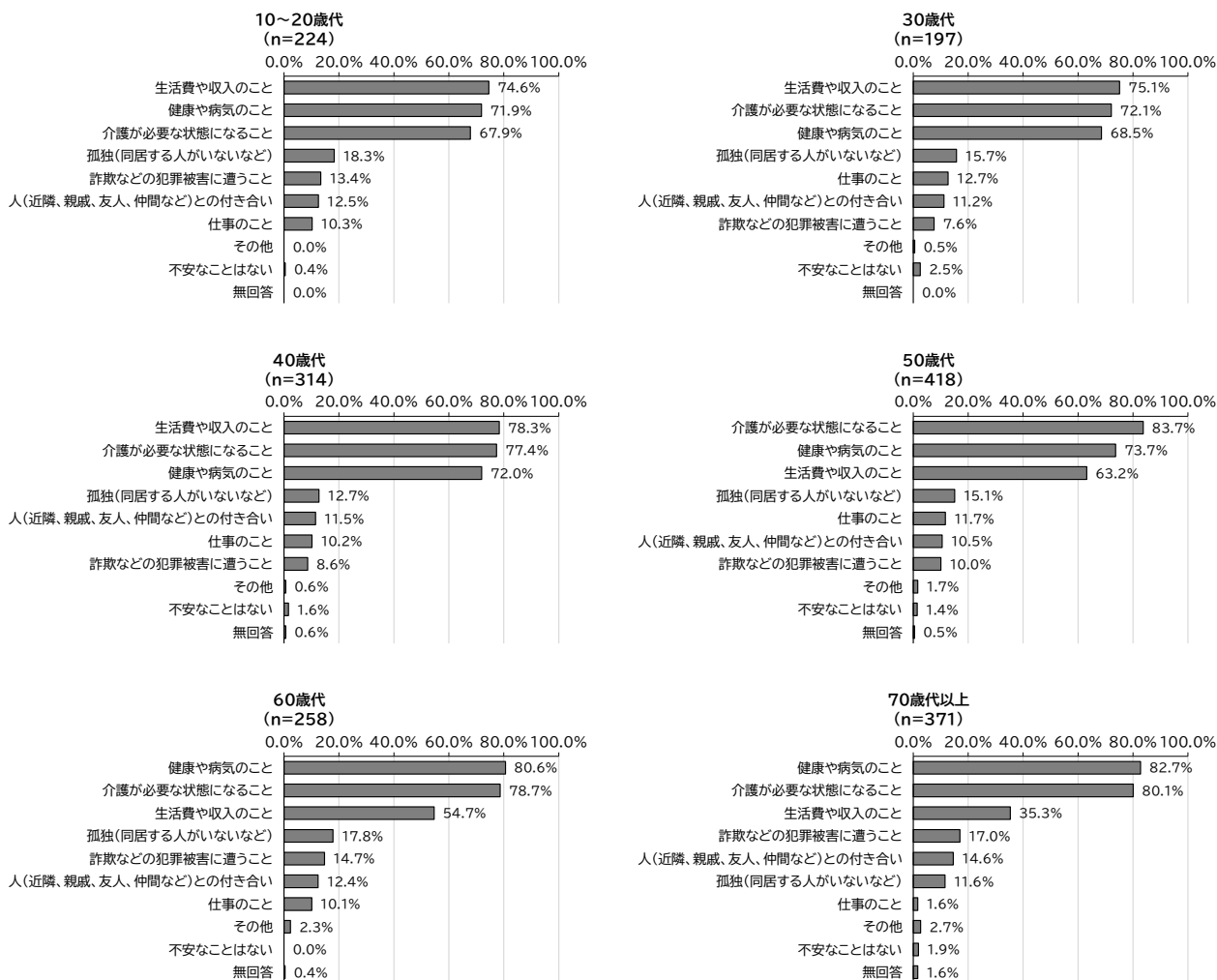
図 高齢者の生活で特に不安なこと(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

30 歳代までの年代では「生活費や収入のこと」、50 歳代では「介護が必要な状態になること」、60 歳代以上の年代では「健康や病気のこと」が最も高く、年代によって傾向が分かれた。

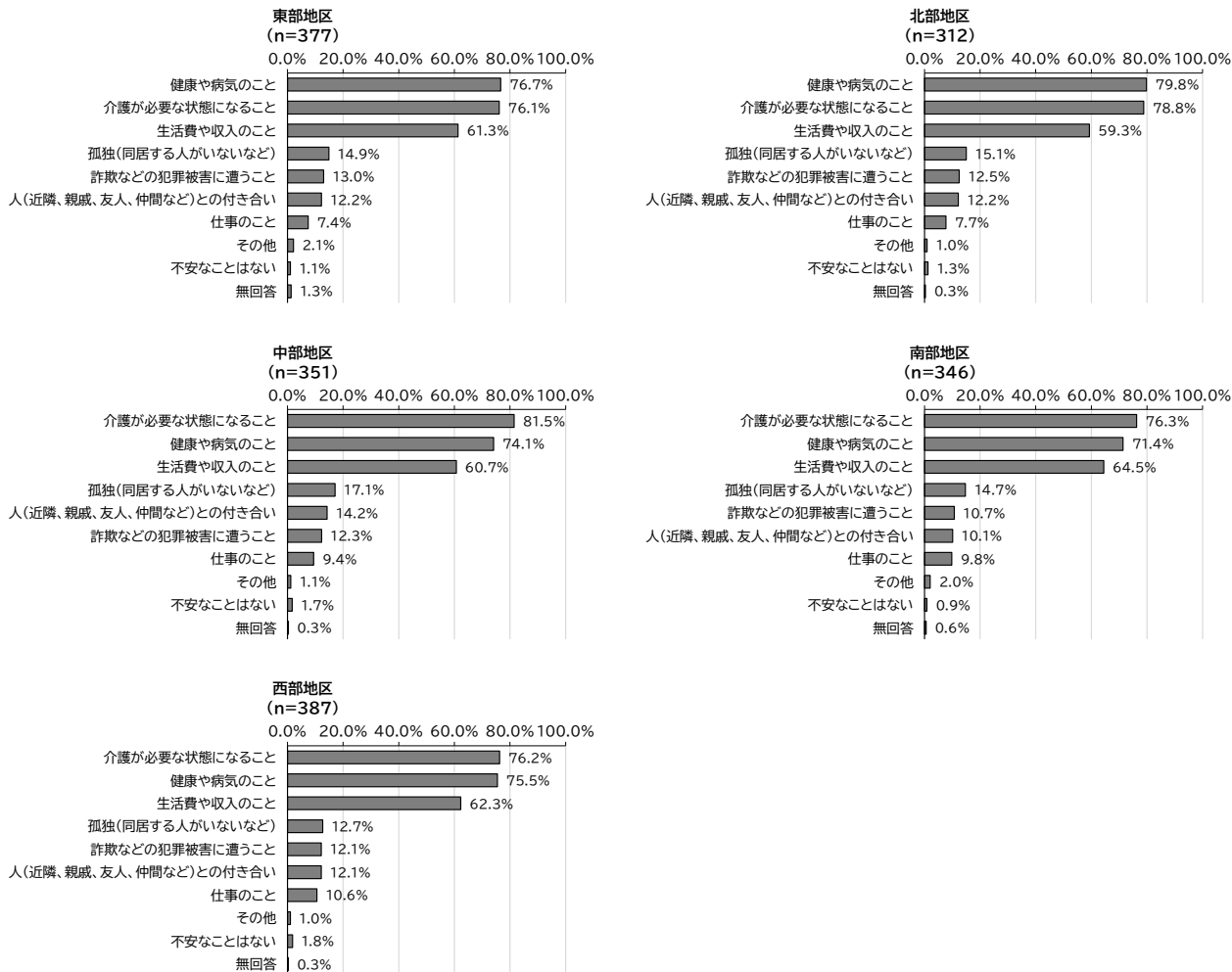
図 年代別 高齢者の生活で特に不安なこと



■ 地区別でみる特徴

東部地区と北部地区では「健康や病気のこと」、中部地区、南部地区、西部地区では「介護が必要な状態になること」が最も高くなっている。

図 地区別 高齢者の生活で特に不安なこと



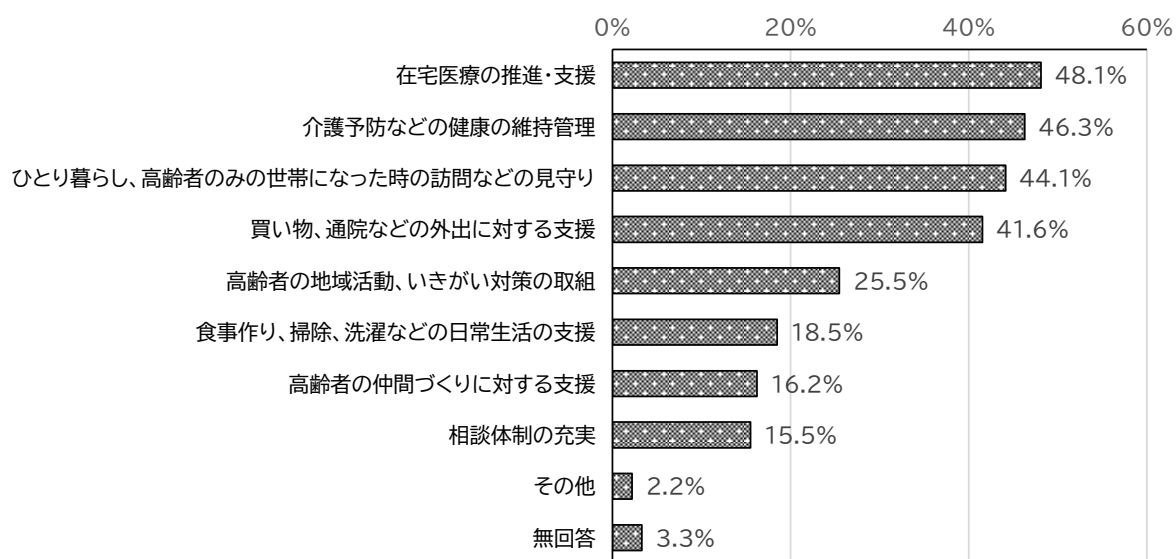
(2)高齢者に必要な支援や取組

「在宅医療の推進・支援」「介護予防などの健康の維持管理」「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問などの見守り」「買い物、通院などの外出に対する支援」をそれぞれ4割以上が挙げている

問 29 今後高齢者人口が増加する中でどのような支援や取組が必要だと考えますか。(〇は3つまで)

「在宅医療の推進・支援」が 48.1%で最も高く、「介護予防などの健康の維持管理」(46.3%)、「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問などの見守り」(44.1%)、「買い物、通院などの外出に対する支援」(41.6%)を4割以上が挙げている。

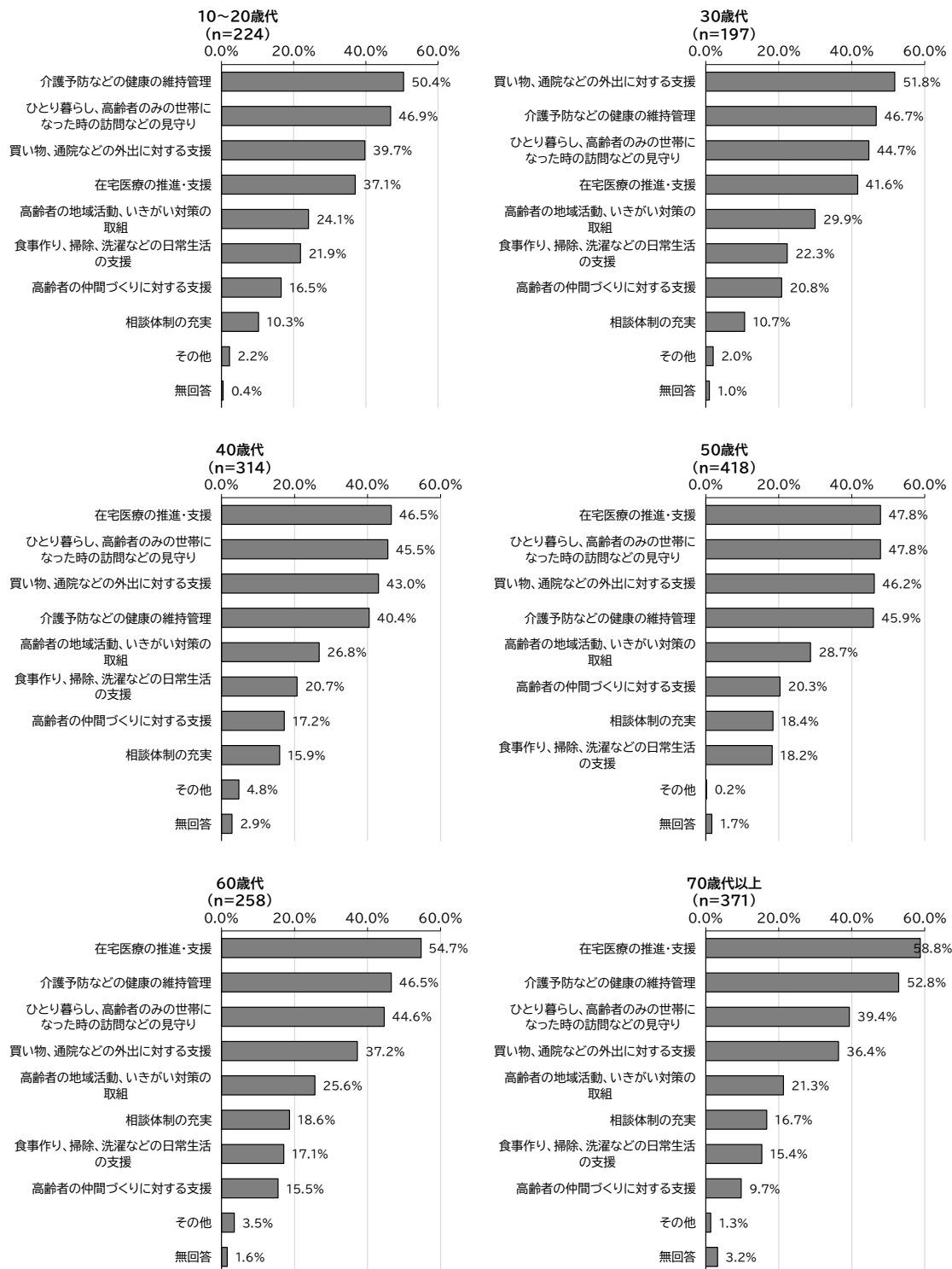
図 高齢者に必要な支援や取組(n=1,817)



■ 年代別でみる特徴

10～20歳代では「介護予防などの健康の維持管理」、30歳代では「買い物、通院などの外出に対する支援」、40歳以上の年代では「在宅医療の推進・支援」が最も高く、50歳代では「在宅医療の推進・支援」「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問などの見守り」が同率となっている。また、「在宅医療の推進・支援」の数値は年齢が上がるにつれて高くなっている。

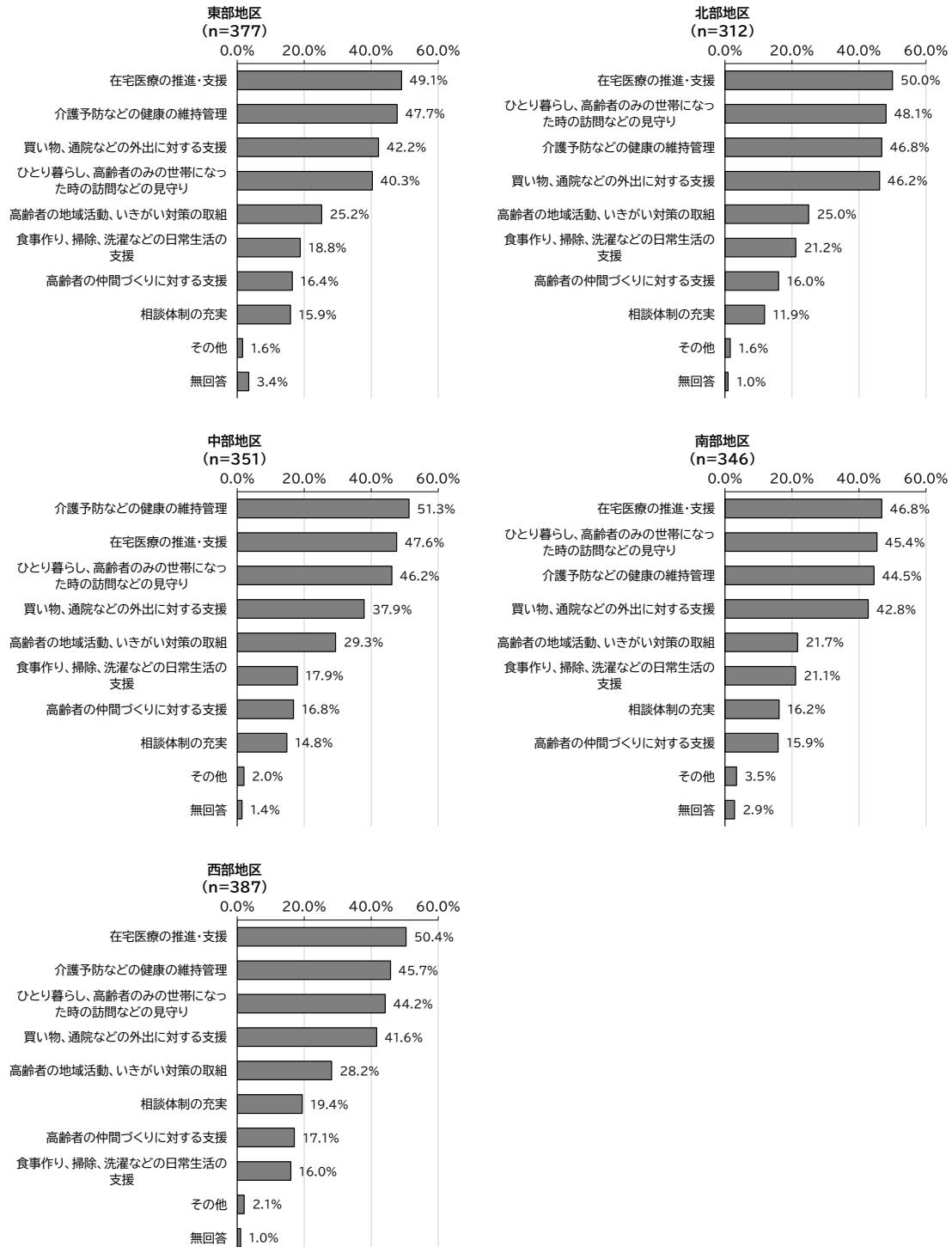
図 年代別 高齢者に必要な支援や取組



■ 地区別でみる特徴

中部地区では「介護予防などの健康の維持管理」、それ以外の地区では「在宅医療の推進・支援」が最も高くなっている。

図 地区別 高齢者に必要な支援や取組





令和5年度 都筑区区民意識調査 ご協力をお願い

この調査は、より良い区政の運営に向け、区民の皆さまの生活環境に対する意識や区政へのニーズなどをお伺いするものです。郵送またはインターネットでご回答ください。

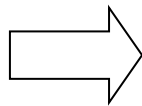
また、個人のお考えが直接外部に公表されることは一切ございませんので、率直なご回答をお願いいたします。なお、回答に要する時間は10分程度です。

<回答期限>

令和5年6月20日（火）まで

郵送で回答する場合

この調査票に回答を
直接記入



返信用封筒に入れ、期限までに
ポストに投函してください。

インターネットで回答する場合



QRコードから回答フォームにアクセスしてください。

アクセスコード：_____ 調査番号：_____

※6月21日以降はアクセスできません。

<https://tsuzukikuminishiki.city.yokohama.lg.jp/index.php/622587?newtest=Y&lang=ja>

◆お問合せ先◆

(都筑区区民意識調査業務委託会社) 株式会社 地域環境計画
住所：横浜市西区南幸2-9-9 アネックス横浜 213号室)
電話：0120-501-966
(7/24休) 平日 10:00~17:00)
電子メール：info@irp-yokohama.com
ファックス：045-314-6720

※この調査は、区内にお住まいの18歳以上の方々3,000人を無作為に抽出して実施しております。回答は無記名で行い、集計結果は統計的に処理をしますので、この調査により個人が特定されることはございません。集計した調査結果については、今後区のホームページなどで公開する予定です。

都筑区に対する居留意向についてうかがいます

問1 あなたは、都筑区にいつ頃からお住まいですか。(○はひとつ)

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 昭和 39 年 (1964 年) 以前 | 5 平成 7～平成 16 年 (1995～2004 年) |
| 2 昭和 40～49 年 (1965～1974 年) | 6 平成 17～平成 26 年 (2005～2014 年) |
| 3 昭和 50～59 年 (1975～1984 年) | 7 平成 27 年以降 (2015 年以降) |
| 4 昭和 60～平成 6 年 (1985～1994 年) | |

問2 あなたのお住まいは、この中のどれにあたりますか。(○はひとつ)

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 持ち家 (一戸建て) | 4 借家 (賃貸マンション、アパート、共同住宅) |
| 2 持ち家 (分譲マンション、共同住宅) | 5 社宅、寮、公務員住宅など |
| 3 借家 (一戸建て) | 6 その他 () |

問3 あなたが都筑区に来られる前にお住まいになっていたところはどこですか。(○はひとつ)

- | | |
|----------------------|-----------|
| 1 生まれてからずっと都筑区に住んでいる | 5 東京都 |
| 2 都筑区以外の横浜市内 | 6 その他の道府県 |
| 3 川崎市 | 7 海外 |
| 4 その他の神奈川県内 | |

(問3で2～7 を選択した方にお聞きします)

→ 問3-1 都筑区をお住まいとして選んだ理由は何ですか。(○は3つまで)

- | |
|--------------------------|
| 1 以前住んでいたことがある場所で愛着があるから |
| 2 自分や家族の持ち家だから |
| 3 家賃や住宅の価格が手頃だから |
| 4 通勤・通学に便利だから |
| 5 高齢者福祉、医療などの環境が整っているから |
| 6 子育ての環境が整っているから |
| 7 買い物や飲食を楽しめる環境が整っているから |
| 8 緑道や公園など、豊かな自然が身近にあるから |
| 9 自治会・町内会など地域のつながりが密接だから |
| 10 その他 () |

問4 あなたは、これからも都筑区に住みたいと思いますか。(○はひとつ)

- | | |
|-------------|------------|
| 1 ずっと住み続けたい | 4 よそへ移りたい |
| 2 当分は住み続けたい | 5 特に考えていない |
| 3 できれば移りたい | |

(問4で、1か2を選択された方にお聞きします)

→ 問4-1 都筑区に住み続けたい理由をお聞かせください。(○は3つまで)

- | |
|------------------------------|
| 1 生まれ育った場所、長年住んでいる場所で愛着があるから |
| 2 自分や家族の持ち家だから |
| 3 家賃や住宅の価格が手頃だから |
| 4 通勤・通学に便利だから |
| 5 高齢者福祉、医療などの環境が整っているから |
| 6 子育ての環境が整っているから |
| 7 買い物や飲食を楽しめる環境が整っているから |
| 8 緑道や公園など、豊かな自然が身近にあるから |
| 9 自治会・町内会など地域のつながりが密接だから |
| 10 その他 () |

通勤・通学の状況についてうかがいます

問5 あなたの職場または学校はどこですか。(○はひとつ)

1 自宅	5 市外(川崎市内)
2 自宅周辺の町内	6 市外(その他の神奈川県内)
3 都筑区内	7 東京都内(_____市・区・町・村)
4 都筑区以外の横浜市内(_____区)	8 その他の地域
	9 就業・就学はしていない

(問5で、2～8 を選択した方にお聞きします)

→ 問5-1 通勤・通学の交通手段は何ですか。(○はいくつでも)

1 バス	7 原動機付自転車
2 市営地下鉄(ブルーライン)	8 自動二輪車
3 市営地下鉄(グリーンライン)	9 自分が運転する自家用車
4 JR	10 家族が運転する自家用車
5 私鉄	11 徒歩のみ
6 自転車	12 その他(_____)

(問5で、2～8 を選択した方にお聞きします)

→ 問5-2 家を出てから職場または学校までの通勤・通学にかかる時間はどのくらいですか。(○はひとつ)

1 15分未満	3 30分～1時間未満	5 1時間30分～2時間未満
2 15分～30分未満	4 1時間～1時間30分未満	6 2時間以上

地域での日頃の生活についてうかがいます

都筑区には現在、123 の自治会町内会があり、地域で様々な活動を行っています。また、誰もが住みなれた地域で安心して暮らせることを目指して、区民、地域、団体、企業と区役所が、地域課題に対してともに取り組み、人との「であい ささえあい わかちあい」の仕組づくりを行っています。

問6 あなたは、自治会町内会に入っていますか。(○はひとつ)

1 入っている	3 今は入っていないが入ろうと考えている
2 以前は入っていたが今は入っていない	4 入っていない

問7 あなたが自治会町内会活動に期待することはどのような取組ですか。(○はいくつでも)

1 災害時や日頃の支え合い	7 消防団活動
2 防災活動	8 交通安全運動
3 防犯活動	9 地域のイベント(さくら祭り、夏祭り、運動会など)
4 子どもの見守り・子育て支援	10 回覧板などによる情報提供
5 高齢者の見守り・老人会活動	11 地域美化活動
6 地域での健康づくり	12 その他(_____)

問8 あなたは、隣近所に住んでいる人を知っていますか。(○はひとつ)

1 よく知っている	2 だいたい知っている	3 あまり知らない	4 まったく知らない
-----------	-------------	-----------	------------

問9 あなたは日頃、どの程度の近所づきあいをしていますか。(○はひとつ)

1 お互い困った時には助け合っている
2 お互いに訪問し合っている
3 立ち話をする程度
4 あいさつをする程度
5 ほとんど付き合いはない

問 10 近所で困っている方がいた時に、あなたが手伝うことができそうなものはありますか。
また、あなたが困った時にご近所から手伝ってほしいことはありますか。(○はいくつでも)

	①手伝うことができそう	②手伝ってほしいこと
(記入例) 各項目	○	
1 安否確認の声掛け		
2 買い物		
3 ごみ出し		
4 掃除・洗濯の手伝い		
5 ちょっとした力仕事		
6 話し相手や相談相手		
7 食事の差し入れ		
8 災害時の避難の手助け		
9 特になし		

問 11 身近な地域情報(地域のお祭り、乳幼児が参加できる教室、介護予防の講座、障害児・者施設の自主製品販売、イベントなど)の「①入手手段」について、○をつけてください。また、「②今後力を入れてほしい情報発信手段」に○をつけてください。

	①身近な地域情報の入手手段 (○はいくつでも)	②今後力を入れてほしい 情報発信手段(○はいくつでも)
(記入例) 各項目	○	
1 区のホームページ		
2 公共施設ホームページ(地区センター、地域ケアプラザ、子育て支援拠点、障害者施設など)		
3 自治会のホームページ		
4 Twitter		
5 ピアッツァ(※)		
6 LINE		
7 Instagram		
8 広報よこはま		
9 地域の回覧板・掲示板		
10 家族・友人などの口コミ		
11 その他()		

※ピアッツァとは…街に暮らす人同士が情報を発信し合う地域 SNS アプリです。

問 12 あなたは、以下の1～10の地域活動について、企画や運営(担い手としての参加)に関心がありますか。
関心のあるものに○をつけてください。(○はいくつでも)

1 まちの清掃・美化活動
2 フリーマーケット・バザーなどのエコ活動
3 おやじの会、同年代の集まり、趣味サークルなどの活動
4 コミュニティカフェや子ども食堂などの活動
5 高齢者の見守り、助け合い活動
6 フードバンク、募金などの孤立困窮した方への支援
7 お祭り、どんと焼きなどの地域の伝統的行事
8 防災訓練などの大規模災害を想定した防災イベント
9 国際交流・多文化共生活動
10 地域の人が集まり活動するための拠点となる施設づくり
11 その他()

都筑区の生活環境に関する重要度・満足度についてうかがいます

問 13 以下の1)～21)の項目について、

【1】 あなたにとって、どの程度重要ですか。

【2】 現在、どの程度満足していますか。

それぞれ〇はひとつだけ

各項目の【1】【2】
すべての該当する番号にひとつずつ〇印を
つけてください。(ヨコに計2つ〇)

(記入例) 各項目	【1】あなたの重要度					【2】あなたの満足度				
	重要	やや重要	どちらともいえない	あまり重要ではない	重要ではない	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
(記入例) 各項目	1	②	3	4	5	①	2	3	4	5
1) 電車の利便	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2) バスの利便	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
3) 車利用のための道路環境	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
4) 自転車利用のための道路環境	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
5) 歩行者のための道路環境	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
6) 車両の路上駐車や交通安全	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
7) 駅周辺などの放置自転車対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
8) 最寄り駅周辺のまちづくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
9) 駅舎のバリアフリーなど、誰もが移動しやすいまちづくり	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
10) 街並み景観	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
11) 防犯に対する意識や取組	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
12) 保育・学童など子育てのしやすさ	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
13) 学校教育の充実や青少年の健全育成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
14) 区民利用施設の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
15) 文化施設の整備や市民文化の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
16) スポーツの施設の整備やスポーツ振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
17) 日常の買い物の利便	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
18) 緑道や公園などの豊かな自然	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
19) 外国文化に身近に触れることのできる環境	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
20) テレワークなどに対応できるワークスペース(コワーキングスペースやレンタルオフィス等)の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
21) 以上を総合して、都筑区の住み心地						1	2	3	4	5

問 13-1 問 13 の1)～20)の中で、区外の方に自慢できる都筑区の魅力はどの項目だと思いますか。

(番号は3つまで) なお、1)～20)に該当するものがない場合は、自由記入欄へご記入ください。

--	--	--

自由記入欄(該当するものがない場合)

--

災害対策についてうかがいます

横浜市や都筑区では、災害に関する各種情報を様々な媒体を活用して情報発信しており、テレビやラジオ以外にも各種情報を得ることができます。

問 14 あなたは、災害に関する情報をどのような手段で得ていますか。(〇はいくつでも)

- 1 テレビ
- 2 ラジオ
- 3 インターネットのニュースサイト
(Yahoo!、Google、ライブドアや新聞社などの運営するニュースサイト)
- 4 市や区のホームページ
(総務局危機管理室や都筑区のアカウントから防災緊急情報を確認できます)
- 5 民間企業の防災アプリ
(Yahoo!防災、NHK ニュース・防災、特務機関 NERV 防災などのアプリ)
- 6 横浜市避難ナビ (※)
(横浜市が提供するアプリで、避難行動を平時である「いま」から災害時である「いざ」まで一体的にサポートできます)
- 7 横浜市防災情報Eメール
(登録したパソコン・スマートフォン・携帯電話に、電子メールで横浜市からの防災緊急情報を配信します)
- 8 その他 ()

※横浜市避難ナビは、平時である「いま」から災害時である「いざ」まで一体的にサポートするアプリです！
右のQRコードからダウンロードができますので、ぜひご活用ください！



【iOS 版】



【Android 版】

問 15 あなたやあなたの家族は、地震や風水害があった場合に備えて、どのような対策をしていますか。
(〇はいくつでも)

- 1 家具（タンス、食器棚など）の転倒防止
- 2 ハザードマップを活用した近くの危険箇所（浸水想定区域、崖地など）の確認
- 3 3日分以上の食料や飲料水の備蓄（1人3日分の飲料水の目安は9リットル以上）
- 4 3日分以上のトイレパックの備蓄（1人3日分の目安は15個以上）
- 5 日用品（衣料品、おむつ、歯ブラシ、ウェットティッシュなど）や常備薬の準備
- 6 5日分以上のペットの防災用品の備蓄（フード、水、薬、ペットシートなど）
- 7 家族との連絡方法の確認
- 8 近くの学校や公園などの避難所・避難場所（地域防災拠点、広域避難場所など）の確認
- 9 近所の人との日頃からの顔の見える関係作り（あいさつ、日頃の声かけ）
- 10 防災訓練への参加
- 11 マイ・タイムライン (※)（台風や大雨時における一人ひとりの避難行動計画）の作成
- 12 その他 ()
- 13 特になし

※マイ・タイムラインの詳細についてはこちら⇒
問 14にある横浜市避難ナビでも作成できます。



問 16 あなたやあなたと一緒に住んでいる家族に、災害時要援護者(※)の方はいらっしゃいますか。(○はひとつ)
※災害時要援護者とは、災害時に何らかの助けが必要になる方(高齢者、障害者、妊婦、乳幼児、傷病者など自力では避難が困難と思われる方)を指します。

- | | |
|---|-----|
| 1 | はい |
| 2 | いいえ |

(問 16 で「はい」と答えた方にお聞きします)

→問 16-1 あなたやあなたと一緒に住んでいる家族で、災害発生時の対応としてあてはまるものに○をしてください。(○はいくつでも)

- | | |
|---|---|
| 1 | 自力で避難、または家族と一緒に避難をする |
| 2 | 近所の方が避難を手伝ってくれることになっている |
| 3 | 近所の方の助けを借りたいと思っているが、どうしたらいいかわからない |
| 4 | 地域による避難支援の取組(※)に登録している |
| 5 | 地域による避難支援の取組があれば登録したいと思うが、どうしたらいいかわからない |
| 6 | あまり災害時のことを想定していない |

※都筑区の災害時要援護者支援に関する取組についてはこちら⇒



健康づくりについてうかがいます

問 17 1日2回以上、主食・主菜・副菜すべてを食べることは週に何日ありますか。(○はひとつ)

- | | |
|---|----------|
| 1 | 毎日食べる |
| 2 | 週4～6日食べる |
| 3 | 週2～3日食べる |
| 4 | ほとんど食べない |

問 18 この1年間で「息がはずみ汗をかく程度」の運動を、1回30分以上、週に2回以上行っていますか。(○はひとつ)

- | | |
|---|-----|
| 1 | はい |
| 2 | いいえ |

問 19 この1年間に歯科健診を受けましたか。(○はひとつ)

- | | |
|---|-----|
| 1 | はい |
| 2 | いいえ |

問 20 過去2年間でがん検診を受けましたか。また、受けた方はどのような検診を受けましたか。(○はいくつでも)

- | | |
|---|--|
| 1 | 肺がん(胸部X線検査、胸部CT検査など) |
| 2 | 大腸がん(便潜血検査(いわゆる「検便」)、大腸内視鏡検査など) |
| 3 | 胃がん(胃部X線検査(いわゆる「バリウム」)、胃内視鏡検査(いわゆる「胃カメラ」)など) |
| 4 | 子宮頸がん(内診、超音波(エコー)検査など) |
| 5 | 乳がん(マンモグラフィ、超音波(エコー)検査など) |
| 6 | 前立腺がん(PSA検査(血液)など) |
| 7 | その他(_____) |
| 8 | 何も受けていない |

問 21 都筑区では区内で取れた新鮮でおいしい野菜や果物、卵などの食材を「都筑野菜」としてPRしています。
あなたは、過去1年間で都筑野菜を購入したことがありますか。(○はひとつ)



都筑野菜 HP

- 1 はい
- 2 いいえ
- 3 わからない

(問 21 で「はい」と答えた方にお聞きします)

▶ 問 21-1 購入場所はどちらですか。(○はいくつでも)

- 1 農家直営の直売所
- 2 JA 横浜「ハマッ子」都筑中川店・メルカートきた店
- 3 スーパーマーケット
- 4 コンビニエンスストア
- 5 通信販売やインターネット
- 6 その他 ()

子ども・子育て支援についてうかがいます

都筑区は、市内で最も子どもの割合が高い区であり、子ども・青少年が健やかに育ち、子育てがしやすいと実感できるまちづくりを目指し、妊娠期から青少年期までの様々な子育て支援に取り組んでいます。

問 22 あなたの子育ての経験について、あてはまるものを選んでください。(○はひとつ)

- 1 現在子育て中 (18歳未満の子)
- 2 経験がある
- 3 子どもが生まれる予定
- 4 ない

問 23 子育てをするにあたり、どのような情報があると役に立つと思いますか。(○は3つまで)

- 1 医療機関情報(産科、小児科等)
- 2 保育所など子どもを預けられる施設や放課後キッズクラブなど放課後児童の居場所に関する情報
- 3 子どもとその家族が気軽に集まる広場やサロンの開催に関する情報
- 4 子育ての経験者から気軽に話を聞ける場・機会に関する情報
- 5 専門のスタッフによる相談ができる場・機会に関する情報
- 6 子育てに関する講演・講座の開催に関する情報
- 7 子ども向けのイベントや親子で参加できるイベントに関する情報
- 8 その他 ()

問 24 子育てをするにあたり、どのような取組があるとよいと思いますか。(○は3つまで)

- 1 身近な場所での子育てに関する相談窓口や居場所の充実(保育園の園庭開放、地域子育て支援拠点、親と子のつどいの広場など)
- 2 相談しやすい行政窓口(LINE相談、オンライン相談など)
- 3 地域で子育てを支える仕組みづくり(地域の中で子どもを預けたり預かったりする仕組みの推進、地域の人とのつながりづくりなど)
- 4 身近な場所での乳幼児期の子どもについてのイベント(地域ケアプラザ、育児講座の開催、仲間づくりへの支援など)
- 5 その他 ()

問 25 子どもに関する居場所・施設について、どのような取組があるとよいと思いますか。(○は3つまで)

- 1 買い物やリフレッシュに利用できる預かり施設の増加 (一時保育・一時預かりなど)
- 2 通いやすい場所の保育施設の設置
- 3 放課後児童の居場所の増加
- 4 子どもの習い事ができる施設の増加
- 5 親子で遊びに行ける居場所の増加
- 6 その他 ()

障害児・者理解についてうかがいます

問 26 障害児・者と交流する機会を持ったことがありますか。(○はひとつ)

- 1 はい
- 2 いいえ

問 27 障害や疾病などに対する理解を深めるためのイベントや啓発活動に参加したことがありますか。(○はひとつ)

- 1 はい
- 2 いいえ

(問 27 で「はい」と答えた方にお聞きします)

→ 問 27-1 具体的にどのようなイベントに参加したことがありますか。(○はいくつでも)

- 1 障害や障害のある人をテーマにした講演会
- 2 障害のある人によるコンサート
- 3 障害のある人とともに行うスポーツ
- 4 福祉バザー
- 5 障害のある人の写真展
- 6 障害のある人が作成した作品展
- 7 その他 ()

(問 27 で「いいえ」と答えた方にお聞きします)

→ 問 27-2 その理由はどうしてですか。(○はひとつ)

- 1 知らなかった
- 2 日程が合わなかった
- 3 場所が遠かった
- 4 興味がなかった
- 5 その他 ()

高齢者支援についてうかがいます

問 28 全員にお聞きします。

高齢者の生活で特に不安なことは何ですか。高齢者でない方は、将来を想定してお答えください。
(○は3つまで)

- 1 健康や病気のこと
- 2 介護が必要な状態になること
- 3 生活費や収入のこと
- 4 仕事のこと
- 5 孤独 (同居する人がいないなど)
- 6 詐欺などの犯罪被害に遭うこと
- 7 人 (近隣、親戚、友人、仲間など) との付き合い
- 8 その他 ()
- 9 不安なことはない

問 29 今後高齢者人口が増加する中でどのような支援や取組が必要だと考えますか。(○は3つまで)

- 1 介護予防などの健康の維持管理
- 2 在宅医療の推進・支援
- 3 買い物、通院などの外出に対する支援
- 4 食事作り、掃除、洗濯などの日常生活の支援
- 5 ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問などの見守り
- 6 高齢者の仲間づくりに対する支援
- 7 高齢者の地域活動、いきがい対策の取組
- 8 相談体制の充実
- 9 その他()

問 30 今回の調査でわかりづらかった設問や答えづらかった設問などがありましたら、ご記入ください。

あなた自身についてうかがいます

F1 あなたの性別にあてはまると、ご自身で思うものを選んでください。(○はひとつ)

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

F2 あなたの年齢にあてはまるものを選んでください。(○はひとつ)

- | | | | |
|-----------|-----------|------------|----------|
| 1 18歳～19歳 | 5 35歳～39歳 | 9 55歳～59歳 | 13 75歳以上 |
| 2 20歳～24歳 | 6 40歳～44歳 | 10 60歳～64歳 | |
| 3 25歳～29歳 | 7 45歳～49歳 | 11 65歳～69歳 | |
| 4 30歳～34歳 | 8 50歳～54歳 | 12 70歳～74歳 | |

F3 あなたの住んでいる町は次のうちどれですか。(○はひとつ)

【あ行】	1 あゆみが丘	9 牛久保西三丁目	17 荇田東三丁目	25 大熊町
	2 池辺町	10 牛久保西四丁目	18 荇田東四丁目	26 大圃町
	3 牛久保町	11 牛久保東一丁目	19 荇田南町	27 大圃西
	4 牛久保一丁目	12 牛久保東二丁目	20 荇田南一丁目	28 大丸
	5 牛久保二丁目	13 牛久保東三丁目	21 荇田南二丁目	29 折本町
	6 牛久保三丁目	14 荇田東町	22 荇田南三丁目	
	7 牛久保西一丁目	15 荇田東一丁目	23 荇田南四丁目	
	8 牛久保西二丁目	16 荇田東二丁目	24 荇田南五丁目	
【か行】	30 加賀原一丁目	35 勝田南二丁目	40 北山田二丁目	45 北山田七丁目
	31 加賀原二丁目	36 川向町	41 北山田三丁目	46 葛が谷
	32 勝田町(勝田団地)	37 川和町	42 北山田四丁目	
	33 勝田町(32以外)	38 川和台	43 北山田五丁目	
	34 勝田南一丁目	39 北山田一丁目	44 北山田六丁目	
【さ行】	47 佐江戸町	48 桜並木	49 新栄町	50 すみれが丘
【た行】	51 高山	55 茅ヶ崎東二丁目	59 茅ヶ崎南一丁目	63 茅ヶ崎南五丁目
	52 茅ヶ崎中央	56 茅ヶ崎東三丁目	60 茅ヶ崎南二丁目	
	53 茅ヶ崎町	57 茅ヶ崎東四丁目	61 茅ヶ崎南三丁目	
	54 茅ヶ崎東一丁目	58 茅ヶ崎東五丁目	62 茅ヶ崎南四丁目	
【な行】	64 中川一丁目	69 中川六丁目	74 長坂	79 仲町台五丁目
	65 中川二丁目	70 中川七丁目	75 仲町台一丁目	80 二の丸
	66 中川三丁目	71 中川八丁目	76 仲町台二丁目	
	67 中川四丁目	72 中川中央一丁目	77 仲町台三丁目	
	68 中川五丁目	73 中川中央二丁目	78 仲町台四丁目	
【は行】	81 早瀬一丁目	84 東方町	87 東山田二丁目	90 平台
	82 早瀬二丁目	85 東山田町	88 東山田三丁目	91 富士見が丘
	83 早瀬三丁目	86 東山田一丁目	89 東山田四丁目	
【ま行】	92 南山田町	94 南山田二丁目	96 見花山	
	93 南山田一丁目	95 南山田三丁目		

F4 あなたの最寄りの駅(もしくは最も利用する駅)はどこですか。(○はひとつ)

1 あざみ野	8 東山田	15 市が尾
2 中川	9 北山田	16 江田
3 センター北	10 都筑ふれあいの丘	17 たまプラーザ
4 センター南	11 川和町	18 鷺沼
5 仲町台	12 小机	19 日吉
6 新羽	13 鴨居	20 綱島
7 新横浜	14 中山	21 その他 (_____)

F5 あなたは同居している方がいらっしゃいますか。あてはまるものを、すべて選んで○をつけてください。

1 いない (一人暮らし)	2 配偶者	3 ご自身の子ども
4 ご自身または配偶者の親	5 孫	6 祖父母
7 その他 (_____)		

(F5で、2～7を選択した方にお聞きします。)

F5-1 あなたも含めて、同居している方には、次の方がいらっしゃいますか。(それぞれに○はひとつ)

1) 子ども (未就学児)	1 いる	2 いない
2) 小学生	1 いる	2 いない
3) 中学生・高校生	1 いる	2 いない
4) 高齢者 (65 歳以上)	1 いる	2 いない

F6 あなたのご職業はなんですか。(○はひとつ)

1 正社員・正職員 (公務員・団体職員含む)	5 専業主婦・専業主夫
2 自営業 (商店経営、農業、開業医など)	6 学生
3 契約社員・嘱託社員・派遣社員	7 就業していない
4 パート・アルバイト	8 その他 (_____)

お疲れ様でした。質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ、6月20日(火)までにご投函ください。

※ 切手の貼付は不要です。

※ 返信用封筒には住所氏名を記入しないでください。

令和5年 12月 発行

令和5年度 都筑区区民意識調査

横浜市都筑区役所 総務部 区政推進課 企画調整係

〒224-0032 横浜市都筑区茅ヶ崎中央 32-1

TEL:045-948-2226

FAX:045-948-2399